下関市立市民病院　年報

第 3 巻

平成 26 年度

地方独立行政法人
下関市立市民病院
SHIMONOSEKI CITY HOSPITAL

目　次

はじめに　・・・・・ 2
病院の沿革　・・・・・ 3
下関市立市民病院組織図　・・・・・ 7
委員会組織図　・・・・・ 8
各部門の活動状況
　内　　科　・・・・・ 9
　血 液 内 科　・・・・・ 10
　腎 臓 内 科　・・・・・ 11
　ペインクリニック内科　・・・・・ 17
　循環器内科　・・・・・ 18
　消化器内科　・・・・・ 19
　小　児　科　・・・・・ 21
　外　　科　・・・・・ 24
　呼吸器外科　・・・・・ 31
　脳神経外科　・・・・・ 33
　心臓血管外科　・・・・・ 35
　小 児 外 科　・・・・・ 38
　整 形 外 科　・・・・・ 39
　リハビリテーション科　・・・・・ 43
　皮　膚　科　・・・・・ 49
　泌 尿 器 科　・・・・・ 50
　産 婦 人 科　・・・・・ 52
　眼　　科　・・・・・ 55
　耳鼻咽喉科　・・・・・ 56
　放射線診断科　・・・・・ 58
　放射線治療科　・・・・・ 59
　麻　酔　科　・・・・・ 61
　救急センター　・・・・・ 62
　救命センター　・・・・・ 63
　病理診断科　・・・・・ 64
　歯科・歯科口腔外科　・・・・・ 66
　看　護　部　・・・・・ 69
　放 射 線 部　・・・・・ 84
　検　査　部　・・・・・ 86
　臨床工学部　・・・・・ 92
　栄養管理部　・・・・・100
　薬　　局　・・・・・104
　地域医療連携室　・・・・・107
　医療安全対策室　・・・・・110
　ドクターズクラーク室　・・・・・116
審議会・委員会、部会活動報告
　薬事審議会　・・・・・117
　感染管理委員会　・・・・・118
　保険委員会　・・・・・123
　輸血療法委員会　・・・・・124
　治験審査委員会　・・・・・128
　検体検査管理委員会　・・・・・130
　診療録管理委員会　・・・・・132
　安全管理委員会　・・・・・133
　褥瘡対策委員会　・・・・・137
　栄養管理委員会　・・・・・139
　広報年報委員会　・・・・・141
　衛生委員会　・・・・・143
　倫理委員会　・・・・・144
　研修管理委員会　・・・・・145
　CS 推進委員会　・・・・・147
　クリニカルパス推進委員会　・・・148
　NST 運営委員会　・・・・・151
　ボランティア活動　・・・・・152
　出前講座　・・・・・153

はじめに

院　長　　小　柳　信　洋

平成 24 年 4 月から歩み始めた地方独立行政法人「下関市立市民病院」ですが、平成 25 年度の決算は 24 年度に引き続き約 3 千万円の赤字決算となりました。最初から予想された決算結果ではありましたが、理事長としてはやはり胃が痛むような日々でありました。

ただ、救いは病院職員の意識にこれまでの公務員ではなく自分たちの病院のためにという思いが感じられてきたことであり、また市民病院は変わったという市民の声であり、若い新卒の看護師達の応募が増えてきたという事実でした。病院経営における拭いきれない不安の一方で、そうした職員の熱気を感じながらの独法化 3 年目の平成 26 年度でしたが、喜ばしいこととして看護師数が順調に増え、6 月には念願の 7 対 1 看護体制を取得することができました。しかしながら、事務手続き上の遺漏により DPC 準備病院から 26 年度の認可病院への移行が出来なかったことはとても残念なことでありました。ともに病院経営上大きなメリットとなる制度であり、あらためて病院事務局の体制強化が必要であることを痛感しました。なお、医療機器購入については、当初の計画通り 24 年度 4 億円、25 年度以降は年 2 億円を維持し、職員のモチベーションに係わる投資であると感じています。

平成 25 年度は診療収入で 4 億円の増収となりましたが。これは入院患者数の増加（24 年度　平均 301 人、25 年度 296 人）のためではなく、入院単価（24 年度 47,600 円、25 年度 51,240 円）の上昇のためでありました。病院経営の健全化のためには、診療単価をいかに上げていくかに尽きるような気がしています。

平成 26 年はプライベートにもおおきな波風を経験したところです。生まれて初めての入院生活を余儀なくされました。健康に不安を抱えたまま理事長の重責を担うことは無理なことであり、平成 27 年 3 月末で退職することにいたしました。平成 13 年度から 14 年間の奉職でありましたが。病院職員の皆様はもちろん下関市の職員の皆様、また下関市医師会や登録医の先生方には暖かいご支援を頂きました。心より御礼申し上げます。

年報のご報告をするのは最後になるかと思いますので、26 年度の決算予想を報告させていただきますと、診療収入が 79 億円余であり 25 年度に比較して 5 億円余の増加が予想されています。その結果、決算予想でも約 2 億円の黒字となっており、独法化 3 年目でようやく黒字化が達成できることは、理事長としての責任の一端は果たせたと思います。14 年間本当に有難うございました。

病院の沿革

明治34年12月　下関市立高尾病院（伝染病院）開設
明治45年　衛生試験所
大正15年 4月　高尾病院改築
昭和 8年 5月　下関市立診療所併設
昭和22年 8月　下関市立診療所を病院に改める。（名称は以前の名称を使用　医師５名）
昭和23年 6月　下関市立診療所小月分院開設
昭和23年 6月　日本医療団下関病院を買収、下関市立病院として発足
昭和25年 1月　下関市立中央病院　初代院長　常松順介就任
昭和25年 3月　下関市立高尾病院、下関市立診療所と下関市立病院を統合し、下関市立中央病院として発足（医師９名）
一般 53 床、結核 51 床、伝染 50 床、下関市立病院を下関市立中央病院付属新町診療所に改称（13 床）
昭和25年 6月　長府診療所設置
昭和25年10月　耳鼻咽喉科新設
昭和26年 1月　第２代院長　浜崎邦夫就任
昭和26年 4月　弟子待仮診療所設置
昭和26年 8月　新町診療所病室設置（６室９床）
昭和28年 3月　弟子待仮診療所廃止
昭和28年 6月　小月（14 床）、長府（８床）隔離病舎廃止
昭和29年12月　小月診療所廃止
昭和30年10月　吉田、王喜伝染病院隔離病舎廃止
昭和31年 1月　長府診療所廃止
昭和32年 7月　伝染病院２階建（53 床）増築
昭和33年 1月　新町診療所を増設、下関市立中央病院新町分院として開設（30 床）、基準給食実
昭和33年10月　施
基準給食、基準看護実施２類
本院　医師 12 名　看護婦 36 名
新町分院　基準看護実施２類
昭和35年 3月　分院　医師 ３名　看護婦 11 名
昭和35年 7月　分院改築（２病棟）
昭和36年 3月　本院、分院保険医療機関指定、分院基準看護１類に変更
昭和36年 8月　新築（本院）190 床（分院 30 床）、結核 51 床、伝染 53 床
昭和37年 4月　本院１類に変更（結核は２類）
昭和37年 4月　地方公営企業法の一部適用
結核４４床に変更
昭和38年 1月　総合病院の名称使用許可（県）
昭和38年 4月　身体障害者福祉法に基づく指定（耳鼻科、眼科）

昭和38年11月　診療及び公衆衛生に関する実施修練病院の指定
昭和39年 4月　第３代院長　亀田五郎就任
昭和40年 1月　病院開設許可申請事項一部変更許可
一般 304 床、結核 36 床、伝染 53 床、合計 393 床、(76 床増床)
昭和40年 2月　救急病院指定（救急専用優先病院 10 床）
昭和41年 3月　新町分院廃止
昭和41年 6月　健康保険法による基準寝具の実施について承認
昭和42年 3月　新館 150 床（改築 74 床、増築 76 床）増改築完成
昭和42年 4月　消化器科、循環器科、脳神経外科の３科を新設
昭和42年 9月　上田中町医師公舎（16 戸）完成
昭和44年 6月　人工腎臓室を設ける
昭和46年 3月　大学町医師公舎（８戸）完成
昭和46年 4月　呼吸器科、神経精神科、理学診療科の３科を新設 19 科となる
昭和47年 5月　健康保険法による基準看護特類承認
昭和49年 7月　外科病棟２単位制実施
昭和49年 9月　内科病棟２単位制実施
昭和49年 9月　病院用地取得 71.96 ㎡（向洋町２丁目 10-53）
昭和50年 2月　院内保育所開設（にこにこ保育園運営委員会）
昭和50年 4月　健康保険法による基準看護甲表特２類承認’（結核、甲表２類）
昭和50年 4月　診療科目 20 科となる。神経精神科を神経科、精神科に分ける。
昭和51年 4月　医師 30 名、医療技師 34 名、看護婦 195 名、事務 50 名、職員定数 309 名、病棟２－８体制実施
昭和52年 4月　医師 30 名、医療技師 35 名、看護婦 200 名、事務 50 名、職員定数 315 名
昭和54年 3月　呼吸器科外科、心臓血管外科、小児外科の３科を新設 23 科となる
昭和56年 1月　結核病床 36 床一般病床へ転床
昭和56年 7月　特定病床 15 床承認
昭和59年 5月　移転改築に係る新病院開設許可（一般 430 床・伝染 30 床）
昭和60年 4月　第４代院長　四宮　衛就任
昭和61年 3月　新病院建設起工式
昭和63年 3月　新病院完成
昭和63年 4月　新病院における診療開始（一般 430 床のうち 377 床・感染症 30 床）
平成元年 4月　第５代院長　徳永正晴就任
平成元年 4月　閉鎖部分の一般 53 床の診療開始
平成元年 6月　内科外来の予約診療制実施
平成元年 8月　登録医制度実施
平成元年 9月　基準看護（特３類）一般６棟 212 床、(特２類）一般 248 床承認
平成 2年 7月　外科、整形外科外来の予約診療制実施
平成 4年 4月　臨床研修病院の指定
平成 4年 6月　基準看護（特３類）一般７棟 265 床、(特２類）一般 195 床変更承認
平成 4年10月　外来全科の予約診療制実施

平成 5年 4月　週休２日制導入
平成 5年 7月　人間ドック受診者ホテル宿泊実施
平成 6年10月　中華人民共和国青島市市立医院と友好病院締結
平成 7年 6月　新看護（２対１看護Ａ）体制実施　11 単位　460 床
平成 7年 7月　入院時食事療法特別管理加算実施
平成 8年 4月　第６代院長　赤尾元一就任
平成 8年 4月　夜間勤務看護加算実施
平成 8年 6月　ＭＲ棟（増築）完成
平成 8年 7月　ＭＲを更新、ＣＴを増設する。又、脳ドック、肺癌ドックを創設
平成 9年 2月　理学療法科をリハビリテーション科へ診療名を変更し歯科口腔外科を追加し
24 科に
平成 9年 3月　透析センター（増築）完成
平成 9年 3月　外来駐車場を 40 台分増設
平成 9年 3月　旧ＮＨＫ下関支局局舎取得
平成 9年 6月　新病院開設 10 周年記念講演会開催
平成10年 3月　新病院開設 10 周年記念誌発行
平成10年 4月　災害拠点病院の指定
平成10年10月　病院情報システム導入委員会の設置
平成11年 3月　心臓部血管連続撮影装置更新
無菌室完成
平成11年 4月　感染症医療機関（感染症２類）の指定
感染症病床数 30 床から６床へ減床
感染症病棟を１階東病棟へ変更（一般９床、感染症６床）
平成11年11月　中央採血室増築工事開始
１階東病棟へ普通個室４室増加
平成12年 3月　中央採血室増築工事完成
多目的血管連続撮影装置更新
平成12年10月　病院情報システム稼動（一次）
平成13年 3月　病院情報システム稼動（二・三次）
平成13年 4月　第７代院長　小柳信洋就任
平成13年 4月　外科、整形外科外来の予約診療制実施
院外処方開始
平成14年 4月　蓋井島診療開始
平成15年 1月　病院機能評価受審（平成 15 年８月認定）
平成16年 3月　救急センター改修（外来化学療法室の設置）
平成17年10月　ＣＴを更新（６４列マルチスライス）
平成18年 4月　看護職員配置基準　１０対１体制（制度変更による）
平成18年 8月　地域がん診療連携拠点病院の指定
平成20年 2月　ＥＳＣＯ事業供用開始（ＥＳＣＯ事業：下関市立中央病院省エネルギー化事業）
平成20年 3月　リニアック室増築完成、リニアック装置更新

平成20年 6月　病院機能評価（Ｖｅｒ5.0）受審（平成20年8月認定）
平成23年 2月　電子カルテシステム稼動
平成23年 3月　地方独立行政法人下関市立市民病院定款議決
平成23年12月　地方独立行政法人化関連条例議決
平成24年 2月　法人認可取得
平成24年 4月　地方独立行政法人下関市立市民病院設立（下関市立市民病院開設）
平成24年 4月　ＤＰＣ準備病院、医療費預かり金制度開始
平成25年 3月　クレジットカード払制度開始
平成25年 3月　病棟改修工事（病室、デイルーム等）開始
平成25年 7月　コンビニエンスストア（ローソン）オープン
平成25年11月　ＩＣＵ10床運用開始
平成25年12月　病棟改修工事（病室、食堂デイルーム等）完成
平成26年 6月　一般病棟入院基本料　７対１入院基本料算定開始
平成26年 8月　地域医療センター（仮称）建設工事安全祈願祭
平成26年 8月　リハビリテーションセンター（改築）完成
平成27年 3月　地域がん診療連携拠点病院の指定終了

下関市立市民病院組織図

- 理事長 ― 院　長
  - 副理事長 ― 副院長
  - 理事 ― 参　与
  - 監事
- 診療部（内科）
  - 内科
  - 血液内科
  - 腎臓内科
  - 糖尿病内科
  - 膠原病内科
  - アレルギー科
  - 緩和ケア内科
  - リウマチ科
  - ペインクリニック内科
  - 呼吸器内科
  - 循環器内科
  - 消化器内科
  - 神経内科
  - 精神科
  - 小児科
- 診療部（外科）
  - 外科
  - 脳神経外科
  - 呼吸器外科
  - 心臓血管外科
  - 小児外科
  - 整形外科
  - リハビリテーション科
  - 皮膚科
  - 泌尿器科
  - 産婦人科
  - 眼科
  - 耳鼻咽喉科
  - 放射線診断科
  - 放射線治療科
  - 麻酔科
  - 乳腺外科
  - 救急科
  - 病理診断科
- 診療部（歯科）
  - 歯科
  - 歯科口腔外科
- 看護部
  - 産科・小児科病棟
  - 3階東病棟
  - 4階東病棟
  - 4階西病棟
  - 5階東病棟
  - 5階西病棟
  - 6階東病棟
  - 6階西病棟（休床中）
  - 外来
  - 救急センター
  - 救命センター
  - 透析センター
  - 手術室
  - 中央材料室
- 放射線部
- 検査部
- 臨床工学部
- リハビリテーション部
- 栄養管理部
- 薬局
- 事務部
  - 経営企画グループ ― 経営戦略班　庶務・管理班　人事班　財務班　用度班　情報管理班
  - 医事グループ ― 医事班　医療サービス班
- 地域医療連携室
- 医療安全対策室
- 感染管理室
- ドクターズクラーク室
- 診療情報管理室

（平成 26 年 4 月 1 日現在）

委員会組織図

平成27年3月31日現在

院長
小柳信洋

経営会議

管理医長会

管理運営会議

安全管理委員会

リスクマネジメント部会
副院長　前田博敬

インシデント報告書事例検討会
医療安全対策室専従
リスクマネージャー　大久保典子

RMマニュアル部会(ワーキング)
副院長　前田博敬

CS推進委員会

ボランティア部会
副院長　坂井尚二

保険委員会
整形外科部長　白澤建藏

薬事審議会
院長　小柳信洋

放射線安全委員会
副院長(放射線部長)　前田博敬

防災対策委員会
院長　小柳信洋

診療材料(SPD)検討委員会
副院長　真弓武仁

高度医療器械等機種選定委員会
院長　小柳信洋

治験審査委員会
副院長　真弓武仁

研修管理委員会
外科部長　石光寿幸

輸血療法委員会
副院長　上野安孝

感染管理委員会
院長　小柳信洋

救急センター運営委員会
救急科部長　中原千尋

診療情報提供審査委員会
副院長　前田博敬

がん診療連携拠点病院推進協議会
院長　小柳信洋

検体検査管理委員会
検査部長　安田大成

診療録管理委員会
副院長　上野安孝

安全管理委員会
副院長　前田博敬

褥瘡対策委員会
皮膚科部長　内田　寛

医療ガス安全管理委員会
院長　小柳信洋

栄養管理委員会
栄養管理部長　平　俊明

広報年報委員会
呼吸器外科部長　吉田順一

衛生委員会
事務部長　吉田初巳

倫理委員会
院長　小柳信洋

病床管理委員会
副院長　坂井尚二

手術部運営会議
外科部長　篠原正博

CS推進委員会
副院長　坂井尚二

地域医療連携推進員会
副院長(地域医療連携室長)　坂井尚二

クリニカルパス推進委員会
産婦人科部長　川崎憲欣

救命センター運営委員会
救急科部長　中原千尋

医療事務検討委員会
副院長　上野安孝

がん化学療法委員会
外科部長　石光寿幸

NST運営委員会
脳神経外科医長　尾中貞夫

医療機器等検討委員会
副院長(臨床工学部長)　上野安孝

電子カルテ運用委員会
副院長　上野安孝

DPC・コーディング委員会
副院長　真弓武仁

緩和ケア委員会
外科部長　篠原正博

内科

【スタッフ】

真弓武仁　副院長　　日本内科学会認定総合内科専門医
　　日本リウマチ学会専門医

【診療】

膠原病、糖尿病、不明熱、甲状腺疾患などを主要な診療対象疾患として診療しているが、実際は様々な疾患の診療を行っている。糖尿病に関しては、依頼のあった場合に周術期の血糖コントロールも行い、関節リウマチに関しては、生物学的製剤の導入を積極的に行った。

【診療実績】

入院疾患と患者数

糖尿病	２５	顕微鏡的多発血管炎	3
関節リウマチ	２２	偽痛風	2
全身性エリテマトーデス	5	掌蹠膿疱症性骨関節炎	1
強皮症	2	シェーグレン症候群	1
混合性結合組織病	3	バセドウ病	1
成人スチル病	1	RS3PE 症候群	1
ベーチェット病	1	間質性肺炎	6
アレルギー性肉芽腫性血管炎	2	その他	３４
		合　　計	１１０

血液内科

【スタッフ】

久保　安孝　　医長　　日本内科学会認定内科医
　　日本血液学会認定血液専門医

【診療実績】

入院疾患と患者数（平成 26 年４月~平成 27 年３月）

悪性リンパ腫	２２人
骨髄異形成症候群	７人
再生不良性貧血	４人
多発性骨髄腫	４人
急性骨髄性白血病	２人
骨髄増殖性疾患	２人
巨赤芽球性貧血	２人
成人 T 細胞白血病リンパ腫	１人
その他	２９人
合　計	７３人

腎臓内科

【スタッフ】

坂井尚二、吉村潤子、吉水秋子、田中洋澄、乙咩崇臣、浦江　憲吾

【概要】

スタッフは久留米大学腎臓内科より浦江医師が着任し診療体制は６名となった。

診療活動は腎疾患を中心とした専門内科として診療活動を行っているが、呼吸器内科など専門内科のない、または何れも属さない一般内科の治療にも多く担当している。日常診療だけでなく教育面では、研究会・学会での発表を積極的に行い、研修医の指導にも力を注いでいる。近年糖尿病をはじめ生活習慣による疾患が増加しており、高齢社会を反映して高齢者の慢性腎不全が増加している。そのため福祉介護支援の重要性が増し、腎代替療法として血液透析では通院に、在宅治療であるＣＡＰＤ（腹膜透析）では訪問看護師の協力と多方面と連携し地域医療を支えている。慢性腎臓病（ＣＫＤ）の治療については全身疾患の一環として診るように心がけており、早期からの予防のためには、患者やかかりつけ医への啓蒙活動も腎臓内科の重要な責務と考えており、病診連携に力を入れている。診療には看護師、臨床工学技士、栄養士などのコ・メディカルとの協力を密にして高品質な治療をめざして行っている。透析センターでの入院・外来維持透析の他に、種々の分野で必要となる急性血液浄化療法に対しても透析センター並びにＩＣＵにて積極的に対応している。

【診療】

外来は週４回（ 月曜日～金曜日の午前 ）であるが、急性疾患や緊急時、院内外からの紹介には常時対応している。透析センターでは、20 床を月～土曜日に午前・午後の 2 クールで運営し、常時約 60 人の患者様が血液透析を受けている。また総合病院としての使命で他の透析施設からの各科に入院となる患者様は積極的に受け入れている。整形・脳疾患はもとより、インターベンション治療目的の循環器疾患の患者が増加している。在宅治療である腹膜透析（ ＣＡＰＤ ）の導入も行っている。腎疾患はできるだけ腎生検を施行し、ＥＢＭに基づいて専門的治療を行うようにしている。ＩｇＡ腎症に対しては症例により治療法である扁桃腺摘出術ならびにステロイドパルス療法を積極的に行い腎炎の改善、寛解に取り組み、寛解例をはじめ良好な成績をあげている。腎不全の予防や治療に密接な関連のある高血圧、糖尿病の治療にも食事治療の重要性を考え栄養指導、自己管理指導を保存期より積極的に行っており、患者様だけでなく紹介先の先生方の期待に応えるよう努めている。慢性腎臓病（ＣＫＤ）では早期発見に検診での尿異常など一般医と腎専門医との連携が必要である。特に高齢者においては潜在的に腎機能低下を有しており、わずかな誘因で急速に腎機能低下を招く危険性がある。早期診断治療には、今後とも病診連携を深めて治療にあたっていく必要があると考えている。

【腎臓内科　平成 26 年度　入院患者統計】

病　名	慢性腎不全	102
	急性腎不全	18
	慢性腎炎・ネフローゼ症候群	27
	電解質異常	21
	尿路感染症	25
	心不全	24
	糖尿病・糖尿病腎症	22
	シャントトラブル	72
	呼吸器感染症	67
	その他	116
	総症例数	494
治　療	内シャント造設術	29
	ＣＡＰＤ手術	4
	ＰＴＡ	63
	経皮的腎生検	10
	血漿交換療法	1
	血球成分除去療法	4
	腹水濾過濃縮再静注法	6
	持続的血液透析濾過	8
	総件数	125

【平成 26 年度　腎臓内科業績】

開催年月日	演　題　名	演　者	共同演者	所　属	学　会　名	場　所
2014. 05.31	抗精神病薬による遷延性低血糖が示唆された 1 例	鎗水彰 1	吉村潤子 2 乙咩崇臣 2 田中洋澄 2 吉水秋子 2 佐藤方宣 3 平 俊 明 3 坂井尚二 2	下関市立市民病院 臨床研修センター1 腎臓内科 2 耳鼻咽喉科 3	日本内科学会九州支部第 305 回 九州地方会	くまもと森都心プラザホール

開催年月日	演　題　名	演　者	共同演者	所　属	学　会　名	場　所
2014. 06.12 ～15	難治性胸水で発症し胸膜生検で結核性胸膜炎と診断し治療が奏功した透析患者の1例	吉水秋子1	米嶋康臣2 乙咩崇臣1 田中洋澄1 吉村潤子1 井上政昭3 安田大成4 坂井尚二1	下関市立市民病院 腎臓内科1 呼吸器内科2 呼吸器外科3 病理診断科4	第59回 日本透析医学会学術集会・総会	神戸ﾎﾟｰﾄﾋﾟｱﾎﾃﾙ,神戸国際会議場,神戸国際展示場,ｸｵﾘﾃｨﾎﾃﾙ神戸,ﾜｰﾙﾄﾞ記念ﾎｰﾙ
〃	Citrobacter Koseriが起炎菌であった気腫性腎盂腎炎の1例	田中洋澄1	吉村潤子1 乙咩崇臣1 吉水秋子1 有川誠　2 吉弘悟　2 坂井尚二1	下関市立市民病院 腎臓内科1 泌尿器科2	〃	〃
〃	透析室における災害対策　第2報	市川智春1	河村洋子1 町野彩　1 村田由紀1 松田愛子1 吉村潤子2 坂井尚二2	下関市立市民病院 看護部1 腎臓内科2	〃	〃
〃	水痘感染制御のため透析患者に水痘ワクチンを接種後2年間の経過	吉村潤子1	河野祥二2 乙咩崇臣1 田中洋澄1 吉水秋子1 内田寛　3 吉田順一4 坂井尚二1	下関市立市民病院 腎臓内科1 小児科2 皮膚科3 感染症科4	〃	〃
〃	積層型ダイアライザで透析困難症が消失した1例	乙咩崇臣1	吉村潤子1 田中洋澄1 吉水秋子1 鈴木雄揮2 佐々木毅2 前田大登3 坂井尚二1	下関市立市民病院 腎臓内科1 臨床工学部2 前田内科病院3	〃	〃

開催年月日	演　題　名	演　者	共同演者	所　属	学　会　名	場　所
2014. 06.12 ～15	簡潔型血液濾過透析(I-HDF)の穂腋設定と臨床効果の検討	鈴木雄揮 1	藤田忍 1 前田友美 1 鈴木あゆみ1 佐々木毅 1 乙咩崇臣 2 田中洋澄 2 吉水秋子 2 吉村潤子 2 坂井尚二 2	下関市立市民病院 臨床工学部 1 腎臓内科 2	第 59 回　日本透析医学会学術集会・総会	神戸ﾎﾟｰﾄﾋﾟｱﾎﾃﾙ,神戸国際会議場,神戸国際展示場,ｸｵﾘﾃｨﾎﾃﾙ神戸,ﾜｰﾙﾄﾞ記念ﾎｰﾙ
2014, 10,03 ～04	縦隔リンパ節生検で乾酪壊死を認め、結核の治療的診断を行った末期糖尿病性腎症の一例	浦江憲吾 1	吉村潤子 1 乙咩崇臣 1 田中洋澄 1 吉水秋子 1 金子武生 2 恩塚龍士 3 安田大成 4 吉田順一 5 坂井尚二 1	下関市立市民病院 腎臓内科 1 循環器内科 2 心臓血管外科 3 病理診断科 4 呼吸器外科 5	第 44 回 日本腎臓学会西部学術大会	神戸国際会議場, 神商ホール
〃	気腫性膀胱炎の 1 例	乙咩崇臣 1	吉村潤子 1 浦江憲吾 1 中洋澄 1 吉水秋子 1 坂井尚二 1 吉弘悟 2	下関市立市民病院 腎臓内科 1 泌尿器科 2	〃	〃
	3 肢切断した透析患者の鎖骨下静脈狭窄にステント挿入した PAD の 1 症例	吉水秋子 1	吉村潤子 1 乙咩崇臣 1 田中洋澄 1 坂井尚二 1 長岡榮 2 前田大登 3	下関市立市民病院 1 長岡内科・画像診断クリニック 2 前田内科病院 3	〃	〃
2014, 10,11	アルファカルシドールにより高 Ca 血症を来たし、意識障害と急性腎障害を発症した症例	長尾普次郎1	乙咩崇臣 2 吉村潤子 2 尾中貞夫 3 中村隆治 3 興津貴則 4 坂井尚二 2	下関市立市民病院 臨床研修センター1 腎臓内科 2 脳神経外科 3 下関リハビリテーション病院 4	第 23 回 山口県西部医学会	海峡メッセ下関 国際会議場

開催年月日	演　題　名	演　者	共同演者	所　属	学　会　名	場　所
2014, 10,26	当院における腹膜透析と訪問看護の連携開始について	市川智春 1	松本和美 1 村田由紀 1 松田愛子 1 浦江憲吾 2 乙咩崇臣 2 田中洋澄 2 吉水秋子 2 吉村潤子 2 坂井尚二 2	下関市立市民病院 看護部 1 腎臓内科 2	第 23 回 中国腎不全 研究会	広島国際会議場
2014, 11,20	当院における腹膜透析と訪問看護の連携開始について	市川智春 1	松本和美 1 村田由紀 1 松田愛子 1 浦江憲吾 2 乙咩崇臣 2 田中洋澄 2 吉水秋子 2 吉村潤子 2 坂井尚二 2	下関市立市民病院 看護部 1 腎臓内科 2	第 27 回 山口県西部 透析症例検討会（中外製薬共催）	海峡メッセ下関 国際会議場
2014, 11,23	尿路感染症から高アンモニア血症を来たし意識障害を認めた 1 例	乙咩崇臣 1	吉村潤子 1 浦江憲吾 1 田中洋澄 1 吉水秋子 1 有川誠　2 坂井尚二 1	下関市立市民病院 腎臓内科 1 泌尿器科 2	日本内科学会九州支部 第 307 回 九州地方会	ﾋﾞｰｺﾝﾌﾟﾗｻﾞ (別府国際ｺﾝﾍﾞﾝｼｮﾝｾﾝﾀｰ)
2014, 11,30	適正なドライウエイトはどうやって決めるの？	吉村潤子		下関市立市民病院 腎臓内科	第 8 回 血液浄化基礎セミナー	東亜大学 13 号館
2015, 01,10	心不全急性増悪と急性腎障害(AKI)を来たした溶連菌感染後糸球体腎炎(PSAGN)の症例	岡田淳子 1	嶋田寿文 1 藤内竜夫 1 吉村潤子 2 小路高史 1	中津市民病院 循環器内科 1 下関市立市民病院 腎臓内科 2	日本内科学会九州支部 第 308 回 九州地方会	九州大学医学部百年講堂

開催年月日	演　題　名	演　者	共同演者	所　属	学　会　名	場　所
2015,01,22		坂井尚二(座長)		下関市立市民病院腎臓内科	下関市医師会学術講演会	東京第一ホテル下関
〃	下関における病診連携と CKD の未来	吉村潤子		下関市立市民病院腎臓内科	〃	〃
2015,02,15	R-CPC(reversed-clinico-pathological conference)初級編	吉村潤子		下関市立市民病院腎臓内科	平成 26 年度「検査説明・相談ができる臨床検査技師育成講習会」	山口県総合保健会館
2015,02,21	パネルディスカッション	坂井尚二(座長)		下関市立市民病院腎臓内科	平成 26 年度山口県医師会勤務医部会　医師事務作業補助者ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ	山口県総合保健会館
2015,02,26	良質な血糖コントロールを目指して	坂井尚二(座長)		下関市立市民病院腎臓内科	下関市医師会学術講演会	下関グランドホテル
〃	腎機能障害時に注意が必要な薬剤	吉村潤子		下関市立市民病院腎臓内科	〃	〃
2015,03,12	敗血症性ショックを来たした Citrobacter Koseri による気腫性腎盂腎炎の 1 救命例	田中洋澄 1	吉村潤子 1 浦江憲吾 1 乙咩崇臣 1 吉水秋子 1 有川誠　2 吉弘悟　2 坂井尚二 1	下関市立市民病院腎臓内科 1 泌尿器科 2	第 28 回山口県西部透析症例検討会	海峡メッセ下関国際会議場

ペインクリニック内科（疼痛外来）

ペインクリニックは多種多様な痛みの治療相談に応じる外来です。特に難治性とされる神経そのものの損傷や機能異常で起こる痛みに対しての相談に力を入れています。最近は多くの種類の鎮痛薬が開発され治療成績も向上しつつあります。当外来では患者様と粘り強く治療を進めてゆくことを心がけています。

近年、痛みの治療において漢方薬の効果も確認され、当外来においても積極的に応用し、確かな治療成績を認めています。

【担当医】

藤原義樹（日本麻酔科学会麻酔科専門医）

【対象とする疾患】

帯状疱疹後神経痛、
三叉神経痛、腰痛、
偏頭痛、
難治性の腰痛、
線維筋痛症など。

平成 26（2014）年は新患数 114 名で、前年比 9%増でした。

主な疾患としては、帯状疱疹後痛 50 例、三叉神経痛を含む顔面痛 19 例、頚椎症 6 例、腰椎症を含む腰下肢痛 27 例、胸壁痛 8 例、心因性疼痛 1 例などです。

治療方法としてトリガーポイント注射、硬膜外ブロック、星状神経節ブロック、キセノン光照射などの手技のほか、各種鎮痛薬、漢方薬などを併用しています。

近年、外来における神経ブロック（注射）が減少傾向ですが、疼痛管理のための内服薬の効能が向上しており、注射に頼らなくとも疼痛治療、管理が可能となってきています。

慢性の難治性疼痛に対する麻薬の貼付薬の処方が可能な数少ない診療科でもあります。

【業績集（講演）】

開催年月日	演　題　名	演　者	学　会　名
2014.05.04	プレガバリンの効果的な使い方	藤原義樹	第 60 回下関実医療の会

循環器内科

【スタッフ】

金子　武生　　部長　日本循環器学会認定循環器専門医
辛島　詠士　　医長　日本循環器学会認定循環器専門医
伊奈　雄二郎　医長　日本循環器学会認定循環器専門医
森山　祥平　　医師

【概要】

４名体制で診療を行った。前年は若干減少した心臓カテーテル検査の症例数も増加に転じ、冠動脈の治療件数も増加した。下肢血管の治療数は去年の約４倍となり、山口県では最多の症例件数となった。また、当科で引き続き禁煙外来を行っている。

【診療実績】（平成 26 年１月～平成 26 年 12 月）

１日平均外来患者数は　26.6 名（前年+ 0.6 名）、年間入院総数は　779 名（前年+ 219 名）と外来患者数、入院総数とも増加した。

心臓カテーテル検査（PCI含まず）	３４０件
血管内超音波検査件数	１８件

冠動脈形成術（PCI）	１４０件	合併症	成功率
緊急PCI（急性心筋梗塞など）	４５件	（１例）	96%
待機PCI	９５件	（２例）	92%

下肢等末梢血管造影(EVT含まず)	６５件	合併症	成功率
下肢等末梢血管動脈形成術（EVT）	９８件	（１例）	90%

ペースメーカー植込術（心臓血管外科と共同）	計	３８件
	新規	２７件
	交換	１１件

【業績集】＜発表＞（平成 26 年１月～平成 26 年 12 月）

開催年月日	演　題　名	演　者	共同演者	学　会　名	場　所
2014.12.6	外腸骨動脈完全閉塞病変に対するカテーテル治療において IVUS が有効であった一例	森山 祥平	辛島　詠士 伊奈雄二郎 金子　武生	第 105 回日本循環器学会中国・四国合同地方会	ANA クラウンプラザホテル宇部

消化器内科

【スタッフ】

具嶋正樹、山口敢、村上祐一

※平成 26 年 3 月で王寺裕、松野雄一が退職、同年 4 月より山口敢、村上祐一が就任しました。

【概要】

消化管領域を中心に、腫瘍や炎症性腸疾患などの消化器疾患全般に関しての診断・治療にあたっています。

食道癌・胃癌に対しての内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）を導入しており、ガイドラインに沿った加療を行っています。内視鏡的大腸ポリープ切除の他、胃瘻造設や消化管出血、異物除去などの内視鏡的処置も実施しています。

また、潰瘍性大腸炎やクローン病に関しては、病状に応じて免疫調整剤や白血球除去療法、抗 TNFα抗体製剤なども適宜併用し治療を行っています。

外科的加療の必要な消化器疾患については、当院外科と密に連携を取りながら適切な加療が円滑に行えるよう心がけています。

（尚、肝疾患に関しては肝臓専門医が不在のため、専門的な処置、診療を必要とする場合は他院の専門医と連携し診療を行っています。）

【診療実績】（平成 26 年 1 月～12 月）

＜内視鏡検査数＞

上部消化管内視鏡検査	3,060 件
大腸内視鏡検査	965 件
上部消化管内視鏡的粘膜切除術（EMR）・ポリープ切除術	5 件
上部消化管内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）	35 件
下部消化管内視鏡的粘膜切除術（EMR）・ポリープ切除術	143 件
内視鏡的消化管止血術	94 件
内視鏡的バルーン拡張術	12 件
内視鏡的ステント挿入術	4 件
内視鏡的異物除去術	8 件
胃瘻造設・交換	33 件

＜入院診療疾患＞

食道癌	8	S 状結腸軸捻転	11
食道良性疾患	3	クローン病	9
胃癌	33	潰瘍性大腸炎	3
胃ポリープ	3	その他小腸大腸良性疾患	22
十二指腸癌	2	急性膵炎	3
出血性胃十二指腸潰瘍	36	急性胆嚢炎 ／ 胆管炎	3
上部消化管出血	13	急性肝炎	1
その他胃十二指腸良性疾患	13	肝硬変	2
大腸癌	16	肝胆膵悪性腫瘍	1
大腸ポリープ	115	その他肝胆膵良性疾患	3
腸閉塞	27	腹膜炎	2
下部消化管出血（大腸憩室出血など）	23	貧血	4
虚血性腸炎	16	肺炎	25
結腸憩室炎	5	その他内科疾患	30
感染性腸炎	21		

【業績集】＜発表＞

開催年月日	演題名	演　者	共同演者	学　会　名	場所
2013.7.30	PSL が著効した小腸炎の 1 例	具嶋正樹	村上祐一 山口敢 中原千尋 安田大成	第 12 回下関消化器病フォーラム	下関グランドホテル
2013.11.5	5-ASA 製剤により心筋炎/心外膜炎を発症した潰瘍性大腸炎の 1 例	村上祐一	山口敢 具嶋正樹 辛島詠士 金子武生	第 3 回下関大腸疾患研究会	下関第一ホテル

小児科

【スタッフ】

常勤医師：河野 祥二　　大西 佑治

非常勤：大賀 由紀（医師）　　綿野 友美（医師）　　永田 良隆（医師）

河原 典子（医師）　　関　友美（医師）　　東　良紘（医師）

鮎川 淳子（臨床心理士）

【診療実績】

Ⅰ　外来実績

（１）　外来総数

	延患者数	新患者数	紹介件数	１日平均	健診	定期予防接種	おたふく風邪	水痘	ﾛﾀｳｨﾙｽ / B型肝炎
１月	646	138	28	34.0	16	91	4	7	13 / 22
２月	621	123	21	32.7	21	95	5	4	10 / 19
３月	718	146	49	35.9	16	79	12	14	17 / 19
４月	674	148	46	32.1	21	79	2	1	11 / 14
５月	648	106	34	32.4	15	62	1	1	10 / 5
６月	572	89	25	27.2	18	63	3	3	10 / 13
７月	650	96	44	29.5	16	79	2	2	14 / 24
８月	670	93	52	31.9	21	86	4	2	12 / 13
９月	619	98	41	31.0	21	108	6	1	13 / 14
10 月	582	68	27	26.5	17	115	13	H26.10.1 より定期予防接種へ	12 / 14
11 月	528	79	33	29.3	18	127	3		11 / 15
12 月	648	99	27	34.1	17	84	3		8 / 14
合計	7,576	1,283	427	31.3	217	1,068	58	35	141/186

インフルエンザの予防接種：252

（２）　専門外来

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
アレルギー外来（永田医師）	121	106	120	128	102	99	82	112	99	90	75	97	1,231
小児心身症外来（大賀医師）	75	81	84	76	93	65	73	69	51	77	49	76	869
小児神経外来（綿野医師）	26	29	42	51	29	30	51	41	45	39	32	36	451

Ⅱ　入院実績（入院疾患別分類）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
上気道炎（咽喉頭炎・扁桃炎）		2	1	2	1		1	4	4	1	1	2	19
気管支炎	2	1	2	1	1	1	3	1	3	2	1	2	20
肺炎	2		2	2	4	1	2	2	1	1	1	2	20
インフルエンザ	2	2	1									1	6
ｱﾃﾞﾉｳｲﾙｽ扁桃炎				1	1								2
RS ｳｲﾙｽ感染症	4	5	6	2	2			3	6	5	4	2	39
ﾏｲｺﾌﾟﾗｽﾞﾏ感染症												1	1
ﾛﾀｳｲﾙｽ胃腸炎			2	2	5	1							10
感染性胃腸炎（含ﾉﾛｳｲﾙｽ）	1	3	2		2		4	5	2	2	5	7	33
気管支喘息			1	3	2	2			1	1	3		13
喘息性気管支炎	1				2	2							5
食物アレルギー（食物負荷試験）	3	2		3	1	2	2	1		2	1		17
熱性けいれん	2		1				1	2	3				9
未熟児新生児疾患						1	1	5	2	2	7	2	20
川崎病	1	1		1				2	1	1			7
無菌性髄膜炎						1		1					2
X 連鎖無ｶﾞﾝﾏｸﾞﾛﾌﾞﾘﾝ血症	3	3	3	3	3	3	3	5	3	3	3	3	38
体重増加不良・低身長	1		2	1		1	4	3				1	13
小計													274
ネフローゼ 2 例、ダウン症 1 例、蜂窩織炎 3 例、鼠径部リンパ節炎 3 例、尿路感染症 11 例、遺糞症 2 例、インフルエンザ脳症 1 例、アトピー性皮膚炎・皮膚疾患 8 例、検査入院 2 例、突発疹 2 例、アナフィラキシー10 例、カンピロバクター腸炎 5 例、ヒトメタニューモウイルス気管支炎 16 例、頭部外傷・溺水３例、アセトン血性嘔吐症・熱中症 2 例、ウイルス感染症 2 例、水痘・帯状疱疹 4 例、不明熱 3 例、頭痛・偏頭痛の疑い・意識障害 4 例、薬剤誤飲（ニコチン・アルコールなど）3 例、伝染性単核球症 1 例、アレルギー性紫斑病 4 例、フィッシャー症候群・外転神経麻痺 2 例、甲状腺機能亢進症 1 例、ヘルパンギーナ・手足口病 5 例、Ⅱ型糖尿病・糖尿病性ケトアシドーシス 2 例、ヘリコバクター胃炎 1 例、腸重積 1 例、けいれん発作・てんかん　11 例その他 6 例													121
合　計													395

【下関市イルカふれあい体験】

平成 15 年度より、自閉症児を対象に動物介在療法の一つである「イルカセラピー」を山口大学教育学部と海響館の協力を得て実施しています。このような事業を地域ぐるみで継続している例は他にはなく、関係されてきた皆様の熱意の賜物だと思います。

平成 26 年度は、新規の参加者は 5 名、年長児オプション 1 名、経験者（前年度までの参加者）22 名の計 28 名で、6 月から 9 月中旬にかけて実施しました。今年度も参加者全員が安全にセラピーを受けることができました。参加された子どもたちやご家族は笑顔で帰って行かれています。ご協力頂いた皆様にこの場を借りまして御礼を申し上げます。

【業績集】

開催月日	演題名	演者	学会名
H26.1.22	副鼻腔炎を契機に発症したと考えられた細菌性髄膜炎の 12 歳女児例	東 良紘	第 37 回下関小児疾患カンファレンス
H26.5.21	当科で経験したムンプス難聴の 2 例	大西佑治	第 38 回下関小児疾患カンファレンス
H26.6.27	小児結核に関する最近の話題～特に小児を対象にとした結核感染診断とコッホ現象への対応について～	講師：国立病院機構南京都病院小児科徳永修先生 座長：河野祥二	下関市小児科医会学術講演会
H26.7.13	無菌性髄膜炎および早期乳児のウイルス感染症における髄液所見と検出されたウイルスについて	河野祥二	第 124 回日本小児科学会山口地方会
H26.7.22	母が外国籍の場合、母と児にどのように接していますか？外来における現状について	河野祥二	第 39 回下関小児疾患カンファレンス
	母親が外国籍の家庭に発生した遺糞症の 1 例	大西佑治	
H26.7.30	水痘ワクチンの必要性と最新情報	講演：川崎医科大学小児科学教室教授寺田喜平先生 座長：河野祥二	下関市小児科医会学術講演会
H26.9.28	平成 21 年 4 月以降当院に入院したロタウイルス胃腸炎症例についての検討	大西佑治	平成 26 年度山口県小児保健研究会
H26.10.29	平成 25 年 4 月～平成 26 年 9 月の間に、当院から次の医療機関に紹介した症例の検討	河野祥二	第 40 回下関小児疾患カンファレンス
H26.12.21	思春期に重症鉄欠乏性貧血を発症したヘリコバクター・ピロリ感染症の 2 例	大西佑治	第 125 回日本小児科学会山口地方会

外　　科

【特徴】

集学的治療とチーム医療

診断から手術、化学療法、放射線治療、内視鏡治療、インターベンション、緩和医療など、他科とも緊密に連携し、切れ目の無い医療を行っている。

手術では、できるだけ低侵襲な鏡視下手術を導入し、良性疾患では単孔式鏡視下手術を施行している。

がん治療においては、ガイドラインに沿ったエビデンスに基づいた治療を基本とし、安全で、安心な医療の提供に心がけている。

感染対策、合併症対策、栄養管理、リハビリテーション、疼痛緩和、ストーマ管理、地域医療連携など、各種チーム体制が整っており、患者さんをサポートしている

●キャンサーボード

診断から治療、術後のサポートまで、外科、内科、放射線科、理学療法科、化学療法チーム、緩和ケアチームが毎週集まり、個々の症例についてキャンサーボードで検討している。早期より多数科による、治療戦略を討議している。

●外来化学療法チーム

外来化学療法症例のチームカンファを毎週行っている。有害事象の評価やレジメンを検討している。Ｂ型肝炎の再活性化予防なども厳しく管理している。

●緩和ケアチーム

症例カンファを通して、細やかな対応を行っている。また緩和ケアチームは、すべての病棟で、症状緩和の困難事例への介入や、精神的サポート、在宅や転院移行への援助等を行っている。

外来患者さん対象の緩和ケア外来も開設している。

がん治療に携わる医師を対象とした厚生労働省認定の緩和ケア研修会や、各種研修会を実施している。

●乳腺カンファ

外科医師、病理医、エコー技師、レントゲン技師、化学療法認定看護師、看護師が定期的に集まり、エコー、マンモグラフィ、ＣＴ、ＭＲＩ、病理診断を含む症例カンファを行い、チーム力を向上させている。

●ストーマ外来

院内、院外のオストメイトを対象に、治療、ケア、相談を受け付けている。皮膚排泄ケア認定看護師による細やかな対応が好評である。

また、下関地域の医療従事者へのストーマ研修会を定期開催するなど、ストーマ管理に関する啓発活動を行っている。

【外科スタッフ（平成 27 年 3 月現在)】

○篠原正博　九州大学臨床・腫瘍外科　S55 年入局
外科部長　日本外科学会　認定医、専門医
消化器、肝胆膵、食道疾患手術担当　緩和ケア基本教育のための山口県指導医
下関市立市民病院緩和ケアチームリーダー
災害派遣医療チーム DMAT リーダー
日本がん治療認定医機構　認定医
マンモグラフィー検診精度管理中央委員会認定医

○吉田順一　九州大学臨床・腫瘍外科　S56 年入局
呼吸器外科部長　日本外科学会　認定医、指導医、専門医
呼吸器・縦隔疾患　日本胸部外科学会　認定医
鏡視下手術担当　呼吸器外科専門医合同委員会　呼吸器外科専門医
日本消化器外科学会　指導医、専門医
日本がん治療認定医機構　認定医、暫定教育医
日本臨床腫瘍学会　暫定指導医
日本乳癌学会　認定医

○石光寿幸　九州大学臨床・腫瘍外科　S59 入局
外科部長　日本外科学会　認定医、指導医、専門医
乳腺・内分泌疾患、消化器疾患　日本消化器外科学会　認定医、専門医
鏡視下手術担当　日本がん治療認定医機構　認定医、暫定教育医
マンモグラフィー検診精度管理中央委員会認定

○宮竹英志　九州大学臨床・腫瘍外科　H10 年入局
外科医長　日本外科学会　認定医、専門医
肝胆膵系内視鏡下処置・検査担当
鏡視下手術担当

○鈴木宏往　九州大学臨床・腫瘍外科　H12 年入局
外科医長　日本外科学会　認定医、専門医
乳腺・内分泌疾患、消化器疾患
鏡視下手術担当

○新川智彦　九州大学臨床・腫瘍外科　H25 年入局
外科医師

○友杉隆宏　九州大学臨床・腫瘍外科　H25 年入局
外科医師

【実績集（学会）】

開催年月日	学 会 名	演 題 名	演 者（座長）	共同演者
2014.02.15	第29回日本環境感染学会総会・学術集会	教育講演13	（吉田順一）	
2014.02.15	第29回日本環境感染学会総会・学術集会	シンポジウム17 周術期感染症とSSI	（吉田順一）	
2014.02.21	第115回北九州外科研究会	当院のSILS導入後における虫垂炎症例の検討	松田諒太	中原千尋、渡邉雄介、安藤陽平、武本淳吉、持留直希、鈴木宏往、宮竹英志、井上政昭、吉田順一、篠原正博
2014.02.21	Meet the Expert in SHIMONOSEKI ～腹腔鏡下手術の最前線～	当院での若手外科医の腹腔鏡下大腸切除術	持留直希	石光寿幸、安藤陽平、渡邉雄介、武本淳吉、持留直希、鈴木宏往、宮竹英志、中原千尋、井上政昭、吉田順一、篠原正博
2014.03.01	第23回山口県呼吸器外科研究会	一般演題	（井上政昭）	
2014.03.11	第36回下関呼吸器疾患研究会	呼吸器外科の現場～外傷から癌治療まで～	井上政昭	
2014.04.03～	第114回日本外科学会定期学術集会	大腸癌肝転移に対する術前化学療法併用切除例の検討	友杉隆宏	
2014.04.11	下関がんチーム医療ワークショップ　フォローアップの会	下関がんチーム医療ワークショップ　フォローアップの会	（篠原正博）	
2014.05.09	第51回九州外科学会・第51回小児外科学会・第50回九州内分泌外科学会	肺原発血管肉腫の1例	金山雅俊	
2014.05.09～	第51回九州外科学会	一塊として摘出しえた巨大後腹膜脂肪肉腫の1例	友杉隆宏	

開催年月日	学 会 名	演 題 名	演 者（座長）	共 同 演 者
2014.05.10	第51回日本小児外科学会学術集会	（ポスターセッション75小腸4）出生直前に発症した新生児腸間膜裂孔ヘルニア嵌頓の1例	白井 剛	
2014.05.26	第25回北九州がんセミナー	特別講演 2	（篠原正博）	
2014.05.26	第25回北九州がんセミナー	当院における多形癌(PleomorphicCarcinoma)の手術成績	大薗慶吾	井上政昭、石光寿幸、宮竹英志、鈴木宏往、新川智彦、友杉隆宏、吉田順一、金山雅俊、中原千尋、岡山卓史、白井剛、篠原正博
2014.05.29～	第31回日本呼吸器外科学会総会	心臓弁膜症に合併した肺癌に対して人工心肺下に一時的手術を施行した3例	金山雅俊	
2014.06.06～	第28回日本小児救急医学会学術集会	外傷性十二指腸壁内血腫の1例	白井 剛	
2014.06.12～	第59回日本透析医学会学術集会・総会	難治性胸水で発症し胸膜生検で結核性胸膜炎と診断し治療が奏効した透析患者の1例	吉水秋子	米嶋康臣、乙咩崇臣、田中洋澄、吉村潤子、井上政昭、安田大成、坂井尚二
2014.06.14	第4回福岡胸部外科疾患研究会	胸腔鏡下に治療を行った難治性気胸の1例	井上政昭	金山雅俊、吉田順一、友杉隆宏、新川智彦、岡山卓史、鈴木宏往、宮竹英志、中原千尋、石光寿幸、篠原正博
2014.06.18～	第88回日本感染症学会学術講演会	当院におけるClostridiumdifficile関連下痢症（CDAD)におけるトキシン検査と患者背景の検討	原田由紀子	吉田順一、菊池哲也

開催年月日	学 会 名	演 題 名	演 者（座長）	共 同 演 者
2014.06.20	第3回下関肝胆膵カンファレンス	腎癌膵転移の2例	友杉隆宏	新川智彦、岡山卓史、白井　剛、金山雅俊、鈴木宏往、宮竹英志、中原千尋、井上政昭、石光寿幸、吉田順一、篠原正博
2014.06.20	第3回下関肝胆膵カンファレンス	特別講演	（篠原正博）	
2014.06.21	第2回下関肝胆膵カンファレンス	一般演題	（篠原正博）	
2014.07.16～	第69回日本消化器外科学会総会	虚血性心疾患合併患者に対するIABP併用の結腸癌手術	新川智彦	
2014.07.19	第12回日本臨床腫瘍学会学術集会	A phase Ⅱtrial of adjuvant chemotherapy with tri-weekly CBDCA plus DTX in patients with completely resected NSCLC/非小細胞肺癌完全切除例に対するCBDCA＋DTX術後補助化学療法（臨床第Ⅱ相試験）	井上政昭	
2014.07.30	第12回下関消化器病フォーラム	PSLが著効した小腸炎の1例	具嶋正樹	村上祐一、山口敢、中原千尋、安田大成
2014.08.08	第14回下関乳線画像診断カンファレンス	セッション1　症例検討	（石光寿幸）	
2014.09.05	第116回北九州外科研究会	腎癌膵転移の2例	友杉隆宏	篠原正博、新川智彦、白井　剛、岡山卓史、金山雅俊、鈴木宏往、宮竹英志、中原千尋、井上政昭、石光寿幸、吉田順一

開催年月日	学 会 名	演 題 名	演 者（座長）	共 同 演 者
2014.10.03～	第44回日本腎臓学会西部学術大会	縦隔リンパ節生検で乾酪壊死を認め、結核の治療的診断を行った末期糖尿病性腎症の一例	浦江憲吾	吉村潤子、乙咩崇臣、田中洋澄、吉水秋子、金子武生、恩塚龍士、安田大成、吉田順一、坂井尚二
2014.10.23～	第62回日本化学療法学会西日本支部総会・第57回日本感染症学会中日本地方会学術集会・第84回日本感染症学会西日本地方会学術集会合同開催	膿胸の診断と外科治療	井上政昭	金山雅俊、吉田順一
2014.11.20～	第76回日本臨床外科学会総会	一般口演	石光寿幸	
2014.11.20～	第76回日本臨床外科学会総会	若年成人女性に発症した原発性虫垂癌の一例	鈴木宏往	武本淳吉、友杉隆宏、新川智彦、岡山卓史、白井　剛、金山雅俊、宮竹英志、中原千尋、井上政昭、石光寿幸、吉田順一、篠原正博
2014.11.21	第26回北九州がんセミナー	特別講演	（吉田順一）	
2014.11.28	第13回下関耐性菌研究会	代表人世話人会『これまでの当会の振り返り』	（吉田順一）	
2014.12.04～	第27回日本外科感染症学会総会学術集会	ランチョンセミナー3『脊椎術後感染症：経験を活かした予防と治療のストラデジー』	（吉田順一）	
2014.12.04～	第27回日本外科感染症学会総会	入門講座17　論文発表の方法：第7回SSIサーベイランス研究会でのテーマ『サーベランスを論文にしよう』	吉田順一	井上政昭、鈴木宏往、石光寿幸、宮竹英志、中原千尋、山下彰久、篠原正博
2014.12.18	下関インフェクションセミナー	特別講演	（吉田順一）	

【実績集（論文）】

雑誌名等	巻	号	頁始	年度	共同著者等
日本外科感染症学会雑誌	11	1	35	2014	吉田　順一
下関市医師会報	春季号	298	82	2014	
MSD　VIDEO/DVD LIBRARY 2014			55	2014	
International Journal of Surgery Case Reports		5	365	2014	Jyunkichi Takemoto, Eiji Miyatake, JunKawata, KeigoOhzono, Hiroyuki Suzuki, Masaaki Inoue, Toshiyuki Ishimitsu, Junichi Yoshida, Masahiro Shinohara, Chihiro Nakahara
Cancer Studies Open Access Aperito online publishing	1	104	1	2014	Mayumi Oyama(第1著者) Junichi Yoshida(第2著者) Masaaki Inoue, Daisei Yasuda, Kouichi Furugaki,
Infection and Drug Resistance	7		331	2014	Junichi Yoshida(第1著者) Yukiko Harada, Tetsuya Kikuchi, Ikuyo Asano, Takako Ueno, Nobuo Matsubara
小児科臨床	67	5	887	2014	住友　健三　他
日本外科学会雑誌	115	臨増2	370	2014	
日本環境感染学会誌	29	Sup.1	517	2014	

呼吸器外科

呼吸器外科では胸部悪性疾患（原発性肺癌、転移性肺腫瘍、縦隔腫瘍、胸膜腫瘍、等）、良性疾患（気胸、肺嚢胞症、等）を呼吸器腫瘍センターで、感染性疾患の治療を呼吸器感染症センターで行っています。

2014 年の原発性肺癌手術症例数は 46 例と、前年とは比較し 1.5 倍増加しています。原発性肺癌の非手術症例の化学療法は 17 例、化学放射線治療は 2 例行っています。化学・放射線治療は肺癌手術後の再発症例、術後補助化学療法を含めると 1 年間で 124 レジメンの治療を行いました。

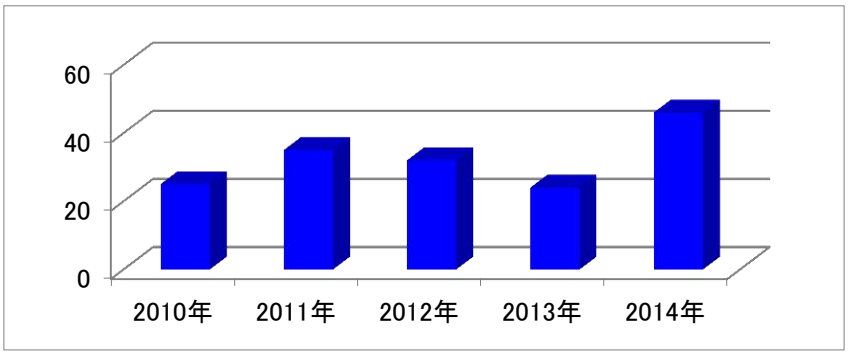
当院での手術治療は殆どの症例で内視鏡（胸腔鏡）を使用して手術を行います。内視鏡手術は基本的に 3cm の傷 1 カ所と 1.5cm の傷 2 カ所で行います。内視鏡を使用するため手術中波、モニターを見て手術を行います。手術後の疼痛は軽く、殆どの患者様が 1 週間以内に退院します。手術時に肋骨を切らず、最小限の組織しか切開しないため術後の回復は早く長期間の入院を必要としないからです。この内視鏡を使用した手術は、低侵襲であるため 80 歳以上の患者様にも安全に行う事が出来ます。しかし、病期が進行している症例やリンパ節転移が疑われる症例においては、必ずしも根治性を損なわず安全に行うことが出来ない時があります。そのような時は、肺癌治療の基本であります根治性を損なわない事を第一として、開胸手術を勧めることや手術中に内視鏡手術から開胸手術に変更することをあります。

当科の基本的治療方針は、“患者様が受けたい治療施設となれるように、最良治療の提供”であり、患者様に満足して頂くように全力で治療を行います。本年もよろしくお願いいたします。

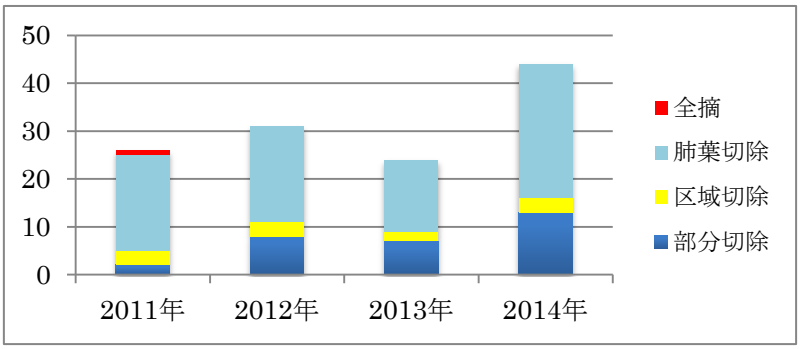
【手術症例数】（2014 年 1 月～12 月）

	全手術症例数	胸腔鏡下手術症例数
原発性肺癌	４６　例	４３　例
転移性肺腫瘍	１１　例	１１　例
縦隔腫瘍	０　例	０　例
その他肺切除手術	１０　例	７　例
気胸	２０　例	２０　例
膿胸	１０　例	８　例
胸部外傷手術	１　例	－　例

原発性肺癌手術症例数の推移



原発性肺癌術式数の推移



新規肺癌化学療法症例数　：　17　例

新規肺癌化学放射線症例数：　2　例

肺癌放射線治療実施患者数：　75　例

脳神経外科

【スタッフ】

部長　中村　隆治(2010,04～)

医長　尾中　貞夫(2012,04～)

【概要】

スタッフが 2 名に減り忙しい 1 年でした。昨年と同様に外来日は予定手術日の木曜日以外です。木曜日でも可能であれば外来にも対応しております。急患にもできる限り対応しております。

脳神経外科での対象疾患は脳血管障害、脳腫瘍、外傷、機能的疾患、先天奇形等幅広く多岐に渉っております。最近は高齢者で物忘れ、歩行障害を訴え受診する患者さんが増えており、中には正常圧水頭症の患者さんがいます。脊椎疾患を疑われ、術後の患者さんでもシャント手術後に歩行障害が改善する患者がいます。

高齢化の波をうけて手術となる症例は減少傾向にあります。入院患者の多くは脳梗塞患者であり、そのうち半数以上が 70 歳以上で、t-PA の適応にもなりにくい年齢層が多い状況です。その中で、適応があれば頚動脈内膜剥離術や頚動脈ステント留置など行っております。脳腫瘍症例も転移性脳腫瘍が多く放射線治療、特にガンマナイフと組み合わせて、治療を行っています。

また、最近では脳卒中後の痙縮に対しても、ボトックスやバクロフェンなどの使用により ADL 改善につなげたいと考えております。

●2013 年(2013.1 月～12 月)

１．入院症例　約 300 例

２．手術症例　82 例

（主な内訳）　脳腫瘍；3 例　脳動脈瘤クリッピング；14 例(破裂 12 例、未破裂 2 例)、脳動脈瘤コイル塞栓術 1 例　脳動静脈奇形摘出術；4 例　血腫除去術；5 例　STA-MCA 吻合術；1 例　急性硬膜下血腫；3 例　慢性硬膜下血腫；25 例　水頭症（脳室腹腔シャント術等）；12 例

【業績集（発表)】

開催年月日	演　題　名	演　者	共同演者	学　会　名	場　所
2014.12.06	てんかんで発症し臨床的に low grade glioma が疑われた高齢者右前頭葉腫瘍の１手術例	尾中貞夫	中村隆治	第 104 回日本神経病理学会　九州地方会	九州大学医学部臨床研究棟 1F
2014.02.28	Cavernoma の２症例	中村隆治	尾中貞夫	第 202 回北九州神経放射線カンファレンス	明治安田生命北九州ビル６階
2014.04.04	小脳脳動静脈奇形の２手術例	中村隆治	尾中貞夫	第 203 回北九州神経放射線カンファレンス	明治安田生命北九州ビル６階
2014.05.30	リンパ球性下垂体炎の１症例	中村隆治	尾中貞夫	第 204 回北九州神経放射線カンファレンス	明治安田生命北九州ビル６階
2014.10.07	てんかん重積の治療について	中村隆治	尾中貞夫	イーケプラミーティング	海峡メッセ８F

心臓血管外科

【スタッフ】

上野安孝副院長、栗栖和宏部長、恩塚龍士医長、山下慶介医師

平成 26 年 4 月より、新たに栗栖部長が着任、森重医師に替わって山下医師が着任し 4 名体制となりました。

【診療概要】

心臓血管外科では、主として成人の心臓疾患（虚血性心臓病、弁膜症、先天性心臓病、重症心不全、不整脈など）や大血管疾患（胸部大動脈瘤、胸腹部大動脈瘤、腹部大動脈瘤など）の手術を中心とした診療を行っています。

狭心症に対する冠動脈バイパス術では、身体への負担が少なく、合併症も少ないとされている人工心肺を用いない心拍動下冠動脈バイパス術を第一選択として行っています。また、バイパスグラフトは長期開存率に優れる動脈グラフトを可能な限り用いています。下行胸部大動脈瘤には低侵襲なステントグラフト内挿術を第一選択に、腹部大動脈瘤に対しては、人工血管置換術またはステントグラフト内挿術を患者さんの病態に応じて選択し、施行しています。

心臓血管外科では心・大血管疾患のみならず、末梢血管病にも対応しています。末梢動脈疾患（閉塞性動脈硬化症、急性動脈閉塞症など）に対しては、血行再建（血管内治療やバイパス手術）か保存的治療とするかを検討し、適応がある場合は積極的に血行再建を薦めています。また、下肢の静脈疾患にも対応しています。下肢の静脈瘤に対する治療は、その病態に応じて抜去、切除術（2 泊 3 日の入院を必要とします）、日帰り外来手術での高位結紮術、あるいは硬化療法を行っています。

心臓大血管病は慢性に進行する疾患のほかに、突然病態が悪化し緊急手術が必要となる疾患（手術が必要な急性冠症候群、動脈瘤破裂や急性大動脈瘤解離、急性動脈閉塞症など）がありますが、このような疾患に対しては積極的に緊急手術を行って救命に努めています。

高齢者が手術適応となることが多くなっています。早期離床、早期リハビリを行って寝たきりにならずに元の日常生活に復帰できるように努めています。

【診療実績】

心臓血管外科の平成 26 年度（平成 26 年 4 月～平成 27 年 3 月）の、外来患者延数は 2831 人、初診 340 人、紹介率 89.9%、逆紹介率 199%でした。入院延数は 4226 人・日、平均在院日数 23.1 日でした。

心臓血管外科における平成 26 年（H26/1/1 から H26/12/31）の手術実績は下記の通りで

あり、手術室における手術件数は 221 件でした。

A.心臓大血管手術

開心術症例数(人工心肺症例＋人工心肺非使用冠動脈バイパス症例＋胸部ステントグラフト症例)は 80 例でした。術後 30 日以内の死亡を 4 例認めました。冠動脈バイパス術は両側内胸動脈と右胃大網動脈を用いた心拍動下手術（Off pump CABG）を標準術式としており、26 例に行って安定した成績が得られました。弁膜症手術は 26 例でした。高齢の大動脈弁狭窄症例の増加傾向を認めます。胸部大動脈手術は 16 例でした。7 例の胸部大動脈瘤に対してステントグラフト内挿術を行い、良好な結果を得ました。

B.腹部大動脈瘤

腹部大動脈瘤に対する人工血管置換術は 6 例に行いました。ステントグラフトによる治療を 3 例に行いました。

C.末梢動脈手術

大動脈閉塞に対するバイパス術及び下肢動脈閉塞に対するバイパス術を 22 症例に施行し良好な結果を得ました。緊急の血栓除去術を 3 例に施行しました。

D.下肢静脈疾患

下肢静脈瘤ストリッピングまたは静脈瘤切除術を 61 例に行ないました。また、外来手術にて高位結紮術または静脈瘤切除術を併せて 29 例に行いました。

＜心臓手術＞

冠動脈疾患手術	冠動脈バイパス術　36 例(体外循環を用いない冠動脈バイパス術　26 例) 急性心筋梗塞後心破裂　1 例
弁膜症手術	26 例 大動脈弁置換 12（＋肺静脈隔離術 2、＋冠動脈バイパス 5) 大動脈弁置換＋上行大動脈置換 2（＋冠動脈バイパス 1) 大動脈弁置換＋僧帽弁形成＋三尖弁輪形成＋冠動脈バイパス 1 僧帽弁形成＋三尖弁輪形成＋冠動脈バイパス 1 僧帽弁置換 2（＋肺静脈隔離術 1)、僧帽弁置換＋三尖弁輪形成 2 大動脈弁置換＋僧帽弁置換＋三尖弁輪形成 5（＋冠動脈バイパス 2) 三尖弁置換 1、左室内血栓摘除 1
先天性心疾患	0 例

＜大血管手術＞　25 例

上行弓部大動脈置換術	2 例（A 型大動脈解離）
大動脈基部置換＋上行弓部置換術	1 例
弓部大動脈置換術	6 例（＋大動脈弁置換 1、＋冠動脈バイパス 2）
胸部大動脈ステントグラフト内挿術	7 例
腹部大動脈置換術	6 例（破裂症例）
腹部大動脈ステントグラフト内挿術	3 例

＜末梢血管手術＞

腋窩-大腿動脈バイパス術	6 例
下肢動脈バイパス術	16 例
血栓内膜剥離術・血管形成術	2 例
血栓除去術	3 例
人工血管内血栓除去＋血管形成術	5 例
内シャント造設術（人工血管）	3 例
シャント血栓除去及び血管形成術	3 例
下肢静脈瘤ストリッピング手術	61 例
下肢静脈瘤高位結紮術	28 例
その他の下肢静脈瘤手術	1 例

【業績】

＜学会・研究会＞

開催年月日	演題名	演　者	学会名	場　所
2014.10.11	元脳神経外科医の診た狭心症の１症例	恩塚 龍士	第 23 回山口県西部医学会	海峡メッセ下関
2015.1.24	急性大動脈解離による三尖弁閉鎖不全症の経験	栗栖 和宏	第 47 回日本胸部外科学会九州地方会総会	沖縄県医師会館

＜論文＞

雑　誌　名	著　者	論　文
Annals of Vascular Diseases 1-6, 2014	Yoshiyuki Yamasita et al	Endovascular Surgery for Thoracic Aortic Injury :Our Experience of Five Cases.
Annals of Thoracic Surgery 98: 5-6, 2014	Kazuhiro Kurisu	Tricuspid Regurgitation From Acute Type A Aortic Dissection.

小児外科

【スタッフ】
医師　白井　剛

【外来患者数】（平成 26 年 1 月～平成 26 年 12 月）
新患：216 名、再来 389 名　　計 605 名

【入院症例】（平成 26 年 1 月～平成 26 年 12 月）
男：83 名、女 40 名　　計 123 名（延べ）

急性虫垂炎	4	陰嚢・精索水腫	2
腸間膜リンパ節炎	2	熱傷	1
臍ヘルニア	3	消化管異物	1
鼠径ヘルニア	13	その他	4
停留精巣	3		

整形外科

【スタッフ（専門、認定)】

部長　白澤建藏（脊椎脊髄疾患・関節疾患、日本整形外科学会専門医・脊椎内視鏡下手術技術認定医・脊椎脊髄病医・リウマチ医・スポーツ医、 日本脊椎脊髄病学会脊椎脊髄外科指導医,日本リウマチ財団リウマチ医）

山下彰久医長（脊椎脊髄疾患・関節疾患、日本整形外科学会専門医・脊椎脊髄病医、日本脊椎脊髄病学会脊椎脊髄外科指導医）

原田岳医長（リウマチ・膝関節・股関節疾患)、渡邊哲也医長（脊椎脊髄疾患・関節疾患)、橋川和弘医師、原口明久医師、河野紘一郎医師、廣瀬毅医師、坂本和也医師の 9 名が勤務した。

【治療現況】

骨折脱臼等の骨関節の救急外傷の治療、脊椎脊髄疾患の外科的治療、変形性関節症及び関節リウマチの薬物及び外科治療、小児の整形外科疾患等を主体に治療を行っている。なかでも脊椎脊髄疾患では、椎間板ヘルニアに対する内視鏡を使用した内視鏡下椎間板ヘルニア摘出術や腰椎変性疾患（腰部脊柱管狭窄症、腰椎変性すべり症）に対する小侵襲手術（特に経皮的椎弓根スクリューによる小侵襲手術､)、成人脊柱変形いわゆる高齢者の腰曲がりに対する脊柱再建手術（XLIF,OLIF による側方アプローチによる前方固定術と仙腸骨 SAI スクリューも使用した胸椎、腰椎、仙骨、骨盤の脊柱前方後方再建術)、思春期特発性脊柱側弯症に対する側弯症手術、骨粗鬆性脊椎圧迫骨折に対する椎体形成術や BKP（バルーンカイフォプラスティー)、XLIF アプローチによる椎体置換術、頚椎変性疾患（頚椎症、頚椎椎間板ヘルニア）に対する椎弓形成術、透析やリウマチに伴う頚椎病変（環軸椎脱臼、軸椎下亜脱臼）の手術、脳性麻痺に伴う頚髄症手術、脊髄腫瘍や転移性脊椎腫瘍の手術等多岐にわたる実績を持っている。

又、関節疾患では変形性関節症やリウマチに対する人工関節手術が多く特に人工膝関節は県内でも有数の症例数を誇っている。骨切り術、スポーツ外傷やリウマチ、膝変性疾患に対する関節鏡手術（膝半月板手術、膝前十字靭帯再建術、滑膜切除術）等幅広く行っている。

【業績集　平成 26 年】＜論文＞

雑誌名	著者	表題	年	Volume	Page 始	Page 終
整形外科と災害外科	小薗直哉	先天性腰椎すべり症の 1 例	2014	63	87	90

雑誌名	著者	表題	年	Volume	Page 始	Page 終
整形外科と災害外科	小薗直哉	大腿骨転子部骨折における術後 subtype（生田分類）に関する検討	2014	63	181	186
整形外科	宇都宮健	骨脆弱性骨盤骨折の検討	2014	65	1230	1234
日本外科感染症学会雑誌	山下彰久	整形外科領域における予防投与抗菌薬　脊椎外科を中心に	2014	11	35	42
Arch Orthop Trauma Surg	Kozono N	Direct reduction may need to be considered to avoid postoperative subtype P in patients with an unstable trochanteric fracture: a retrospective study using a multivariate analysis.	2014	134	1649	1654

【業績集】＜学会発表等＞

学会回数	学会名	著者	発表年月日	表題
43	日本脊椎脊髄病学会	山下彰久	2014.04.18	胸腰椎骨粗鬆症性椎体骨折に対するバルーンカイフォプラスティの限界を探る～脊柱矢状面バランスと術後成績の関連～
26	山口県腰痛研究会	白澤建藏	2014.06.05	成人脊柱変形の最近のトピックス
81	西日本脊椎研究会	山下彰久	2014.06.06	ASH を合併した胸腰椎椎体骨折に対する最小侵襲多椎間制動術の検討
127	西日本整形災害外科学会	富永冬樹	2014.06.07	Sacral alar-iliac screw を用いた脊柱後方再建手術
127	西日本整形災害外科学会	伊東孝浩	2014.06.07	肘関節脱臼骨折の一例
127	西日本整形災害外科学会	岡和一朗	2014.06.08	TKA 術後の踵骨疲労骨折の検討
127	西日本整形災害外科学会	富永冬樹	2014.06.08	特徴的な MRI 像を呈した大腿骨頸部不顕性骨折の 3 例

学会回数	学会名	著者	発表年月日	表題
	下関整形外科レントゲンカンファレンス	白澤建藏	2014.06.12	（会長）
	下関臨床整形外科医会	原田　岳	2014.06.18	（座長）
47	日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学会	広瀬　毅	2014.07.17	悪性骨腫瘍に対する second line 化学療法としても infomide,carboplatin
	下関市整形外科医会講演会	山下彰久	2014.09.10	脊椎疾患に対するテリパラチド週 1 回製剤の応用
21	日本脊椎･脊髄神経手術手技学会	山下彰久	2014.09.27	積極的関し培養に始まる一連の脊椎術後感染症予防戦略
81	北九州脊椎･脊髄研究会	山下彰久	2014.10.17	MISt の現状と今後の展望
27	山口県腰痛研究会	白澤建藏	2014.11.06	（座長）
	下関骨形成カンファレンス	白澤建藏	2014.11.20	（座長）
128	西日本整形災害外科学会	河野紘一郎	2014.11.22	当院で施行した腰椎椎体間固定術における椎体間 cage の骨癒合率の評価
128	西日本整形災害外科学会	坂本和也	2014.11.22	骨粗鬆症性椎体骨折のピットフォール：当科で経験した Chance 型骨折の亜型
128	西日本整形災害外科学会	橋川和弘	2014.11.22	強直性骨増殖症を伴った椎体骨折に対する最小侵襲多椎間制動術の有効
128	西日本整形災害外科学会	広瀬　毅	2014.11.22	バルーンカイフォプラスティ後の続発性椎体骨折予防戦略：テリパラチドの効果
104	九州大学整形外科学教室開講記念会	白澤建藏	2014.11.24	病院紹介　下関市立市民病院整形外科
17	日本低侵襲脊椎外科学会	山下彰久	2014.11.28	胸腰椎骨粗鬆症性椎体骨折に対するバルーンカイフォプラスティの限界を探る～脊柱矢状面バランスと術後成績の関連～
34	福岡脊椎外科フォーラム	白澤建藏	2014.12.06	ASH を合併した脊柱変形症例に対する治療方針

【整形外科手術症例数】

手　術　法			手術件数
脊　　椎			314
四肢外傷	大腿骨近位部骨折		151
	骨折・脱臼		177
	腱損傷・その他		120
骨軟部腫瘍	良性		5
	悪性		0
上肢・手	人工関節（骨頭）置換術（外傷を除く）	肩	1
		肘	0
		手指	0
	関節鏡視下手術	肩	0
		肘	0
		手	0
	関節形成術（骨切り他）		1
	神経、筋腱		24
	その他		10
下　肢	人工関節（骨頭）置換術（外傷を除く）	股	70
		膝	107
	関節鏡視下手術	股	0
		膝	70
		足	0
	関節形成術（骨切り他）		14
	神経、筋腱		3
	その他		22
合　　計			1089

リハビリテーション科

【スタッフ】

医師	山下彰久				
理学療法士	安部裕美子	宮野清孝	長谷知枝	水野博彰	鐘井光明
	小林健治	内田景子	池田高超	高菅寛之	白幡雄大
	鈴木雅仁	宮田辰成	吉本幸代		
作業療法士	銭本公子	大谷紘子			
助手	山瀬陽加				

【理念】

安心、安全に早期リハビリテーションの充実・促進を図ることにより、早期回復を促し、患者様の退院・転院の橋渡しが的確にできるよう努める。

【方針】

当部においては、急性期のリハビリテーションの役割機能を担っていると考え、主として発症まもない患者様、手術後まもない患者様を対象とし、積極的にリハビリテーションを実施する。

また、入院患者様を主とした対象とし、退院後の治療継続が必要な患者様の外来でのリハビリテーションを実施する。以下に、主な対象疾患をあげる。

・整形疾患：骨折･脊椎脊髄疾患･関節疾患・関節リウマチなど
・神経疾患：脳血管疾患･頭部外傷・パーキンソン病など
・循環器疾患：心筋梗塞･心不全・心大血管疾患など
・呼吸器疾患：肺炎･慢性閉塞性肺疾患・喘息など
・腎臓疾患：急性腎不全･腎盂腎炎など
・消化器系疾患：急性胆のう炎など
・悪性腫瘍

【重点診療方針】

・早期リハビリテーションの充実・促進
・患者様の満足度向上
・チーム医療の充実

【施設基準】

・運動器疾患リハビリテーションⅠ
・脳血管疾患等リハビリテーションⅡ
・脳血管疾患等（廃用）リハビリテーションⅡ
・呼吸器疾患リハビリテーションⅠ
・心大血管疾患リハビリテーションⅠ
・がん患者リハビリテーション

【概要】

当院の基本方針・当部の重点診療方針に基づき、様々な疾患や外傷に伴って発生した障害をもつ患者様に対して、発症早期または手術後早期より積極的にリハビリテーションを実施した。

本年度は、理学療法士の 1 名補充、2 名増員を図り、理学療法士 13 名（育休 1 名含む)、作業療法士 2 名、助手 1 名の体制となった。また、リハビリテーション室の一部改修工事を行った。明るく、開放感のある環境となり、数台の機器の更新も行った。新しい設備としては、安心して退院後の日常生活をおくっていただけるように、練習用の浴室と車椅子対応のキッチンを設置した。そして、言語聴覚療法専用の部屋を確保できたため、来年度からは言語聴覚療法を開始する予定である。

超高齢社会を迎え、リハビリテーション医療の必要性･重要性が一層増してきている。加齢や疾患に派生する心身の障害発生を予防し早期回復をはかり、QOL を高めることが、リハビリテーション医療の大目的である。当院においても、処方数は年々増加傾向にあり、今年度は前年度に比べ、11％程度増加した。特に、がん患者様の処方は増加しており、がん治療のひとつにリハビリテーションの重要性が認識されてきている。これらのニーズに対応するため、早期介入･早期離床の促進を行い、最大･最良の効果が得られるよう努めた。

チーム医療の推進においては、医師・看護師・コメディカル等と日常的にコミュニケーションをとりながら取り組んできた。早期リハビリテーションは、ベッドサイドから開始されることが多く、その後、病棟・院内における日常生活活動が重要となる。そのため定期的に各病棟でリハビリカンファレンスを行い、情報の共有、目標・方針を確認し、獲得できた能力を生活場面でも最大限に活かせるよう努めてきた。QOL を重視したリハビリ目標は個別性が高いため、方向性を見失わないために、その目標を患者情報として常にスタッフ間で共有しておく必要がある。また、チーム全体が協調的に働くためには綿密なコミュニケーションが欠かせない。今後は、他職種参加のカンファレンス等を必要に応じて迅速に行っていけるよう連携を強化していきたい。

また、褥瘡・摂食機能・栄養サポート・緩和ケア等のチーム医療への関わりにおいては、我々の専門性が活用できると考えており、今後も積極的に取り組んでいきたい。近年、栄養とリハビリテーションの重要性が指摘され、人間の根本である栄養と主体的な活動が見直されている。現在、摂食嚥下障害の患者様に対して、十分なリハビリテーションが行え

ていないが、来年度は、言語聴覚士の採用を計画しており、体制の充実を図りたい。

医療の高度化、医学の進歩に伴い、リハビリテーションの対象は、従来の脳疾患や骨関節疾患に加え、呼吸器疾患、循環器疾患、腎臓疾患、代謝疾患、悪性腫瘍など、年々拡大している。この幅広いニーズに対応してゆくためには、質の高いセラピストの臨床能力が必要であり、日々の研鑽が重要と考える。教育・研修等による人材育成を継続していきたい。また、来年度はリハビリ患者のデータベースを作成し、より効果のあるエビデンス作りを行い、業務改善へも活用していきたい。

今後、DPC が導入され、より効率的な医療が求められる。更に、国による地域包括ケアシステムの構築が進み、医療はかつての「病院完結型」から、患者の住み慣れた地域や自宅での生活のための医療、地域全体で治し、支える「地域完結型」の医療に移行していく。急性期の段階から退院後の生活を視野に入れ、患者様の身体能力と生活能力を結びつける治療が重要となってくる。地域との連携も必要不可欠となるため、これまで以上に迅速かつ積極的な関わりに努めていきたい。

【治療実績：平成 26 年 4 月～平成 27 年 3 月】

1）リハビリテーション処方数

平成 26 年度、リハビリテーション部に処方された患者は 2,354 人（前年より 240 人増、前年比 2.7）で、その疾患内訳数は表 1 に示す。全体数の中で運動器疾患が 50%、脳血管疾患等が 11%、廃用症候群が 13%、呼吸器疾患が 6%、心大血管疾患が 13%、がん疾患が 7%を占めた。前年と比べて、がん疾患の増加が著しい。

表 1　リハビリテーション処方数（疾患別）　（単位：件,前年比：%,マイナス：▼）

疾患別名	処方数	前年比
運動器疾患	1,187	2.7
脳血管疾患等	254	1.0
廃用症候群	302	8.6
呼吸器疾患	145	6.6
心大血管疾患	295	24.4
がん疾患	171	88.0
合　　計	**2,354**	**11.4**

2）リハビリテーション実施延べ単位数

総数は 50,089 単位（前年より 1,790 単位増、前年比 3.7）。疾患･入院･外来別の内訳は、表 2 に示す。疾患別にみると、運動器疾患が 60%、脳血管疾患等が 16%、廃用症候群が 16%、呼吸器疾患が 4%、心大血管疾患が 7%、がん疾患が 4%の割合となった。また、療法別（表 3）に見ると、理学療法、作業療法共に増加している。

表２　疾患別リハビリテーション実施延べ単位数（入院･外来別）

（前年比：%,マイナス：▼,＊：前年の実績なし）

	外来	前年比	入院	前年比	合計	前年比
リハビリテーション	**4,671**	**▼10.7**	**45,418**	**9.7**	**50,089**	**3.7**
運動器疾患	4,631	▼10.3	25,225	3.7	29,856	1.3
脳血管疾患等	40	▼24.5	8,106	7.7	8,146	7.5
脳血管疾患等（廃用）	0	▼100	4,289	▼3.8	4,289	▼4.2
呼吸器疾患	0	＊	2,215	3.0	2,215	3.0
心大血管疾患	0	＊	3,615	10.0	3,615	10･0
がん患者	0	＊	1,968	47.7	1,968	47.7

表３　疾患別リハビリテーション実施延べ単位数（療法別）

（前年比：%,マイナス：▼,＊：前年の実績なし）

	理学療法	前年比	作業療法	前年比
合　　計	**42,627**	**3.0**	**7,462**	**7.9**
運動器疾患	26,936	1.7	2,920	▼2.2
脳血管疾患等	4,010	7.6	4,136	7.4
脳血管疾患等（廃用）	4,044	▼9.6	245	＊
呼吸器疾患	2,186	4.5	29	▼50
心大血管疾患	3,586	8.4	29	61
がん患者	1,865	40	103	＊

３）退院患者数と自宅復帰率

自宅復帰率は、疾患別に見ると増減はあるが、全体的には増加している。

表４　疾患別リハビリ退院患者数と自宅復帰率

（単位：人,前年比：%,マイナス：▼）

疾患別名	退院患者数	前年比	自宅復帰率	前年比
運動器疾患	1,239	3.7	55.5	▼0.1
脳血管疾患等	266	13.7	31.2	0
廃用症候群	279	0	51.1	7.6
呼吸器疾患	173	20.1	55.3	▼5.5
心大血管疾患	308	36.9	55.8	▼26.3
がん疾患	139	69.5	73.8	43
合計	**2,404**	**11.3**	**53.8**	**0.1**

４）日常生活自立度の改善状況（BI 値の変化）

各疾患において、改善がみられた。

	リハビリ介入時	⇒	退院・転院時
大腿骨頚部骨折	13.5	⇒	45.8
脳血管疾患	29.1	⇒	55.1
廃用症候群	36.6	⇒	53.3
呼吸器疾患	36.3	⇒	55.9
心大血管疾患	41.9	⇒	67.2
がん患者	50.3	⇒	75.7

【講師】

2014.6　（公社）山口県栄養士会 下関地域専門部会主催 「生活習慣病予防　運動教室」
池田高超

2014.7　下関未来大学　関門地域学科　「腰痛予防　～腰と対話しよう～」
宮野清孝

【ファシリテーター】

2015.3　がんのリハビリテーション研修会（宇部）
「がんのリハビリを実践する上での問題点」
安部裕美子

【発表】

開催年月	演　　題	発表者	学会名
2014.10	「がんの骨転移患者の自宅退院へ向けた取り組みの一例」	内田景子	山口県リハビリテーション研究会（宇部）
2015.3	「両変形性膝関節症を呈し人工関節単置換術を施行された１症例～脛骨部品下骨折に着目して～」	宮田辰成	山口県理学療法士会下関ブロック症例検討会（下関）

【社会貢献活動】

2014.11　第 14 回全国障害者スポーツ大会（長崎）
山口県男子バレーボールチームトレーナー帯同　　宮野清孝

2014.8　全国高等学校野球選手権山口大会
サポートスタッフ　　水野博彰・鐘井光明・高菅寛之

2014.11　下関海響マラソン大会 2014
サポートスタッフ　　鐘井光明・池田高超・宮田辰成・安部裕美子

2014.9　下関ふくふく健康 21 フェスタ

イベントスタッフ　宮野清孝・小林健治・池田高超・高菅寛之･安部裕美子

2014.9～10　下関市介護予防事業「お喜楽元気アップ教室」

安部裕美子

2015.1～2　下関市介護予防事業「お喜楽元気アップ教室」

宮野清孝・安部裕美子

【下関市生涯学習まちづくり　出前講座】

2014.7	転倒予防教室	内田景子・吉本幸代
2014.9	転倒予防教室	内田景子・白幡雄大
2015.1	腰痛予防	宮野清孝

皮膚科

（平成２６年４月～平成２７年３月）

平成元年４月から皮膚科専門医である内田が一人で担当している。

【外来】

患者数　８，６４９人　　新患数　１，３４８人

外来手術　２４件　　基底細胞がん　２例　　皮膚生検　３３件

口腔粘膜優位型天疱瘡　２例
水疱性類天報疱瘡　　６例
サルコイドーシス　　１例
全身性強皮症　　３例
シェーグレン症候群　　２例
シェーンラインヘノッホ紫斑病　３例
コレステロール塞栓　　１例

【入院】

帯状疱疹　　１７例
細菌感染症　　７例
蕁麻疹　　３例
中毒疹　　３例
アトピー性皮膚炎　１例
熱傷　　１例
水疱性類天疱瘡　　１例
基底細胞癌　　１例

泌尿器科

【概要・診療】

泌尿器科は、日本泌尿器科学会専門医教育施設としての認定を受け、医師２名（吉弘悟；日本泌尿器科学会専門医・指導医、有川　誠；同　専門医・指導医）で診療を行った。

外来は、二診は再診予約のみの二診体制である。

【手術】

２０１４年も悪性腫瘍に対する手術が半数以上を占め、手術件数は７８件と例年より若干減少し、TUR -P の減少が目立った。

今年度の特徴として、低リスク前立腺癌の PSA 監視療法の影響で根治的前立腺全摘術は６例と例年より減少した。比較的稀な壮年期の精索捻転症を１例経験した。発症より２４時間以上経過していたが、捻転が不完全であったため、精巣の血流を確認し温存可能であった。また、重症の気腫性腎盂腎炎を経験し、ドレナージによる感染コントロール後に機能の廃絶した腎を摘出した。

【手術実績】（総数　７８件）２０１４年1月~１２月

主な手術	件数	主な手術	件数
ＴＵＲＰ（経尿道的前立腺切除）	9	腎尿管全摘術	4
ＴＵＲＢＴ（経尿道的膀胱腫瘍切除）	２７	精索捻転手術	1
腎摘出手術（膿腎症）	1	経尿道的膀胱結石破砕	6
腎部分切除術	3	精巣摘除術	1
根治的前立腺全摘術	6	尿道狭窄内視鏡手術	4
膀胱全摘術	1	尿道ステント	2
膀胱部分切除術	1	その他	１２

【検査】

前立腺生検は６２件と例年より減少し、３３例（５３％）が前立腺癌であり、発見率は例年と同等であった。３例が Gleason score 6 以下で PSA 監視療法となった。

【検査実績】２０１４年1月~１２月

主な検査	件数	主な検査	件数
膀胱ファイバー	２１１	前立腺生検	６２

【業績集<発表>】

開催 年月日	演　題　名	演　者	共同演者	学　会　名	場所
2014.6.8	気腫性腎盂炎の１例	有川　誠	吉弘　悟、乙咩崇臣、松本洋明	第９６回日本泌尿器科学会山口地方会	山口県セミナーパーク
2014.8.29	日本人上部尿路上皮癌患者において特殊型組織成分が疾患悪性度および予後に及ぼす影響	坂野　滋	上領頼啓、吉弘　悟。松山豪泰他	第５２回日本癌治療学会学術集会	パシフィコ横浜
2014.11.8	腎細胞癌に対して根治的腎摘除術施行後に発生した残存尿管腫瘍の１例	秋武正和	山崎武成、小藤秀嗣、吉弘　悟	第６６回西日本泌尿器科学会総会	倉敷市芸文館

産婦人科

【スタッフ】

副院長：前田博敬　　九州大学卒（昭和 54 年）

産婦人科部長：川﨑憲欣　　熊本大学卒（昭和 56 年）

【診療の概要】

全国的な産婦人科医不足のため、数多くの病院で産婦人科医療、とくに周産期医療からの撤退が社会問題となっています。今年度は常勤医師２人体制、産婦人科医療の高度性や緊急性に安全に対応することに限界を感じています。一方、九大産婦人科教室からは非常勤医師を派遣いただき感謝しています。

診療実績は数字で表わせる手術統計および分娩統計を下記に示しています。

手術に関しては総数 80 例（良性疾患 70 例、悪性疾患 10 例）、子宮頚部上皮内腫瘍が増加しています。

分娩に関しては分娩総数 110 例でやや減少、帝王切開率 20%、早産率 9.0%、周産期死亡率 0.9%でした。

【手術統計】（平成 26 年 4 月～27 年 3 月）

○良性疾患･･･手術総数 70 例

子宮全摘術(同時に行った付属器摘除術も含む)	腹式	19	子宮外妊娠の手術	0
	膣式	0	胞状奇胎の手術	0
性器脱の手術	膣式子宮全摘術＋膣形成術	5	帝王切開術	22
	膣閉鎖術	0	子宮切開術	0
子宮筋腫核出術		4	頸管無力症の手術	0
子宮筋腫の動脈塞栓術		0	人工妊娠中絶術	0
付属器切除術・卵巣腫瘍摘出術		4	子宮内容除去術（流産手術）	6
腹腔鏡補助下卵巣腫瘍摘出術		3	子宮内膜ポリープ切除術	1
卵巣出血止血術		0	後腹膜腫瘍摘出術	0
卵管結紮術		2	卵巣動脈塞栓術（動脈瘤破裂）	0
外陰部・膣腫瘍切除術		3	腹壁腫瘍摘出術	0
バルトリン腺の手術		1	膣内異物除去術	0

○悪性疾患･･･手術総数 10 例

子宮頚癌(上皮内腫瘍を含む)	準広汎子宮全摘術	0
	単純子宮全摘術（腹式・腟式）	1
	円錐切除術＋部位別掻爬術	6
子宮体癌(子宮肉腫・子宮内膜増殖症を含む)	子宮全摘・付属器切除・骨盤リンパ節郭清・傍大動脈リンパ節郭清	1
	子宮内膜全面掻爬術	1
悪性卵巣腫瘍(卵管癌・腹膜癌を含む)	子宮全摘・付属器切除・虫垂切除・大網切除・骨盤リンパ節郭清・傍大動脈リンパ節郭清	1
	化学療法後の上記手術	0
	試験開腹・生検	0

※化学療法･･･0 名、放射線治療･･･0 名

【分娩統計】（平成 26 年 4 月～27 年 3 月）

○分娩総数･･･110 例（単胎 110、双胎 0 例）

経腟分娩	88 例	単胎頭位　　自然分娩	53
		誘導分娩	31
		吸引分娩	4
		単胎骨盤位経腟分娩（死産例）	0
		多胎経腟分娩	0
帝王切開分娩	22 例	適応	
		胎児胎盤機能不全	0
		CPD・回旋異常・遷延分娩	6
		既往帝切あるいは子宮切開	14
		常位胎盤早期剥離	0
		骨盤位	2
		前置胎盤	0
		糖尿病合併	0
		その他（コンジローマなど)	0

緊急搬送	母体搬送	2
	新生児搬送	0
	母体搬送受け入れ	0
妊娠帰結週数	28 週未満（妊娠 23 週：子宮内胎児死亡）	1
	28－36 週	9
	37－41 週	100
	42 週以降	0
新生児体重	499g 以下（妊娠 23 週：子宮内胎児死亡）	1
	500-999g	0
	1000-1499g	0
	1500-2499g	15
	2500-3999g	92
	4000g 以上	2

死産（妊娠 23 週・子宮内胎児死亡）･･･1

早期新生児死亡･･･0

形態異常（口蓋裂）･･･1

羊水穿刺･･･0

眼科

【概要】

平成 26 年度は眼科専門医である科長 登根慎治郎の 1 名が、視能訓練士 河野清美、看護師の山本龍子、西嶋美津子の協力を得て診療を行った。医師は九州大学眼科の所属。

【診療】

外来は月曜から金曜日の午前中毎日で眼科全般の診療を行っている。

月・水・金曜日の午後は手術前の検査と説明、網膜光凝固術、螢光眼底検査、視野検査、眼球運動検査や眼鏡合わせなどの特殊で時間のかかる検査や治療、外来小手術を行っている。

眼瞼痙攣に対するボトックス治療、加齢性黄斑変性、網膜静脈分枝閉塞症の黄斑浮腫、網膜中心静脈閉塞症の黄斑浮腫、近視性黄斑変性、糖尿病網膜症の黄斑浮腫に対する VEGF 阻害薬であるアイリーア、ルセンティス硝子体内注射治療なども行っている。

火・木曜日の午後は白内障手術、硝子体手術、外眼部手術など眼科手術一般を行っている。白内障手術総数は 454 症例であり、硝子体関連の手術は 26 症例であった。

【手術症例内訳】（26 年 4 月～27 年 3 月）

白内障	454 症例
硝子体内注射	124 症例
網膜硝子体関連手術	26 症例
緑内障	3 症例
外眼部手術	22 症例

【業績集】論文

論文・症例・原著等	著　者	共同著者等	雑誌名等
「長期間にわたり、寛解増悪を繰り返した原発性眼内悪性リンパ腫の 1 例」	登根 慎治郎	吉川洋、有田量一、川野庸一、上野暁史、重藤真理子、後藤浩、石橋達朗	J 眼科臨床紀要 第 5 巻第 4 号

耳鼻咽喉科

【スタッフ】

平成２６年度は、平 俊明部長と西山 和郎医師の常勤医２名体制の診療でした。

【スケジュール】

月曜から金曜の毎日、午前中は外来診療を行いました。手術日は火曜、水曜、金曜の午後でした。手術日以外の午後は、外来での小手術など予約診療を行いました。

【診療実績】

手術名	件数	手術名	件数
扁桃摘出術・アデノイド切除術	５１例	顎下腺摘出手術	４例
鼓膜チューブ留置術	４７例	リンパ節摘出術	４例
ラリンゴマイクロサージャリー	１６例	甲状腺腫瘍摘出術	３例
鼓室形成術	１４例	鼓膜形成術	２例
内視鏡下副鼻腔手術	１３例	鼻中隔矯正術	２例
乳突洞削開術	１１例	その他	９例
気管切開術	９例		
耳下腺腫瘍摘出術	６例	合　計	１９１例

注）その他は１例のみの手術。外来手術は含まず。

【月別入院患者数】

	延数	入院	退院
４月	２３６	２６	２６
５月	２４６	３１	２５
６月	２６０	２７	３２
７月	２１１	２５	２６
８月	２３７	２４	２５
９月	１９２	２７	３０
１０月	３１５	３１	２９
１１月	１８１	１９	２４
１２月	１７１	２２	２３
１月	１７６	１９	１５
２月	２５８	１３	１４
３月	２２７	２５	２４
合　計	２，７１０	２８９	２９３

【月別外来患者数】

	延数	新患
４月	６４０	１２５
５月	６２０	１１７
６月	６５７	１１９
７月	６２１	１２８
８月	５６８	１０５
９月	５６７	８７
１０月	６６７	１０８
１１月	５１８	７８
１２月	５３２	８５
１月	５３６	８４
２月	４９２	８５
３月	６７２	１０１
合　計	７，０９０	１，２２２

今年度は入院患者数は減少しましたが外来患者数は増加しました。これからも地域医療の中核病院として、より質の高い医療を目指して努力してまいりたいと思います。

放射線診断科

【スタッフ】

箕田　俊文　　日本医学放射線学会放射線診断専門医、日本ＩＶＲ学会専門医

瀬戸　明香　　日本医学放射線学会放射線診断専門医

【診療】

放射線診断科は単純Ｘ線写真、ＣＴ、ＭＲＩ、ＲＩの画像診断を主に行っています。

各種の検査装置から作成された画像データを、サーバーを経由して画像読影システムで読影、診断しています。読影、診断結果は報告書の形で電子カルテ上に掲載され、各診療科担当医に報告されます。また病診連携を介して、院外からの画像診断の紹介も受け付けています。現在の医療では画像診断は重要な位置にあり、正確で迅速な読影を心がけています。主に放射線診断専門医 2 名により読影され、大部分は検査当日のうちに読影レポートが確定されます。

またＸ線を用いた血管内治療（インターベンショナルラジオロジー：ＩＶＲ）も行っています。主に動脈内にカテーテルを挿入し、血管撮影装置のＸ線透視下に目的の臓器、血管まで誘導し治療を行います。対象疾患は肝臓癌、頭頸部癌などの悪性腫瘍、喀血、消化管出血、子宮出血、外傷性出血、動脈血栓塞栓症など多岐にわたり、院内の各診療科からの依頼をうけて施行しています。

【H26 年 4 月～H27 年 3 月の画像診断レポート・ＩＶＲ件数】

ＣＴ（２台：64 列、16 列）：13,535 件

ＭＲＩ（１台　1.5T）：4,802 件

ＲＩ：283 件

単純写真：4,337 件

ＩＶＲ：48 件

外来紹介件数：133 件

放射線治療科

放射線治療：

日本医学放射線学会専門医による質の高い放射線治療を行っています。各種悪性腫瘍への根治治療、症状・疼痛緩和目的の対症療法を行っています。

平成20年7月より　Varian社製CLINAC iX　による診療を開始し、定位放射線治療をはじめとした、より精密・正確・高度な放射線治療が可能になりました。

また平成21年4月より、医師・診療放射線技師(注1)・看護師とも女性スタッフによる診療を開始しました。放射線治療は、肌を露出して診察・セッティング・治療を行うことが多いため、女性患者さんにご好評をいただいています。

(注1；診療放射線技師は、女性2名、男性2名でのローテーション勤務のため、毎日女性放射線技師が担当するのではありません。男性放射線技師が担当する日もあります。)

【放射線治療専任スタッフ】

役職名	氏名	卒業年次	所属学会・資格
医師	有賀美佐子	平成 6 年	放射線治療専門医 日本医学放射線学会会員 日本放射線腫瘍学会会員
看護師	廣田知子	平成 6 年	
診療放射線技師	三隅美津枝 森田浩正 森本健治 菊池友紀	昭和 52 年 昭和 62 年 平成 1 年 平成 21 年	第 1 種放射線取扱主任者

【平成 26 年放射線治療数】（平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日）

部位別照射総数：224例			
脳・脊髄	18	生殖器・婦人科系	1
頭頚部	23	泌尿器・男性性器	24
食道	8	造血器・リンパ系腫瘍	9
肺癌・気管・縦隔	49	皮膚・骨・軟部腫瘍	42
乳房・胸壁	41	その他（悪性腫瘍）	0
肝・胆・膵	2	良性疾患	0
胃・小腸・結腸・直腸	7	15才以下の小児	0

＊うち　定位放射線治療　0

＊うち　他院よりの紹介　39++

【業績集（発表）】

開催年月日	演題名	演者	学会名	場所
2014.7.4	重粒子線がん治療	塩山善之先生 （九州国際重粒子線がん治療センター副センター長）	平成 26 年度 放射線治療研修会	下関市立 市民病院

麻酔科

［スタッフ］　兒嶋四郎　　坂 康雄　　平田孝夫　　長畑佐和子

１．概要

常勤麻酔科 3 名に加え昨年度に引き続き長畑歯科医師（歯科麻酔専門医）が週 3 日、指導のもと医科麻酔研修中です。また、山口大学麻酔科より非常勤医師が月曜日に麻酔の応援に来ていただいてます。九州歯科大学麻酔科から非常勤医師 2 名（火曜：長谷川先生、木曜：多田先生）の応援をお願いし、医科麻酔研修を指導しています。院内からも外科・整形外科医師の麻酔応援を適宜お願いし、ご協力いただいております。各先生方、病棟、外来すべての部署の方のお力添えにより手術部が運営されております。皆様方の日頃のご協力に感謝申し上げます。

「患者一人ひとりに安全で優しい、安心できる麻酔の提供」を心がけるという当科の目標のもと個々の症例に対し、麻酔方法、周術期管理について検討しております。最近は合併症が多い症例が増加し、周術期管理に苦労しているのが現状です。

２．活動内容：麻酔科管理症例　2014 年 1 月～12 月

全身麻酔（吸入）	172 例
全身麻酔（完全静脈麻酔）	1,445 例
全身麻酔（吸入）＋硬膜外麻酔	7 例
全身麻酔（静脈）＋硬膜外麻酔	149 例
硬膜外＋脊椎麻酔	1 例
脊椎くも膜下麻酔	190 例
その他	3 例
計	1,967 例（前年　1,817 例）

この一年間で麻酔科管理症例は 150 例増えました。ここ最近 10 年でも最も多い数でした。侵襲度の大きい開頭、肺疾患、心臓大血管手術症例はあわせて 251 例と前年の 168 例よりも大幅に増加しました。

教育・指導面ではスーパーローテート研修の小池医師、長尾医師、池田医師、村上医師をそれぞれ 2 ヶ月研修指導しました。また、11 月～12 月には救急救命士の挿管実習 30 例を指導しました。

救急センター（救急外来）

中原千尋救急科部長が下関に異動し、今年の 3 月で早 3 年が経過し、救急外来数や救急車の受入数も徐々に増えてきております。

今年は医師の異動はなく、昨年に続き中原・岡山体制で落ち着いた 4 月を迎えることができました。例年新任の Dr.が慣れるのに時間がかかるのですが、今年はそのような手間もいらず、スムーズな新年度を迎えることができ、スタートから全開で治療できる体制になっています。

看護部門では、4 月から山口師長となり新たなスタートを切りました。10 月に化学療法室が新棟への移動となるために、これまで兼任してきた看護師はさらに慌ただしい日々を過ごしています。受付も救急当番日には準夜帯に増員があるなど徐々にではありますが体制も整ってきつつあります。

今年は春先に中東呼吸器症候群（MARS）の問題があり、当院は感染に関し基幹病院であるために救急外来はその先方として対応が迫られ、戦々恐々とした日々を過ごしております。インフルエンザと違いわからないことが多く、しかも下関は韓国に近かったことから日本に上陸するなら当院の可能性が高いと今もって警戒態勢をもって対応している日々であります。

昨年はトリアージ問題で世間を騒がせてしまいましたが、その反面、問題となった待ち時間に対しての様々な対策について、再度考える時間を設けることができました。このことは救急外来として、また病院として対応を考えるいい機会になったと、前向きにとらえております。Dr.の診察技術も含め、改善を迫られる部分が多くまだまだ未熟な点が多いのですが、待ち時間をより減らすような診療体制を確立してまいりたいと思います。

当院は救急外来に必ず 1 名を常勤させ、専用で対応しています。受け入れの際にどの科で対応するかで時間を喰う心配はなく、重症であればあるほど対応が早いと考えておりますので、電話の一報をいただければ対応いたします。どうぞ、お気軽に紹介してください。

救命センター

病棟主任医　中原千尋

集中治療室(ICU)は昨年度も 365 日一日も休むことなく、不夜城のごとく稼働しておりました。入室延数や平均在院日数もこの 3 年間はほぼ変化なく推移しております。

現在、8 床（許可病床数は 10 床）で運用していますが、満床時は呼吸器装着という条件だけでは退出を促される状況のこともあります。また、急性薬物中毒もできるだけ ICU 利用しないようになってきており、純に集中治療の必要な重症者が利用する ICU となってきております。

各科の専門性が高まる中で、医師以外のスタッフに対し、より高度な専門性を求められることも少なくありません。看護師サイドは集中治療の認定看護師の育成を含め、より高度な治療を可能とする環境づくりに努めています。さすがに NICU としての機能はありませんが、ICU はもちろん、CCU、HCU の機能を 8 床で果たしているので看護師に対し要求する知識と技術は通常の施設より大きく、その中で日々研鑽に勤しみ、注意深く患者を看護する日々を送っています。

治療に関しては、当院の良さである各科の垣根の低さを、特に ICU は最大限に利用している部署と言っても過言ではありません。腎機能低下の時はすぐに透析を導入できる準備を腎臓内科グループが対応すること、心臓に障害があることがわかれば循環器グループが外科内科問わず、カテを含め対応が早いこと、頭部の疾患が併発したときも昼夜問わず脳神経外科が対応してくれること。その他各科もコンサルトを出した時には最優先に診察に来てくれる・・・お互いの科でコンサルトが容易にでき、当院ほど対応の早い病院は私の 20 年以上の医者人生でもなかなかありません。仲が良く、ひとりの患者に各科が総力で治療にかかっている姿をみることも少なくありません。

このような ICU を 24 時間、365 日稼働させております。安心して ICU に入るというのは、少し変だとは思いますが、必要に迫られたときには安心して治療を受けていただける部署を提供しているものと考えております。

病理診断科

【概要】

適切な治療の基礎に適切な診断があり、適切な診断の要となるのが病理診断である。日々高度化する臨床サイドの要求に応えるべく、臨床医との緊密な意思疎通を図り、新たな疾患分類に即応し、免疫染色等の付加的手法を積極的に導入しつつ、正確で迅速な病理診断に努めている。

免疫染色においては、全自動免疫染色装置が導入されており、染色の安定性・再現性が図られ、特に、乳腺では、HER2、ER、PgR、MIB1(Ki-67）を、胃癌摘出例では HER2 免疫検査を、全例においてルーティン化して実施し、診断に大いに役立っている。肺癌 EGFR、ALK、大腸癌 EGFR、K-RAS 検査は外注している。

迅速標本作製においては、川本法を導入することで、脂肪を含む検体の薄切が比較的容易に実施されるようになり、診断の質が向上した。またギョタックを用いたリアルサイズでの病変マッピングがルーティンになされており、臨床側から評価されている。加えて、診断のスキルアップとしては、College of American Pathologists の病理診断生涯教育プログラムに参加して診断レベルの向上に努めている。また、多くの学会や研修会に参加するよう心掛けている。

部門システムとしては、 Dr.ヘルパー（西日本旅客鉄道株式会社）を導入し、電子カルテ(富士通)との連携を図っている。

リスクマネジメント対策として、部門システムにある機能を活用し、臨床側が報告書を閲覧したかどうかを適宜チェックし、閲覧されていない報告は一覧表にして各臨床医に配布し、確認するよう促している。

ホルマリン対策としては、換気を見直し改良したことで、切り出し室のホルマリン濃度が軽減しているが、低レベルを維持するには努力を有する。

病理医　２名（1 名は非常勤嘱託医）

臨床検査技師　３名（1 名は病理専属の細胞検査士、1 名は午前中外来検査兼務、
1 名は生化学検査兼務）

常勤病理医：安田大成＊1

非常勤嘱託病理医：谷村晃＊2

技師：川元博之＊3、佐々木真理＊4、山本美奈＊5

【所属学会および資格】

＊1	日本病理学会認定病理専門医、日本臨床細胞学会認定細胞診専門医
＊2	日本病理学会認定病理専門医、日本臨床細胞学会認定細胞診指導医、 日本病院病理学会、日本臨床病理学会
＊3	細胞検査士、認定病理検査技師、山口県糖尿病療養指導士、日本臨床衛生検査技師会、 日本臨床細胞学会、日本乳癌学会、日本医療情報学会認定医療情報技師、 特化物・四アルキル鉛等作業主任者、有機溶剤作業主任者
＊4	細胞検査士、日本臨床衛生検査技師会、日本臨床細胞学会、認定一般検査技師、 認定病理検査技師、山口県糖尿病療養指導士、特化物・四アルキル鉛等作業主任者、 有機溶剤作業主任者
＊5	日本臨床衛生検査技師会、日本臨床細胞学会、特化物・四アルキル鉛等作業主任者、 有機溶剤作業主任者

【病理業務】（平成 26 年 4 月～平成 27 年 3 月）

組織診（生検、手術）	2441 例
術中迅速診断	107 例
細胞診	2745 例
病理解剖	8 例

歯科・歯科口腔外科

【スタッフ】

歯科部長：入学陽一

歯科医長：長畑佐和子（歯科麻酔専門医）

歯科医師：笹栗正明（口腔外科専門医）、宮本郁也（口腔外科指導医・専門医）
兒玉正明（口腔外科専門医）、高橋理（口腔外科専修医）
喜多涼介（口腔外科専修医）、坂口修（口腔外科認定医）

歯科衛生士：奈須本理恵、浜﨑朋美

歯科技工士：高林潤吏、須藤公啓

受付：岡田志津代

【概要】

常勤歯科医師 2 名、非常勤歯科医師（九州歯科大学　口腔外科より応援）5 名（毎週月・水・金曜日）、歯科衛生士 2 名、歯科技工士 2 名、受付 1 名の計 12 名で、一般歯科と歯科口腔外科および周術期口腔ケアの診療を行っている。

下関市民病院として、また地域の 2 次医療機関として、その役割を果たせるように、他科との連携、充実した検査内容、入院治療など、総合病院ならではの特色を生かし、患者全体の診療を行っている。

【診療内容】

外来患者数　約 37 人/日、紹介 24 人/月
＜内訳＞　一般歯科　23.6 人/日
歯科口腔外科 6.8 人/日
周術期口腔ケア 7 人/日

外来手術　114 例/年

入院患者　75 件/年

全麻症例　29 例/年

周術期口腔管理　862 例/年

・下顎埋伏歯智歯抜歯が 87 例と最も多い。入院での抜歯が増加。
・前年より紹介患者、入院患者、全麻手術が増加。
・高齢者の顎骨骨髄炎、腐骨除去の症例がまだ多く見られる。
・義歯新製、義歯修理が微増。

・周術期口腔ケアは外科、整形外科、心臓血管外科、耳鼻科の順に手術前の依頼が多く、平均 71 例/月であった。
・今年は有病者（心疾患・糖尿病など）の入院下の抜歯が 14 例と微増。
・上顎および下顎骨骨髄炎が 14 例と多く、腐骨除去手術が微増。
・平成 27 年度 8 月より 2 名の歯科臨床研修医を引き受けることになった。

【活動報告】

北九州・下関病院歯科勤務医会理事として会議に出席。
山口県、病院歯科協議会　会議出席。
日本病院歯科口腔外科協議会理事として会議に出席。
下関看護学校講師。
九州歯科大学歯科医師臨床研修管理委員会に出席。

【入院手術症例】

埋伏歯抜歯	19 例	下顎骨・口蓋隆起形成術	4 例
有病者の抜歯	17 例	顎下腺・唾石摘出	2 例
炎症・腐骨除去	8 例	歯肉腫瘍・舌腫瘍手術	3 例
歯根嚢胞摘出術	12 例	上顎洞口腔瘻閉鎖術	1 例
含歯性嚢胞摘出術	5 例	舌癌手術	1 例
外傷（骨折等）	3 例	合　計	75 例

【外来手術症例】

下顎埋伏智歯抜歯	68 例	下顎骨隆起形成術	3 例
上顎埋伏智歯抜歯	14 例	粘液嚢胞摘出術	3 例
歯根嚢胞摘出術	5 例	がま腫開窓術	1 例
含歯性嚢胞摘出術	4 例	上唇・舌小帯形成術	1 例
歯根端切除術	5 例	上顎洞口腔瘻閉鎖術	1 例
良性腫瘍摘出術	6 例		
腐骨除去手術	3 例	合　計	114 例

【平成 26 年度　周術期口腔機能管理患者数】（H26.4 ～H27.3）

	H26 4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	H27 1 月	2 月	3 月	合 計 （人）
外科	32	27	35	32	28	36	33	25	32	30	33	42	385
整形外科	16	24	32	18	19	13	25	22	18	22	24	24	257
心臓血管外科	9	10	9	11	5	6	6	6	8	11	8	8	97
耳鼻咽喉科	5	9	7	5	6	11	11	5	5	6	5	4	79
泌尿器科	0	3	3	0	0	0	0	0	1	2	1	0	10
歯科	1	1	0	2	5	4	2	0	4	2	4	4	29
脳神経外科	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	2
腎臓内科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
放射線治療科	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
血液内科	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
合　計	63	74	86	69	64	70	78	58	68	74	76	82	862

【歯科技工物内訳】（H26.4 ～H27.3）

クラウン	75	義歯新製	130
インレー	66	義歯修理	89
前装冠	67	スプリント	20
メタルコア	139	ブリッジ	41
仮歯	76		

看護部

【看護部の概要】

平成 26 年度は、6 月より 7 対 1 の看護体制に移行でき、病院経営にも貢献できたことが最も特筆すべきことである。6 月移行後は、7 対 1 を維持出来るよう努めた。

重点事業として、①退院調整（退院支援カンファレンスの充実、高齢者総合評価の推進）②看護必要度（教育、記録、監査）③看護体制（チームリーダーの役割）④業務改善（PNS 導入の検討）の 4 項目について取り組みを行った。

「退院調整」については、退院支援カンファレンスの充実が図れ、その活動も徐々に軌道に乗ってきている。しかし、同時に課題も表出しており、今後更なる検討が必要である。他の 3 項目に関しては、まだはっきりとした成果を現すまでには至っていないが、達成に向けての環境作りは進めることができた。

一方、前年度から引き続いての事業である、「退院患者さんへの葉書送付」は、1100 枚／年を超えるまでになった。今後もこの患者さんとの繋がりは、是非大事にしていきたいと考えている。

また、「市民の保健室」は、「第 2 回」を 9 月に実施した。約 130 名の方の参加を頂き、好評を得ることができた。参加者からは、「来年も楽しみにしている」というご意見を多数頂き、地域との繋がりを更に実感することができた。今後も市民病院として市民から信頼され親しみを持って頂ける病院となるべく努力していきたい。

「看護職員の確保」については、冒頭でも述べたように 33 名の新採用者を迎えることができ、「7 対 1 看護体制への移行」という大きな変革を成し遂げることができた。今後は、看護職員の「確保」にとどまらず「定着」を図るために「魅力ある職場つくり」に努めていきたい。

以上の成果・課題を踏まえた上で、引き続き働きやすい環境作りをめざし、看護師一人ひとりがやりがいをもち、患者さんへ「安心・安全の看護」を提供出来るよう努力したい。

【1.　看護部の理念と方針】

病院の基本理念に従い、心のこもった安全で質の高い看護を提供します.

１、患者様の立場に立ち、**信頼**される看護を提供いたします

１、**安全**で心の通った看護に努めます

１、常に自己研鑽し、組織の一員として経営に**貢献**いたします

１、職務に責任をもち、**協調**の姿勢で取り組みます

【2. 看護部の目標】

看護の質を高めよう

【3. 院内教育計画プラネット】

教育理念

高い倫理観と誇りのもと、患者中心の看護を展開でき、なおかつ他者（患者、職場の同僚）を思いやる「ハート」を兼ね添え、「ひとりひとりがやり甲斐を感じ輝く」看護師を育成する

教育目的

①患者中心の看護を展開するため、倫理、エビデンスに基づいた自律した専門職業人としての成長を図る

②患者のみならず、組織の仲間に対する「思いやり」を兼ね備えた「人」としての成長を図る

③一人一人が「やり甲斐」を持続するための自己研鑽を図る

当院教育システムの特徴

①クリニカル・ラダー制導入

・教育システムを系統化

・組織に於ける「自分の役割」を明確化

・興味を持続化→「やり甲斐」を感じられる

②ポートフォーリオ作成＝「自分の履歴書」

・教育システム、役割、目標が明確化され身近になる

・「いつでも」「過去・現在・未来の自分」と出会える

③年間計画

④ポイント制導入

・「自分の努力」が可視化される

・頑張った分、他者からも評価を受けることができる

□院内教育

教育委員会が１年間の教育計画を作成・企画・運営・評価する

・経年別研修（必須）

ラダー１－１は毎月研修

・実践能力開発研修

・その他、研修会など

□院外研修

認定看護師研修　　ファーストレベル看護管理者研修

セカンドレベル看護管理者研修

日本看護協会主催研修

各学会

【4. 看護部が開催する会議】

名　称	目　　的	構　成	開 催 日
師長会議	・看護部の業務・教育等運営について協議、連絡調整及び伝達 ・看護の質の向上をはかる	看護部長 副看護部長 師　　長	第２・４月曜日 15:30～17:00
主任会	・看護の知識を広く求めて、看護職員の指導・模範となるよう情報交換をして看護実践に取り組む ・ＣＳと看護サービス評価を行う	看護部長 副看護部長 主　　任	第４水曜日 16:15～17:00
感染管理委員会	・院内の清潔を保持し、感染防止の徹底をはかる	院内感染管理副委員長 各部署１名	第１木曜日 16:00～17:00
教育委員会	・下関市立市民病院に勤務する看護職員の教育を行い、専門職としての知識の向上を図る ・教育委員会、委員としてのあり方を再構築する ・教育ニードに沿って、教育の計画・運営を行う	師長 主任 各部署１名	第２・４金曜日 16:00～17:00
看護記録検討委員会	・下関市立市民病院の看護記録等について検討・修正をし、看護の質の向上を図る	同上	第１・３金曜日 16:00～17:00
業務改善委員会	・下関市立市民病院の看護業務に関して調査研究をし、業務の改善・資質の向上を図る ・変化する医療に対応して、基準・手順の管理をする	同上	第２・４木曜日 16:00～17:00
看護部MRM委員会	・看護部の理念である、安全で質の高い看護を保証するために、医療事故防止に努める ・再発防止のための事例検討・学習と防止策の策定・実践・評価を行う	副看護部長 医療安全対策室副室長 各部署リスクマネージャー	第２水曜日 16:00～17:00
看護の日企画委員会	・看護週間の行事を企画・実施する ・看護のＰＲをする「看護の心をみんなの心に」	師長 各部署１名	第２・４火曜日 前年３月より 10月まで開催
TQM委員会	・看護の質の向上をはかる	師長 各部署１名	第３月曜日 16:00～17:00

【5. コース別院外研修】

受講研修会名	受講者数	主　催
認定看護師教育課程（認知症） （がん性疼痛）	1 名 1 名	兵庫県看護協会 愛知県立大学
NST 専門療法士研修	1 名	下関医療センター
平成 26 年度医療安全管理者養成研修	2 名	山口県看護協会
臨地実習研修会	1 名	全国自治体病院協議会
第 26 回　看護管理セミナー	1 名	全国公私病院連盟
14 重症度、医療・看護必要度評価者 院内指導者研修	10 名	山口県看護協会
第 25 回中国ストーマリハビリテーション講習会	1 名	中国ストーマリハビリテーション講習会
認定看護管理者ファーストレベル研修	6 名 2 名	西南女学院大学 山口県看護協会
認定看護管理者セカンドレベル研修	3 名	西南女学院大学
認定看護管理者サードレベル研修	1 名	山口県看護協会
平成 26 年度新人看護職員研修事業 研修責任者研修 教育担当者研修 実地指導者研修	3 名	山口県看護協会
平成 26 年度医療安全ワークショップ 5 日コース	1 名	中国四国厚生局
平成 26 年度院内感染対策講演会	1 名	厚生労働省医政局
第 3 回日本感染管理ネットワーク学術集会	1 名	日本感染管理ネットワーク学会
第 59 回日本透析医学会学術集会・総会	1 名	日本透析医学会
第 19 回日本緩和医療学会学術集会	1 名	日本緩和医療学会
第 30 回日本環境感染学会総会・学術集会	1 名	日本環境感染学会
第 29 回日本がん看護学会学術集会	3 名	日本がん看護学会
第 32 回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会総会	1 名	日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会
第 3 回手術看護師長研修プログラム	1 名	日本手術看護学会
第 30 回日本静脈経腸栄養学会学術集会	1 名	日本静脈経腸栄養学会
第 55 回日本肺癌学会学術集会	2 名	日本肺癌学会

【6.　研修生・職場体験の受け入れ・院内外活動について】(平成 26 年度)

実習受け入れ状況

・ウエストジャパン看護専門学校　　・下関看護リハビリテーション学校

・下関看護専門学校

職場体験

・山口県立長府高等学校　　2 名　　・下関市立山の田中学校　　3 名

・下関市立勝山中学校　　2 名　　・下関市立向洋中学校　　2 名

市民の保健室を開催

●健康相談・血圧・体脂肪測定・骨密度測定　・・・　下関市立市民病院

血管年齢・肺年齢測定・お薬相談・自己血糖測定体験・医療器機体験・

誕生食の試食・ニコカフェ・体力年齢測定・運動指導・利き手交換体操・

放射線部探検ツアー

コンサート・バザー・ヨーヨー釣り

平成 26 年 9 月 23 日（水）　10：00～12：00　　参加者　約 130 名

院外活動“市民健康のつどい”に参加

●健康相談・血圧・体脂肪測定・栄養相談　・・・　彦島保健センター

平成 26 年 10 月 25 日（土）　10：00～12：00　　参加者　　49 名

●行事救護班

海峡祭り	1 名	ボーイスカウト世界大会	1 名
第 9 回スポーツフェスタ	2 名	夏休み子供水道教室	1 名
下関市小学校体育大会	1 名	海響マラソン	2 名
下関市人権フェスティバル	1 名	下関成人の日記念事業	1 名
我がまちスポーツ推進	1 名		

●出前講座・・・　1 件（講師派遣人数　7 名）

下関市立文関小学校･･･“親と子のかかわり”　思春期保健相談士（看護師）1 名

参加者 46 名

●その他の講座等

下関がんチーム医療を考える会･･･がん化学療法認定看護師 1 名

地域密着ケア・地域包括ケア全国研修会･･･“摂食・嚥下障害の方への食事介助”　摂食・嚥下障害認定看護師 1 名

山口県看護協会下関支部･･･“明日からできる食事介助、口腔ケア”摂食・嚥下障害認定看護師 1 名

阿知須共立病院･･･“院内コミュニケーション改善”リスクマネージャー(看護師) 1 名

山口県看護協会豊浦支部･･･“高齢者の摂食・嚥下障害について”　摂食・嚥下障害認定看護師 1 名

下関チーム医療　緩和ケア懇話会･･･看護師 1 名

下関市立向洋中学校 1 年生･･･職業講話　　看護師 1 名　参加者 63 名

【7.　学会発表、院外研究会などでの活動報告】

開催年月日	演　題　名	演　者	学　会　名
H26.5.16	壊疽性筋膜炎による腋窩部の創管理～V.A.C 療法にメピテルワンを使用した経過	皮膚・排泄ケア認定看護師　藤重淳子	第 23 回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会
H26.6.15	透析室における災害対策　第 2 報	透析センター 市川智春	第 59 回日本透析医学会学術集会・総会
H26.10.26	当院における腹膜透析と訪問看護の連携開始について	透析センター 市川智春、松本和美、村田由紀、松田愛子	第 23 回中国腎不全研究会
H26.11.21	当院における糖尿病教室の特徴について	内科外来主任看護師 関本由加里	第 6 回下関糖尿病チーム医療研究会
H27.1.13	当院での心停止下臓器提供	院内コーディネーター　野村幸子	山口県移植医療に関するワーキンググループ、院内コーディネーター会議
H27.2.20	6 施設における個人防護具の使用および手指衛生の現状	感染管理認定看護師 浅野郁代	第 30 回日本環境感染学会総会・学術集会

【8. 院内看護研究発表会】

日　時：平成 26 年 6 月 19 日（木）　　17 時 30 分～19 時
　　平成 26 年 11 月 19 日（水）　17 時 30 分～19 時
場　所：講堂
方　式：学会方式（前期）（後期）
講評者：竹末加奈（6 月）（11 月）

演　　題	発表病棟	座　長
新人看護師育成にチーム支援型体制を導入した効果	5 階東病棟	松田主任
1 型糖尿病の思春期前児の自立を促す試み ～治療に行き詰まったネガティブ思考の糖尿病児に介入して効果が得られた一例～	小児棟	関本主任
妊婦喫煙状況とタバコの害についての知識に関する調査	産科病棟	大久保主任
整形外科手術時の放射線被曝の実態調査	手術室	浅野主任
学会発表論文 壊死性筋膜炎による腋窩部の創管理 ～VAC 療法にメビテルワンを併用した経験～	皮膚排泄ケア認定看護師 藤重淳子	

演　　題	発表病棟	座　長
推薦論文：3 年目看護研究 心臓血管カテーテル検査のクリティカルパスの有用性について	3 階東病棟 岡本美沙	

【9. 病棟別疾患の特殊性】

病　棟　名	疾　患　名
6 階東病棟	消化器内科疾患　血液内科疾患　内科一般
6 階西病棟	休床
5 階東病棟	消化器外科疾患　胸部外科疾患
5 階西病棟	整形外科疾患　消化器外科疾患
4 階東病棟	脳神経外科疾患　泌尿器科疾患　耳鼻咽喉科疾患
4 階西病棟	整形外科疾患
3 階東病棟	循環器疾患　心臓血管外科疾患　腎臓内科疾患
産科病棟	産科（分娩）婦人科疾患
小　児　棟	15 才までの子供の疾患
1 階東病棟	二類感染症・SARS など新感染症

※1 階東病棟閉鎖中、稼動時は出向メンバーが看護にあたる

【10. 各部署紹介】

○6 階東病棟

＜スタッフ＞

師長　1 名　　主任　3 名　　看護師　19 名　　准看護師　2 名

看護助手　4 名　　クラーク　1 名

＜概要＞　病床数　49 床

（独立換気設備を備えた有料個室 3 部屋・特定病床 2 部屋・HCU4 床を含む）

看護の質を高めようという目標のもと、スタッフ一丸となって勉強に仕事に努力を積み重ねてきました。勉強は腎臓内科のシリーズで行う勉強会に加え、血液内科の勉強会も行いました。これは次年度にも引き継いでいきたいと考えています。また、環境整備に力を入れ、床頭台やオーバーテーブルの上を毎日清拭し、私物の紛失が無いよう管理を徹底しました。今後も快適な療養環境が提供できるよう努力を積み重ねていきたいと思います。

平成 26 年度に大きく変わった事は、これまで手術室で行っていた腎生検を病室でするようになった事です。腎生検をする部屋の調整、スタッフの人員配置など全員で協力しあって 5 例を病棟で行いました。今後も安全にそして確実に検査が実施できるよう、部屋調整や手技の伝達を行っていきます。

＜H26 年度実績＞

クリーン・ルームの稼働　10 回		化学療法　238 件
人工呼吸器管理　3 名	NPPV 管理　2 名	透析シャント PTA　24 名
胃・食道 ESD　27 名	PEG 造設　9 名	白内障・硝子体手術　56 名
腎生検　9 名	内シャント造設　4 名	

○５階東病棟

＜概要＞　52 床の病床数を持つ外科病棟です。

治療の中心は、がん治療です。主に消化器、呼吸器、乳腺の患者さんの医療を担う病棟です。手術は患者さんの QOL を考えた『低侵襲手術』が普及しています。内視鏡の手術で術創は小さくなり､傷もドレッシング管理を行っています。入院化学療法、終末期ケアも行っています。術後疼痛管理やがん性疼痛のコントロール目的で、院内で一番医療用麻薬を使用しています。

看護の内容も大きく変わってきています。看護は手術前後ケア、化学療法ケア、がん疼痛ケア、終末期ケアと多岐にわたり、専門知識を要求されています。化学療法看護認定看護師、緩和ケア看護認定看護師を中心にケアの質の向上を目指しています。

病棟の名物は､『朝のタッチコール』を行い、安全な業務、チームワーク、笑顔の意識づけを行っています。

＜平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日＞

入院数：1,075 人

死亡数：45 人

手術数：285 人

化学療法（のべ人数）：644 人

＜主な研修　学会参加＞

１．日本がん看護学会

２．日本緩和医療学会

３．山口県医療安全研修会

４．第５２回日本がん治療学会集会

５．日本肺癌学会

６．日本クリニカルパス学会

７．中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム

８．がん性疼痛看護認定看護師教育課程へ研修参加

○５階西病棟

＜概要＞

当病棟は、病床数 53 床（独立換気設備を伴う個室・有料個室、特定病床 3 床を含む）を有す、呼吸器系・消化器系・乳房など外科手術、又、一般整形外科（骨接合術、人工

骨頭置換術、関節鏡等）対象とした外科・整形病棟です。高齢化に伴い転倒による骨折患者様が多く、寝たきりにならぬよう早期離床、早期リハビリを開始しています。認知症患者様も多く、転倒転落予防・行動観察に努め、また、清潔ケアにも留意し、看護しています。

＜病棟の取り組み＞

毎週木曜日に特浴（平均 10～15 名）をおこない清潔ケアの充実をはかりまた毎週火曜日にはリハビリカンファレンスを実施病棟スタッフ、理学療法士、医療相談員を交えて積極的に意見交換、情報共有の場を持ちました。

急性期病院の性質上、整形外科の患者様は、回復期リハビリを目的とした転院調整に努めました。

＜平成 26 年 1 月－12 月＞

整形外科手術件数	308 件
外科手術件数	92 件
眼科手術件数	54 件
その他（歯科、耳鼻科、シャント造設）	10 件

○４階東病棟

病棟医長：中村隆治

病棟師長：小戸美智子

＜概要＞

当病棟は、脳神経外科・泌尿器科・耳鼻咽喉科を主とした５１床の混合病棟です。

今年度は、口腔ケアの充実を看護目標とし、勉強会や日々のケアのチェックなどに取り組みました。また、カンファレンスの充実にも力を入れました。月曜日の脳外科スタッフカンファレンス、火曜日の栄養カンファレンス、金曜日のリハビリカンファレンスは、定着してきています。脳卒中地域連携パスの運用、退院や転院に向けての、支援カンファレンスの開催も増えてきました。

２名の認定看護師（摂食嚥下・緩和ケア）と認知症認定看護師教育課程を修了した看護師、D-MAT で活躍する看護師の活動が、他のスタッフにも刺激となり、週１回のミニ勉強会を始め、積極的に研修に参加しています。病棟全体の看護のレベルアップが、患者さんから信頼される看護の提供に役立てばよいと思います。

＜病棟の取り組み＞

１．高橋理恵摂食嚥下認定看護師

・第 4 回地域密着ケア　地域包括ケア全国研修会「摂食・嚥下障害の方への食事介助」（7 月 12 日　15：00～16：30　広島県福山市）

・山口県看護協会　下関支部　教育研修「明日からできる食事介助・口腔ケア　基礎編」（10 月 30 日　18：30～20：00　下関生涯学習プラザ　宙のホール）

・山口県看護協会　豊浦支部　教育研修「高齢者の摂食・嚥下について～認知症患者への関わり方～」（11 月 8 日　10：00～12：00　下関市立豊浦病院）
・認定看護管理者研修ファーストレベル受講（6 月～11 月　西南女学院大学）

２．和田恵子緩和ケア認定看護師
・山口県緩和ケア研究会参加（5 月 18 日　山口県教育会館）
・第 19 回　日本緩和医療学会学術大会「これでいいんだ」参加
（6 月 20 日～21 日　神戸ポートピア・神戸国際展示場）
・第 38 回　日本死の臨床研究会年次大会「輝いて今を生きるために」参加
（11 月 1 日～2 日　別府国際コンベンションセンタービーコンプラザ）
・第 29 回　がん看護学会学術集会「先人に学び　がん看護の先を読む」参加
（2 月 28 日～3 月 1 日　パシフィコ横浜）

３．認知症看護教育課程終了（7 月 1 日～1 月 30 日　兵庫県看護協会）　林邦厚

４．平成 26 年度　臨地実習研修会参加（9 月 30 日～10 月 1 日　全国自治体病院協議会東京都市センターホテル）谷畔由香

５．D-MAT 技能維持研修（7 月 19 日～20 日　島根県）
災害看護研修会（3 月 17 日　宮城県）参加　飯垣昌文

６．クリニカルパス学会参加　（11 月 14 日～15 日　福井県芦原温泉）　小戸美智子　他

○４階西病棟

＜概要＞

当病棟は、整形外科疾患を中心とした病棟であり、脊椎外科と関節外科の周術期看護を主に行っています。術前には、患者が安心して手術に臨むことができるように、術後は早期離床を目標に、安全で安楽に術後が過ごせるように援助しています。

平成 26 年度は、看護部の目標でもある看護の質を高めるために、清潔ケアの回数を増やし、すべての患者に確実にケアが展開できるように配慮し、周手術期の多忙な業務のなか、患者とより多く関わるようにしました。

また、当病棟は試行的に２交代勤務を行っています。16 時間勤務という長時間勤務の中、夜間、患者に継続した看護が提供できるように、常に業務の効率化を考えながら日々看護しています。

＜スタッフ＞

看護師長　：山口香世
主任看護師：原田紀子、迫絹代、永井千春
看護師　　：24 名（有期雇用１名）
准看護師　：１名（有期雇用）
看護助手　：３名（学生アルバイト１名）

＜平成 26 年入院患者数＞　718 名（H26.1 月～H26.12 月）

脊椎外科手術件数	314 件（全症例全身麻酔）
主な疾患名	胸部脊柱管狭窄症、脊椎ヘルニア、腰椎すべり症、脊椎骨折、化膿性脊椎炎、変形性脊椎症、脊椎腫瘍、頚椎症性脊髄症、頚椎黄色靭帯骨化症、頚椎損傷
主な術式	MED、BKP、腰椎後方固定術、頚椎前方固定術、頚椎後方固定術、脊椎ヘルニア摘出術、脊椎腫瘍摘出術

関節外科手術件数	178 件（全症例全身麻酔）
主な疾患名	変形性膝関節症、変形性股関節症、変形性肩関節症、化膿性関節炎、前十字靭帯断裂、後十字靭帯断裂
主な術式	人工膝関節置換術、人工股関節全置換術、高位脛骨骨切り術、人工肩関節置換術、靭帯再建術、化膿性関節炎後の灌流

医療の高度成長に伴い、整形外科手術領域の術式や術後管理も変化しています。２回手術が必要となる脊椎の OLIF や、人工膝関節術後の疼痛コントロールの大腿神経ブロックの術後管理も行っています。

○３階東病棟

＜概要＞

当病棟は、52 床（有料個室２床・特定病床２床・ＨＣＵ4 床を含む）、循環器・心臓血管外科・腎臓内科を主とした病棟です。また、複数科（内科・整形・外科・眼科）も受け入れ、24 時間モニター監視を行い、急変の予見・回避に努め迅速な対応をしております。

H26 年度の病棟目標は“すべてのサービスは患者さんのために！”を掲げ、看護の質の向上に取り組みました。中でも特別浴槽への入浴介助を行ったことは、心身ともに回復へのケアができました。また現代では心臓疾患だけではなく、ASO が多く占め、下肢 EVT 治療の症例が増えており、フットケアの充実が必須となっています。私たち看護師も研修を受け、学び、早期発見のケアができるように取り組んでいるところです。今後も患者さん、ご家族とともに、質の高い医療・看護を提供できるように,真心で努めます。

＜平成 26 年度　症例件数＞

開心術：40 例　F-F・F-P：25 例　ストリッピング術：84 例　CAG：340 例
PCI：140 例　PMI：27 例（T-PM18 例）　EVT：98 例　下肢 PTA：25 例
シャント PTA：27 例　PET；7 例

人工呼吸器管理；3 例　ASV 管理；44 例　VAC 管理；4 例

○小児病棟

＜概要＞　病床数 21 床（独立換気設備を伴う 7 室を含む）

0 歳～15 歳までの小児を対象にし、全科の入院に対応しています。この年齢層は、心身の成長発達が著しいのが特徴です。各々の月令・年齢に応じた対応、コミュニケーションをとりながら安全に考慮しつつ看護を行っています。治療や処置に対して、患児の頑張る力を引き出せるよう、プレパレーションツールを用いながらの援助に努めています。また、感染症疾患で入院されることが多く、疾患・症状によってはベッドチェンジを行い、適切に感染管理を行っています。

プレイルームなどの飾り付けは、スタッフの手作りでシーズン毎に新しい物を作成しています。12 月に医療スタッフ主催のクリスマス会があり、毎年好評です。また、入院中に誕生日を迎える患児へバースディカードをプレゼントするなど、入院生活が苦痛に感じないように常にきめ細かい看護を行っています。お子様の入院で、心痛されているご両親への配慮も心がけています。

＜基本方針＞

・安全に考慮し、明るく笑顔で接します

・ご家族の方とのコミュニケーションを充分にとり、お互いに協力して、子どもたちの回復に尽くします

＜科別患者数＞H26 年 1 月～12 月

小児科	380 名	小児外科	34 名	整形外科	31 名	耳鼻科	40 名
外科	2 名	眼科	6 名	脳外科	2 名	歯科	1 名
内科	2 名	腎臓内科	2 名	消化器内科	4 名	血液内科	1 名
救急科	2 名						

○産科病棟

＜概要＞

産科病棟は 20 床を有する病棟です。（有料個室３床含む）少子高齢化の時代、患者層は産科のみではベットコントロールが困難であるため、婦人科、眼科、耳鼻科、整形外科等の女性患者を対象にケアを行なっています。女性患者対象にきめ細かい、患者様の視点での看護を展開しています。また、分娩に関しては、母子お二人の命を守るため、異常の早期発見に努め、妊産・褥婦ケアの充実にも力を注いでいます。

平成 26 年（平成 26 年 1 月～12 月）の総分娩件数は 110 件です。

内訳は経腟分娩 87 件、帝王切開術 23 件です。

有料個室は 3 床あり、利用される患者様が増えています。

助産師 9 名、看護師 9 名、計 18 名と少人数ですが、日々頑張っています。

＜取り組み＞

『安心の優しい母子ケアを』・・・産科的な取り組みとしては、母乳外来の他に助産師保健指導、両親学級や母親学級、産後一週間健診などをスタッフが一丸となって取り組

んでいます。核家族化で人間関係が希薄している中、常に相談しやすい環境づくりや安心した母子看護が提供できるように今後も取り組んでいきたいと思います。

＜科別患者数＞（平成 26 年 1 月～12 月）

産科	129 名	婦人科	66 名	整形外科	82 名	眼科	70 名
小児科	26 名	消化器内科	8 名	耳鼻科	9 名	外科	13 名
腎臓内科	8 名	歯科	6 名	救急科	9 名	内科	3 名
呼吸器外科	3 名	心臓血管外科	6 名	血液内科	1 名	泌尿器科	2 名
皮膚科	1 名						

○透析センター

＜概要＞

当センターでは、血液透析及び腹膜透析を始めとして血漿交換・白血球除去などの幅広い血液浄化を行っています。透析ベッド数は 20 床で、血液透析を月曜日～土曜日まで毎日、午前・午後の２クール体制で行っており、他施設からの紹介も柔軟に対応しております。夜間透析は行っておりません。腎臓内科医師 6 名、看護師 10 名、臨床工学技士 5 名で治療にあたっております。維持透析患者数は約 80 名前後で、平成 26 年 透析件数は 11,730 件でした。CAPD（腹膜透析）外来も充実し、月３回 午後より診察日を実施し手技の確認や腹部（出口部）の診察、自己管理ノートのチェック等を行っております。年々高齢化が深刻であり、指導に関しても個々に合わせた指導が重要です。また、長期透析に対する不安の除去や安全な医療サービスの向上に力を入れております。そして、スタッフの知識の向上を図るために、日本透析学会や近隣施設における研修・勉強会などにも積極的に参加しております。

○手術室

＜理念＞『安心』『安全』『ハートフル』

＜概要＞手術室　６室、術前診察室　１室

（人員構成）看護師長１名、主任３名、スタッフ 15 名、委託業務者数名

（勤務体制）日勤＋遅出　（12：30～21：00）の変則勤務

土・日・祝祭日は２名の８時間オンコール対応

全ての手術患者が安全な治療を受けられるよう、質の高い医療・看護の提供を心がけています。麻酔科医・臨床工学技師・放射線技師や他部門のスタッフ・中央材料室・委託業者など医療従事者以外の職種とも連携をとり、チーム医療を実践している部門です。

＜平成 26 年１月～12 月　手術件数＞

外　科	509	泌尿器科	71	小児外科	28
整形外科	1,090	耳鼻科	139	皮膚科	0
心臓血管外科	221	眼　科	545	放射線科	1
脳神経外科	81	歯科口腔外科	25	合　計	2,827 件
産婦人科	79	内　科	38		

平成 26 年の手術件数は、前年に比べ約 230 件増加しました。年々増加する手術件数に対応し、より質の高い看護サービスが提供できるように、平成 27 年１月より血管造影室の看護業務は、放射線科スタッフへ移譲し、手術室業務へ専念する体制へと一新しました。

在院日数短縮化傾向の医療現場で、患者構成も高齢・重症複雑化するなか、手術前の短期間に状態を把握し、ベストな手術環境が作れるよう努力しています。

また、今年度は増加する整形外科症例を効率よく手術できるように、Ｘ線透視装置を増台し、多目的手術台を更新しました。主に、多様化する脊椎症例などに活用しています。

○救命センター

病床数：８時３０分～２４時まで１０床運用

０時～８時３０分まで８床運用

病棟専任医：中原千尋　　病棟師長：石田清子

＜概要＞

救命センターは中原専門医のもと、師長１名、主任看護師２名、看護師 26 名、看護助手１名で、２：１看護体制をとっています。夜勤帯は、準夜勤務者５名、深夜勤務者４名が業務に従事し、救急初期治療後の患者と共に、心臓血管外科をはじめとする術後や、ＰＣＩ後などの患者の受け入れを行っています。また、全身麻酔手術症例はほぼ全例（５～８症例／日）、安全に当該病棟へ移動できるように、救命センター内で数時間術後管理を行う体制をとっています。

集中治療管理は各科の主治医に任され、基準に基づき、医師や救急センター、連携室、また、他病棟の師長との連携を密にしてスムーズに入退室が行われるようにしています。平成 26 年の年間入室者数は 730 人（前年 787 人）でした。

日々、変化していく医療体制の中、最新の情報を取り入れ、安心で安全な医療・看護を提供できるように、スタッフ全員で取り組んでいます。

＜平成 26 年　ＩＣＵ科別入室患者数＞

診療科	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	計
外科	19	15	16	12	18	15	14	24	25	17	14	23	212
心臓血管外科	8	11	15	13	14	12	11	6	8	8	11	8	125
脳神経外科	12	15	8	7	9	5	5	9	13	12	7	13	115
循環器内科	15	12	3	9	6	9	9	9	13	9	6	14	114
整形外科	2	2	4	5	13	9	9	7	5	8	8	2	74
内科(胃・消・血内含)	7	3	5	2	2	5	4	2	0	2	3	5	40
救急科	4	1	2	2	0	1	4	2	2	5	3	4	30
泌尿器科	2	2	3	0	2	1	1	0	0	2	2	2	17
耳鼻科	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	1	3
計	69	61	57	50	64	57	58	59	66	63	54	72	730

放射線部

【概要】

平成 26 年度放射線部は、昨年度採用した 2 名の女性技師たちも戦力となり総勢 21 名のスタッフで「患者様の満足度向上」を目標にして順調にスタートをきりました。しかし、年度後半に、技師 1 名減となり、「患者様の満足度向上」にどう取組むかという大きな課題に直面しました。スタッフの専属モダリティの枠を取払い、マンパワー配分のバランス調整を主任技師たちが行なうことにより、皆で協力してこの困難を乗り切る事ができました。この経験を経て放射線部スタッフ全員が患者サービスに対する意識を更に強く持ち、主任技師たちの采配で現場のチーム力が上がることを実感しました。

実際の診療に関しては、CT・MR・血管造影件数は 1 年間約 300 件の増加となりました。CT・MR 部門では、特に整形外科の件数が伸び、血管造影部門では循環器内科の件数の伸びが目立っています。放射線部では「患者様をお待たせせず、担当医の依頼にスピーディに応える」をモットーに業務を進めてきたことが件数増加の一助となっていると確信しています。

医療機器の更新では、島津社製のポータブル装置 2 台を導入しました。ポータブル撮影では同時に撮影依頼があってもすぐに対応できます。また、手術室に GE 社製の外科用 X 線 TV 装置 1 台を増設しました。これは手術室の効率的な運用に大変役にたっています。

【主な放射線機器装置】☆は平成 26 年度導入・更新機器

一般撮影装置	3	泌尿器・婦人科専用Ｘ線ＴＶ装置(DR)	1
FPD 一体型撮影装置	1	64 MDCT 装置	1
乳房撮影装置	1	16 MDCT 装置	1
パノラマ撮影装置	1	1.5ＴＭＲ装置	1
骨密度測定装置	1	デジタルガンマカメラ装置	1
ポータブル撮影装置　☆	4	バイプレーン血管撮影装置	1
CR システム	4	多目的血管撮影装置（IVR-CT）	1
FPD・カセット型パネル	3	ヘリカルＣＴ装置	1
外科用イメージ　☆	3	ライナック装置	1
Ｘ線ＴＶ装置（FPD）	2		

【関連学会等の認定資格所得など】

認定などの名称	人数	認定などの名称	人数
第一種放射線取扱主任者	1	救急撮影認定技師	1
第一種作業環境測定士	1	放射線機器管理士	2
消化器内視鏡技師	1	医療画像情報精度管理士	1
検診マンモグラフィ撮影認定診療放射線技師	3	Ai 認定診療放射線技師	1
医療情報技師	1		

【代表的な参加学会・研究会等】　＊は役員有

日本放射線技術学会	山口 CT UPDATE セミナー
日本診療放射線技師会	21 世紀山口核医学セミナー
＊　山口県診療放射線技師会	＊　山口乳腺画像研究会
＊　山口 MR 撮影技術研究会	＊　山口 IVR 懇話会
山口放射線治療研究会	＊　下関乳腺画像診断カンファランス
山口核医学技術検討会	九州循環器撮影技術研究会
CT テクノロジーセミナー	九州放射線治療システム研究会
山口 MRI　UPDATE	

【検査数】

項　　目		件　数	合　計
一般撮影系	一般撮影	37801	45294
	病棟撮影	5643	
	手術室撮影	1850	
CT 検査	単純	9954	13542
	造影	3588	
MR 検査	単純	4329	4833
	造影	504	
透視下内視鏡検査	消化器系	37	255
	気管支系	89	
	ERCP 関係	126	
	その他	3	
DR 検査	上部消化管	721	1391
	下部消化管	93	
	肝・胆・膵	54	
	泌尿器系	159	
	脊椎骨関係	294	
	その他	70	
核医学検査	脳神経系	23	283
	循環器系	25	
	全身検索系	219	
	その他	16	
血管造影検査		1079	1079
放射線治療		150	150
86Sr 治療		0	0

検査部

【概要】

検査部は、検査部長１名、臨床検査技師 29 名（職員 14 名、臨時職員 15 名）、事務職員 0.5 人で構成され、内１名が臨床工学技士で医療器材部兼務となっている。

職場は、建物の構造上、外来検査室（一般検査、血液検査、血液管理センター）、生理検査室、免疫血清・生化学検査室、細菌検査室、病理検査室の 5 部門に分かれている。

当院は、地域拠点またがん拠点病院としての責務を担い、24 時間救急体制に伴う日当直による迅速検査業務を実施している。日常検査は、正確なデータを臨床側に提供することを常に念頭におき、検査項目の見直しにも心掛けている。また検査の効率化を図る目的で、機器および検査内容の検討を引き続き行った。

今年度から、日本臨床衛生検査技師会認定の施設認証施設を取得し、確実なる検査室運営に弾みをつけた。

生理部門おいては、心臓・腹部・体表などほとんどのルーチンでの超音波検査は、技師が行っている。

日当直は通常 1 名で、血液、生化学、凝固、感染、免疫等、様々な検査に加え、輸血業務やノロウイルス、ロタウイルス、レジオネラ、肺炎球菌、マイコプラズマ抗原の迅速検査を実施している。グラム染色や結核菌染色も依頼があれば実施し、また心電図も技師が行っている。

2011 年 3 月から病院の電子カルテ（富士通）導入に伴い、検体検査部門システム（富士通社製、HOPE/LAINS-GX）を一新、その後は、随時情勢にあわせ改良し、使い勝手が良くなるよう工夫している。また、輸血システム（バイオ・ラッド）、生理検査システム(富士通)、細菌システム（シスメックス）、病理システム（JR 西日本）を接続させ、各々連携を図っている。

院内活動では、輸血療法委員会、病院情報化委員会、感染管理委員会、リスクマネジメント委員会など多くの委員会、また院内講演、学習支援活動等へ参加し、チーム医療の一員としての活動に努めている。糖尿病教室では、１コマを検査部が担当し、検査の意義、検査値の解釈について講義している。検査部内の勉強会としては、不定期ながら実施し、スキルアップを図っている。資格として、今年度山口県糖尿病指導士を新たに取得した。

院外活動としては、臨床検査技師会、専門学会をはじめ、多くの研修会、勉強会などに積極的に参加し、能力の向上に努力している。

【学術実績】

（１）学会・研修会

	月日	研修名	開催場所	氏名
1	4月15日	感染症講演会「当院におけるICTによる感染症診療支援」	下関市	菊池
2	4月16日	下関病理検査勉強会	下関市	佐々木・山本
3	4月20日	微生物基礎講座	下関市	長本
4	4月24日	感染管理委員会研修会「1階東稼働リハーサル」	下関市	菊池・竹内・長本・山本・宮﨑・近藤・重枝・田中・嶋田
5	5月2日	感染管理委員会研修会「N95マスクの使用」	下関市	菊池・佐々木
6	5月15日 ～17日	第62回　日本輸血・細胞治療学会総会	奈良市	大薗
7	5月25日	山口県医学検査学会	山口市	川元・菊池・大薗・山本
8	6月5日	感染管理委員会研修会「院内感染対策のピットフォール」	下関市	菊池・長本
9	6月7日	頚動脈エコーハンズオン	下関市	田邨・井手・重枝
10	6月7日	九州臨床感染症セミナー	北九州市	小田・長本
11	6月6,7日	第55回日本臨床細胞学会総会[春期大会]	横浜	川元・佐々木・山本
12	6月14・15日	第39回日本超音波検査学術集会	名古屋	平野
13	6月28日	日本超音波医学会　超音波診断講習会(心エコー)	名古屋	井手
14	6月25日	抗菌化学療法地域セミナー	下関市	菊池
15	7月3日	感染管理委員会研修会「結核の基礎」	下関市	菊池
16	7月13日	JSS 第16回中国地方会学術集会	松江	田邨
17	7月16日	福岡県臨床検査技師会北九州支部　輸血細胞治療部門講習会	北九州市	大薗
18	7月17日	感染管理委員会研修会 「結核の診断と治療」」	下関市	菊池
19	7月19日	日本超音波医学会　超音波診断講習会(消化器エコー)	神戸	田邨
20	7月20日	JSS 第19回地方会研修会（四肢の超音波検査）	北九州市	田邨・重枝
21	7月24日	呼吸器アカデミー「肺炎治療の最前線」	下関市	菊池
22	8月8日	下関乳腺画像診断カンファレンス	下関市	川元・田中・平野・井手・重枝
23	8月23日	輸血シンポジウム2014 in 九州	福岡市	宮﨑・大薗
24	8月24日	JSS関西　第22回地方学術集会	大阪	重枝
25	9月7日	山口県臨床検査技師会「嫌気性菌検査のすすめ」	宇部市	菊池・小田・長本
26	9月11日	第33回　関門血液疾患研究会	北九州市	竹内・嶋田
27	9月16日	感染症講演会「MRSA感染症の治療と最近の話題」	下関市	菊池
28	9月13日	九州細胞診研修会	熊本	山本
29	9月20,21日	細胞検査士養成ワークショップ	東京	山本
30	9月17日	福岡県臨床検査技師会北九州支部　輸血細胞治療部門講習会	北九州市	大薗

	月日	研修名	開催場所	氏名
31	9月20日	第30回九州乳腺画像診断研究会	北九州市	平野
32	10月4日	第18回九州乳房超音波研究会	福岡市	田邨
33	10月5日	第123回医用超音波講義講習会 中級者対象	福岡市	田邨・井手・中原
34	10月4日	山口県臨床血液部門研修会	宇部市	竹内、嶋田
35	10月5日	細胞検査士1次試験対策	広島	山本
36	10月15日	福岡県臨床検査技師会北九州支部　輸血細胞治療部門講習会	北九州市	大薗
37	11月4日	感染症講演会「病院で働く人にとってリスクとなる感染症－予防と対策」	下関市	菊池・中川
38	11月6日	感染管理研修会「脊椎術後感染症経験を生かした予防と治療のストラテジー」	下関市	菊池・小田
39	11月12日	平成26年度　輸血用血液の供給に関する懇談会	下関市	大薗
40	11月8,9日	第53回日本臨床細胞学会総会[秋期大会]	下関市	川元・佐々木・山本
41	11月15,16日	博多シンポジウム	福岡市	竹内、嶋田.,中川
42	11月20日	感染症と喘息管理	下関市	菊池
43	11月23日	north QEC	熊本	重枝
44	11月28日	肺炎治療のこれまでと今後	下関市	菊池・小田・中川
45	11月30日	JSS 中国第17回地方会学術集会	下関市	田中・平野・中原・井手・田邨
46	11月30日	感染防止対策研修会「感染防止対策の実践」	下関市	菊池
47	11月30日	山口県臨床検査技師会　輸血細胞治療部門講習会	宇部市	大薗　宮崎
48	12月11日	山口県臨床検査技師会下関支部研修会	下関市	松尾・竹内・嶋田・山本
49	12月13日	心エコー同考会	小倉	重枝・南條
50	12月18日	感染管理委員会研修会「ヒヤリハットと予防接種の最近の話題」	下関市	菊池・大薗・山本
51	12月19日	平成26年度山口県輸血療法委員会合同会議	山口市	大薗
52	12月23日	第124回医用超音波講義講習会	大阪	田邨
53	12月27日	ECHO九州2014乳房超音波検査講習会	福岡市	田邨
54	1月15日	感染管理委員会研修会「1階東稼働リハーサル」	下関市	菊池・松尾
55	1月17日	講演会「ロコモティブシンドロームとメタボリックシンドローム」	山口市	川元・菊池・佐々木・大薗・竹内・嶋田
56	1月23日	下関乳腺画像診断カンファレンス	下関市	川元・井手・平野・田邨
57	1月10,11日	第125医用超音波講義講習会	大宮市	平野・井手
58	2月6日	下関エコーセミナー	下関市	田邨・井手・平野・重枝・中原
59	2月9日	感染管理委員会研修会「膿胸の診断と治療」	下関市	川元・菊池・山本・中川・大薗
60	2月14日	山口県臨床血液部門研修会	山口市	竹内

	月日	研修名	開催場所	氏名
61	2月16日	感染対策ネットワーク下関「抗真菌薬　最近の話題」	下関市	菊池
62	2月22日	山口県病理細胞部門研修会	山口市	山本
63	2月1日	結核臨床研修会	山口市	中川
64	2月28日	第2回九州感染症検査フォーラム	福岡市	菊池・中川
65	2月28日	第19回九州乳房超音波研究会	福岡市	田邨
66	3月6,7日	第28回　日本自己血輸血学会学術総会	東京都	大薗
67	3月12日	平成26年度第6回北部福岡感染症研究会	北九州市	中川
68	3月2日	初心者でも明日からできるフットケア	下関市	川元
69	3月18日	福岡県臨床検査技師会北九州支部　輸血細胞治療部門講習会	北九州市	大薗
70	3月19日	医療安全研修会「注目されている医療安全」	下関市	竹内・山本
71	3月23日	医療安全研修会「糖尿病研修会」	下関市	川元・長本・山本
72	3月26～28日	心エコー図学会第26回学術集会	北九州市	中原・重枝
73	3月28日	第31回九州乳腺画像診断研究会	北九州市	田邨
74	3月29日	ECHO九州　心エコー図講習会	福岡市	重枝

【講師・座長】

月日	研修名	開催場所	役目	氏名
5月25日	第62回山口県医学検査学会発表 「凍結切片作製（川本法）導入に伴う初期投資抑制と運用方法」	山口市	演者	川元博之
5月25日	同上	山口市	共同演者	佐々木真理
5月25日	同上	山口市	共同演者	山本美奈
7月3日	感染管理委員会研修会「結核の基礎」	下関市	講師	菊池哲也
8月9日	第9回生物試料分析科学会 中国四国支部学術集会	高松市	座長	川元博之
9月13日	平成26年度日本臨床衛生検査技師会 中四国支部医学検査学会（第47回）	松山市	座長	佐々木真理

【検査実績】

［検査実績］

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	前年比	2013年
一般検査															
便検査	192	204	219	245	205	208	243	197	179	148	180	130	2,350	60.8%	3,863
尿検査	2,170	2,307	2,379	2,533	2,346	2,287	2,488	2,081	2,655	2,295	2,121	2,272	27,934	93.4%	29,918
穿刺液・採取液	22	24	30	37	35	34	24	26	49	33	30	29	373	107.8%	346
ピロリ菌検査	21	14	19	14	19	20	20	16	22	14	14	13	206	82.7%	249
小計	2,405	2,549	2,647	2,829	2,605	2,549	2,775	2,320	2,905	2,490	2,345	2,444	30,863	89.8%	34,376
血液学検査															
血液形態/機能	4,891	5,130	5,109	5,432	5,043	5,147	5,280	4,561	5,374	5,326	4,791	5,095	61,179	99.9%	61,232
出血凝固検査	1,259	1,229	1,200	1,308	1,137	1,150	1,161	1,036	1,210	1,244	1,124	1,253	14,311	93.9%	15,244
小計	6,150	6,359	6,309	6,740	6,180	6,297	6,441	5,597	6,584	6,570	5,915	6,348	75,490	98.7%	76,476
生化学検査															
生化学	4,934	5,136	5,086	5,432	4,995	5,175	5,309	4,610	5,477	5,462	4,889	5,235	61,740	85.8%	71,943
糖尿病検査	767	874	914	893	855	853	951	794	1,086	813	754	827	10,381	90.7%	11,448
血液ガス分析	556	568	533	522	515	525	479	413	506	471	380	369	5,837	89.8%	6,503
尿生化学	365	360	368	373	396	372	391	329	337	371	354	368	4,384	78.4%	5,592
小計	6,622	6,938	6,901	7,220	6,761	6,925	7,130	6,146	7,406	7,117	6,377	6,799	82,342	86.2%	95,486
血清学検査															
血清検査	1,869	1,998	1,820	1,963	1,780	1,868	2,063	1,716	1,883	2,276	1,914	2,040	23,190	97.1%	23,890
血中薬物検査	67	47	57	50	41	57	65	42	54	53	38	52	623	92.0%	677
小計	1,936	2,045	1,877	2,013	1,821	1,925	2,128	1,758	1,937	2,329	1,952	2,092	23,813	96.9%	24,567
輸血関連検査															
血液型検査	212	333	335	380	320	321	344	317	294	212	291	276	3,635	102.4%	3,550
不規則性抗体	206	220	205	235	189	199	201	216	226	206	212	210	2,525	104.0%	2,428
直接クームス試験	2	1	1	3	3	3	1	6	4	2	6	3	35	81.4%	43
交差試験	161	168	185	186	176	156	170	158	233	237	183	184	2,197	117.4%	1,871
小計	581	722	726	804	688	679	716	697	757	657	692	673	8,392	106.3%	7,892
その他検査															
ピロリ菌検査	21	14	19	14	19	20	20	16	22	14	14	13	206	82.7%	249
心筋マーカ検査	37	44	33	39	40	40	37	27	48	41	42	33	461	96.4%	478
小計	58	58	52	53	59	60	57	43	70	55	56	46	667	91.7%	727
細菌学検査															
一般細菌検査	673	661	603	676	716	651	630	607	608	679	811	648	7,963	103.5%	7,692
抗酸菌検査	59	54	31	46	56	35	46	52	63	73	67	68	650	87.5%	743
迅速検査	312	192	191	217	224	199	158	177	199	279	275	199	2,622	82.4%	3,182
小計	1,044	907	825	939	996	885	834	836	870	1,031	1,153	915	11,235	96.7%	11,617
病理検査															
組織検査	182	212	217	208	184	211	232	202	191	201	200	217	2,457	101.1%	2,431
組織迅速検査	17	16	15	11	10	16	10	9	14	16	10	9	153	87.4%	175
細胞診検査	186	217	227	242	234	244	273	258	250	212	200	201	2,744	96.8%	2,835
細胞診迅速検査	6	6	5	6	10	3	7	6	6	5	10	8	78	95.1%	82
小計	391	451	464	467	438	474	522	475	461	434	420	435	5,432	98.4%	5,523
生理学検査															
心電図検査	976	1,095	1,057	1,111	981	1,117	1,158	971	1,236	1,041	992	985	12,720	100.3%	12,688
脳波検査	19	8	11	24	30	15	19	8	8	9	10	15	176	106.7%	165
脈波検査	149	159	148	154	122	140	186	140	131	167	156	190	1,842	127.8%	1,441
肺機能検査	66	187	192	219	193	185	211	152	156	125	171	151	2,008	105.2%	1,908
超音波検査	636	782	825	829	753	823	870	796	707	717	763	687	9,188	104.1%	8,830
その他	7	9	14	9	1	8	7	10	5	12	13	15	110	90.2%	122
小計	1,853	2,240	2,247	2,346	2,080	2,288	2,451	2,077	2,243	2,071	2,105	2,043	26,044	103.5%	25,154
合計	21,040	22,269	22,048	23,411	21,628	22,082	23,054	19,949	23,233	22,754	21,015	21,795	264,278	93.8%	281,818

【資格取得】

資格等	人数	認定団体
認定輸血検査技師	2	日本輸血学会
細胞検査士（国際細胞検査士）	2	日本細胞学会
超音波検査士（腹部領域）	2	日本超音波学会
超音波検査士（体表領域）	2	日本超音波学会
認定一般検査技師	1	日本臨床衛生検査技師会
毒物劇物取扱者	2	厚生労働省
特化物・四アルキル鉛等作業主任者	3	厚生労働省
有機溶剤作業主任者	3	厚生労働省
山口県糖尿病療養指導士	1	山口県医師会
医療情報技師	1	医療情報学会

【院外活動】

院外活動役職名	人数
山口県臨床検査技師会会長	1
山口県臨床検査技師会臨床化学部門実務委員	1
山口県臨床検査技師会臨床生理画像部門実務委員	1
日本試料分析学会評議委員	1

臨床工学部

【理念】

質の高い臨床技術の提供と安全かつ効率的な医療機器の運用に寄与します

【基本方針】

1. 医療機器の専門家としての自覚を持ち、良質で安全な医療が行えるようチーム医療に心掛けます。
2. 医療の高度化に対応するために、常に自己研鑽に励みます。
3. 医療機器の安全確保と有効性維持のための点検、教育に努め安全・安心の医療に貢献します。

【スタッフ】

臨床工学部部長：上野安孝

臨床工学部技師長：松原伸夫

臨床工学技士：技師長を含め８人（パート職員１人）

委託職員：２．５人（１人は午後勤務）

【概要】

平成２４年４月１日、病院の地方独立行政法人化と同時に医療器材部の名称を臨床工学部へと変更。平成２４年、２５年に臨床工学技士計３名を増員し業務の拡張・充実を図った。臨床工学部の理念と基本方針は、市民から信頼される病院である事に寄与することを目標とする。

近年の医療及び医用機器の高度化においては、臨床工学技士の果たす役割は大きく、技士の活躍の場は広がりつつある。ますます高度化、複雑化する医療機械を専門的知識のある臨床工学技士が保守・点検・操作することにより診療の安全性を増し、他の医療スタッフとの連携を図りながら、より安全で質の高い医療の提供ができるよう日々努力している。

業務は、臨床技術支援業務（手術部業務、心臓カテーテル関連業務、血液浄化業務、内視鏡室）とＭＥ機器中央管理業務の２つに大きく分けられ、専属の臨床工学技士８名（内１名はパート）、委託職員２．５名で、院内の生命維持管理装置や医療機器の操作及び保守点検を行っている。また、部門を血液浄化業務部門、内視鏡室と手術室関連業務・医療機器管理業務部門に分け血液浄化業務部門に４人（臨床工学技士職員３人、パート１人）と内視鏡室に１人、手術室関連業務・医療機器管理業務部門に５．５人（臨床工学技士３人、委託職員２．５人）を配置し、血液浄化と手術室部門の技士２人を１日交代でローテーションしている。また糖尿病患者における血糖測定器使用説明を３０名の患者様に実施した。

平成２６年度は、ベッドサイドモニタ、セントラルモニタ、送信機の更新・増設を行い、

それまで受信不良であった３階東病棟にアンテナを増設し安定的に受信できるようにした。またそれまで業者任せであったチャンネル管理を臨床工学部で一元的に管理できるようチャンネル設定を見直した。

院内活動としては、医療機器等検討委員会、感染管理委員会、リスクマネジメント部会、広報年報委員会、ＣＳ推進委員会など多くの委員会、各種院内講演会への参加、新人職員に対する教育講演の講師、院内職員に対する医療機器研修の企画立案、医療機器安全情報の広報などを通してチーム医療への参画・業務支援に努めてきた。院外活動としては、臨床工学技士会、専門学会などの学術集会、研修会、勉強会などに積極的に参加し最新知識・技術の向上に努めてきた。また今年度は、東亜大学医療工学科学生４名の １ ヶ月間の病院実習を受け入れ、教育指導した。

【業務内容・動向】

１．ＭＥ機器中央管理業務

院内での汎用性の高い医療器材部中央管理機器 13 機種の中央貸出・返却業務と各種医療機器の定期点検、保守点検、修理は主に臨床工学技士の監督のもとに委託職員が担当している。臨床技術支援が伴う生命維持管理装置・術中モニタリング装置の保守・定期点検、医療機器管理台帳管理は臨床工学技士が担当し、さらに医療機器を安全かつ効率的に運用できるように保守点検・計画的購入を行っている。また、院内での医療機器セミナー及び他職種向けの医療機器取扱いに関する研修会を開催したり、医療機器安全情報を広報しており、患者様に安全かつ有用な医療を提供できるように努めている。

2014 年 4 月 10 日	電子血圧計レジーナ３台を 4W に配置
2014 年 4 月 11 日	ベッドサイドモニタ DS8100 を９台、セントラルを 3E に１台、SPO2 付送信機２台設置
2014 年 4 月 11,15,17 日	3 階東モニター通信システム整備
2014 年 5 月 31 日	6E,5E,5W,4E,4W,3E 送信機ベッドサイドモニタ CH 変更
2014 年 6 月 20 日	パルスオキシメータ N-65 を 2 台小児病棟へ配備
2014 年 7 月 15 日	内科外来自動血圧計を HBP-9020 に更新
2014 年 7 月 28 日	電子血圧計レジーナ７台を配置
2014 年 7 月 29 日	フクダ電子送信機 LV-7120 を４台増設
2014 年 7 月 30 日	カフ圧計３個追加、１個故障更新、合計９個
2014 年 8 月 8 日	空気清浄器５台追加管理、計１２台
2014 年 10 月 17 日	超音波手術器 CUSA Excel を１台手術室へ購入配置
2014 年 11 月 1 日	超音波血流計ミニドップを１台カテ室へ追加配置
2015 年 2 月 6 日	エアーマット　ネクサス（83ｃｍ幅）5 台納入管理、除圧マットナッソ（83ｃｍ幅）5 台納入管理

2015 年 2 月 26 日	パラマウント新ベット 126 台(内１８台は離床センサー付き)納入管理
2015 年 3 月 19 日	産科病棟へ酸素流量計 1 個追加
2015 年 3 月 27 日	テルモ輸液ﾎﾟﾝﾌﾟ TE-161S、シリンジﾎﾟﾝﾌﾟ TE-351 各 10 台納入
2015 年 3 月 28 日	人工心肺装置 HAS、心筋保護液救急装置 HCP-5000A 定期点検
2015 年 3 月 31 日	SCD エクスプレス 2 台更新

２．管理機器

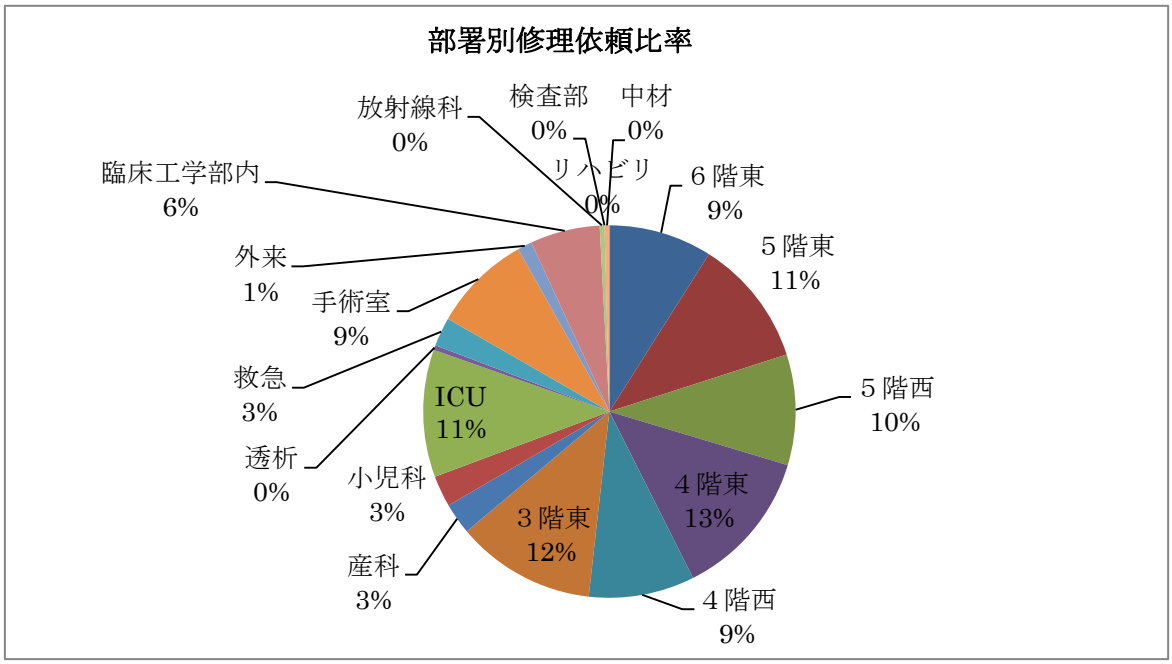
生命維持管理・モニタリング装置

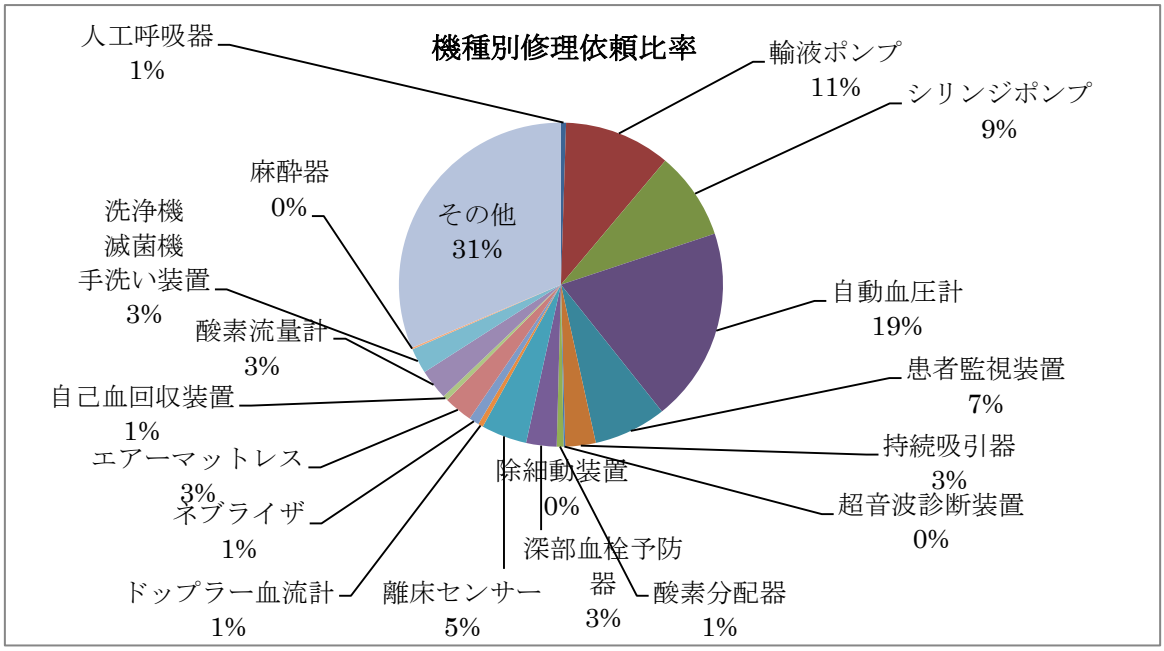
機器名	台数（台）
人工心肺	1
PCPS	1
IABP	2
除細動器	10
体外式ペースメーカ	8
人工呼吸器	18
透析装置	21
CHDF	1
血漿交換装置	1
神経機能検査装置	2
連続心拍出量測定装置	3
自己血回収装置	3

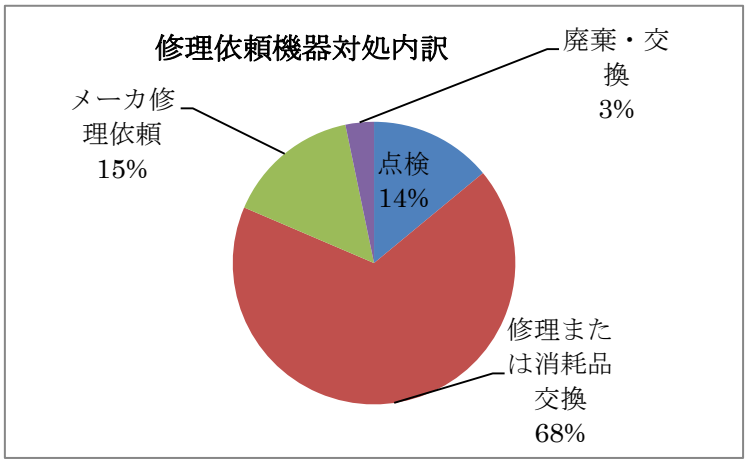
医療器材部中央管理機器

機器名	台数（台）
AED	6
輸液ポンプ	168
シリンジポンプ	120
自動血圧計	21
中央患者管理装置	21
移動式患者管理装置	65
ポータブル吸引機	7
持続吸引機	12
低圧持続吸引機	17
IPC 装置	34
自己血回収装置	1
空気清浄機	12
二又アウトレット	44
離床センサー	33
自動点滴装置	6
超音波ネブライザー	16
経腸栄養ポンプ	4

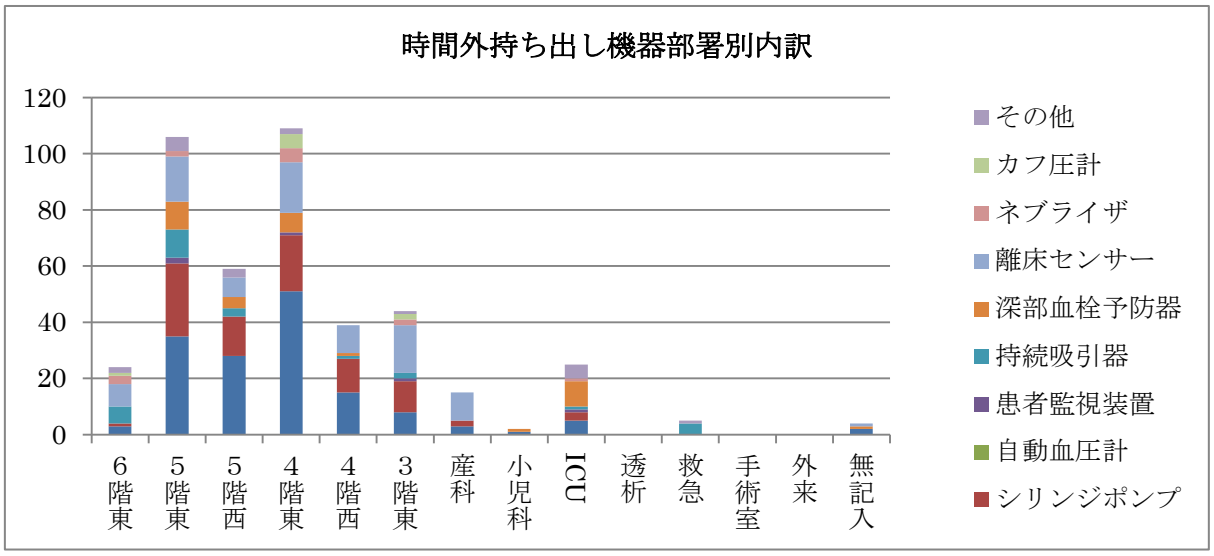
３．修理関連統計


部署別修理依頼比率
放射線科 0%
検査部 0%
中材 0%
リハビリ 0%
６階東 9%
５階東 11%
５階西 10%
４階東 13%
４階西 9%
３階東 12%
産科 3%
小児科 3%
ICU 11%
透析 0%
救急 3%
手術室 9%
外来 1%
臨床工学部内 6%

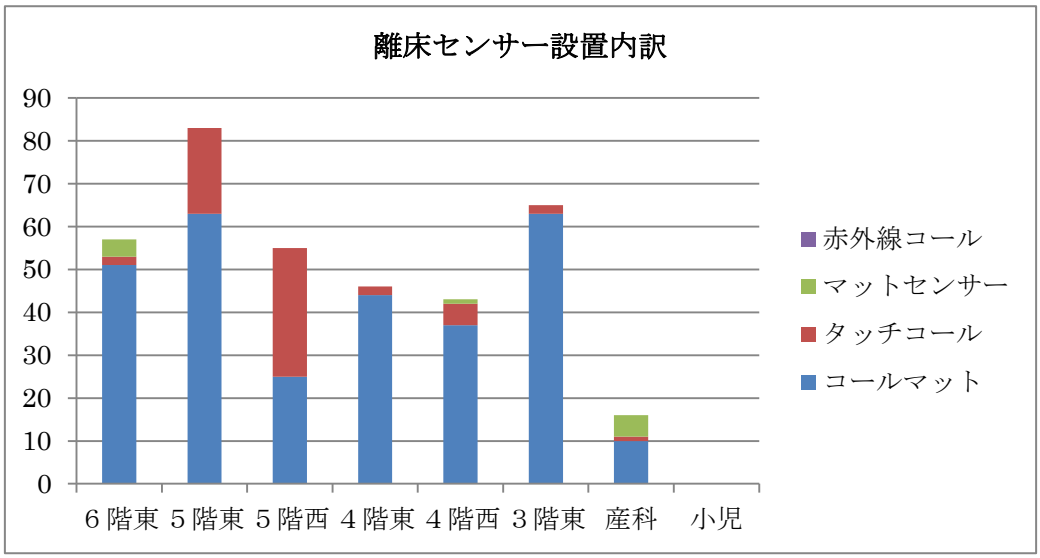

機種別修理依頼比率
人工呼吸器 1%
輸液ポンプ 11%
シリンジポンプ 9%
自動血圧計 19%
患者監視装置 7%
持続吸引器 3%
超音波診断装置 0%
酸素分配器 1%
深部血栓予防器 3%
除細動装置 0%
離床センサー 5%
ドップラー血流計 1%
ネブライザ 1%
エアーマットレス 3%
自己血回収装置 1%
酸素流量計 3%
洗浄機 滅菌機 手洗い装置 3%
麻酔器 0%
その他 31%



４．時間外持ち出し統計



５．離床センサー設置統計



６．手術室業務

人工心肺装置、補助循環装置である PCPS（経皮的心肺補助装置）や IABP（大動脈内バルーンパンピング）、術中自己血回収装置の操作及び保守点検、心臓血管外科・整形外科・脳神経外科分野での SEP（体性感覚誘発電位）、経頭蓋高電圧電気刺激による MEP（運動誘発電位）、SCEP（脊髄誘発電位）、SSEP による中心溝の同定、ABR（聴覚誘発電位）の測定および Facial の術中モニタリング業務を行っている。時間外呼出は１回であった。

平成２６年度実績

項目	件数
人工心肺	39
OFF-PUMP	23
IABP	16
PCPS	7
術中自己血回収	165
誘発電位測定	315

７．心臓カテーテル関連業務

平成２４年２月より、検査部が行っていた心臓カテーテル検査・治療業務を開始した。心臓カテーテル検査・治療が安全で正確に行われるようにポリグラフによるモニタリングを行っている。急変時には PCPS（経皮的心肺補助装置）や IABP（大動脈内バルーンパンピング）などの補助循環装置の組み立て・操作を行っています。またＨ２５年１１月より下肢アンギオ、下肢ＥＶＴの症例の立会い業務を開始。１１件に立ち会った。時間外呼出は２５回であった。

平成２６年度実績

患者数	659
緊急患者数	42
項目	件数
CAG	501
PCI	146
LVG	11
右心	49
IABP（カテ中導入）	15
PMI	26
PME(G 交換)	13
EVT	119
PCPS（カテ中導入）	2
体外式ペースメーカ	44

８．血液浄化業務

・人工透析

透析センター（20 床）にて月曜日～土曜日まで午前・午後の 2 クールで透析治療を行っている。緊急時や手術後の透析は救命センターで個人用透析装置を使用して行っている。ICU での時間外透析、ＣＨＤＦの技士の呼出対応は１２回であった。

平成２６年度実績

項目	患者数
持続緩徐式血液濾過透析	8
単純血漿交換	1
白血球除去療法	4
腹水濾過濃縮再静注法	6

・特殊血液浄化

様々な疾患に合わせて透析センターと救命センターで CHDF（持続緩徐式血液濾過透析）、エンドトキシン吸着、白血球除去療法、血漿交換・血漿吸着療法、腹水濾過濃縮再静注法などを行っている。今年度腹水濾過濃縮再静注法の延べ回数は１１回（患者数６人）で昨

年より倍近くに増加し、多くの癌患者の苦痛の緩和に寄与できた。

９．内視鏡室業務

内視鏡室で使用する全ての機器に対して機器管理台帳を作成し、機器の保守管理を担当。また内視鏡検査や治療での介助業務や、スコープの洗浄・消毒を行い消毒薬濃度判定の実施を含め洗浄・消毒の履歴管理など感染管理も行っている。

平成２７年３月に、診察台が経年劣化により不具合が生じた為、パラマウントベッド昇降式診察台３台を更新。ベッド柵もあり、より安全な検査・治療を行えるようになった。

【学術実績】

（１）　学会・研修会

年月日	学会・研修会名	開催地	参加者
2014/4/10	第2回山口ディバイスフォーラム	小郡	松原、原田
4/13	平成26年度山口県臨床工学技師会学術大会・総会	山口市	松原、佐々木、鈴木雄揮、前田,藤田、原田
4/27	第2回ナースのための山口県人工呼吸器セミナー（山口救急医療を向上させる会主催）	宇部市	松原
6/7～8	日本体外循環第11回教育セミナー1年次	福岡市	松原
6/13～15	第59回（社）日本透析医学会学術集会・総会	神戸市	鈴木雄揮
6/6、8	KOKURA LIVE 2014	北九州市	原田
7/6	第17回ME機器セミナー	徳山市	松原、佐々木、藤田
7/13	透析セミナーin海峡メッセ14	下関市	佐々木、鈴木、前田、藤田
9/7	第3回山口県臨床工学技士会ペースメーカ講習会	山口市	松原、佐々木
9/27	Yamaguchi catheter Comedical Conference 2014 Autumn	小野田市	松原
10/11～12	第40回日本体外循環技術医学大会	広島市	松原
10/25	WCCM in FUKUOKA 2014	福岡市	原田
11/15～16	第18回血液透析技術基礎セミナー	久留米市	前田、藤田
11/30	第8回山口県臨床工学技士会血液浄化基礎セミナー	徳山市	松原、佐々木、鈴木、原田、藤田
12/7	(社）山口県臨床工学技士会主催第14回心電図セミナー	山口市	松原
2015/2/1	メラサキュームMS-008保守点検技術講習会	下関市	松原、鈴木、原田
3/6～8	第7回血液浄化専門臨床工学検定試験	東京都	佐々木

(1)　学会発表

開催年月日	演　題　名	演　者	共同演者	学　会　名	場所
2014年6月13日～15日	間歇型血液濾過透析(I-HDF)の補液設定と臨床効果の検討　ポスター発表	鈴木雄揮	藤田忍，鈴木あゆみ，前田友美，佐々木毅，乙咩崇臣，田中洋澄，吉水秋子，吉村潤子，坂井尚二	第59回日本透析医学会学術集会・総会	神戸国際会議場

（３）院内医療機器講習会

年月日	テーマー	参加者
2014/4/17	MRI対応ペースメーカー説明会（INGENIO　MRI）	CE4名
2014/8/1	血糖測定、測定器の取り扱い、血糖測定実技	看護師29人、CE3人、事務局1人。
2014/8/8	小児人工呼吸器の基礎とサーボiを用いた実習①	医師5人、看護師42人、CE2人
2014/8/26	小児人工呼吸器の基礎とサーボiを用いた実習②	医師1人、看護師11人、CE5人
2014/9/25	ペースメーカー勉強会（3回目）	循環器病棟看護師人15人、内科外来看護師2人
2014/11/14	人工呼吸器Trilogy200の使用説明　（1回目）4W	4階西看護師20名
2014/11/17	人工呼吸器Trilogy200の使用説明　（2回目）4W	4階西看護師8名
2014/12/8	人工呼吸器Trilogy200の使用説明　（3回目）3E,透析	3階東看護師9名、透析部門看護師2名
2015/1/30	人工呼吸器Trilogy200の使用説明　（4回目）6E	6階東看護師10名

【所属学会】

（社）日本臨床工学技士会　７名
（社）山口県臨床工学技士会　７名
（社）日本臨床検査技師会　２名
（社）日本体外循環技術医学会　２名
（社）日本臨床微生物学会　１名
（社）日本環境感染学会　１名

栄養管理部

【理念】　『食べることを通じてチーム医療の一翼を担い、
患者様の健康回復に貢献するよう努めます』

【概要】

栄養管理部は、平 俊明医師を部長とし、栄養士５名（うち管理栄養士４名、栄養士１名）の病院職員が栄養管理業務を担当している。給食業務は一部委託での運用である。入院患者の栄養管理では、患者の栄養・喫食状態に基づいて、管理栄養士が医師・看護師と共に栄養管理計画を作成している。患者に対する栄養管理内容の説明は、受け持ち病棟ごとに管理栄養士が行ない、併せて患者の嗜好や喫食状況などを把握し個別対応による食事提供を心がけている。また、新しい補助食品などを導入し、喫食量の増加に繋げるとともに、低栄養状態や治療による摂食障害の患者に対しては、多職種のスタッフで構成したＮＳＴ（栄養サポートチーム）により栄養状態の改善に取り組んでいる。

給食管理においては、衛生管理強化のため、お茶と箸コップを食事と供に毎食提供し配膳も施設職員で開始。嚥下対応のソフト食のメニュー変更、誕生食、化学療法による食欲不振の方へにこにこ食（緩和食）、リクエスト食を継続し、嗜好、形態の考慮と摂取量の増加に委託業者とともに取り組んだ。行事食も毎月行い、季節感を大切に献立作成に取り組んだ。また、6 月からは niko café（にこカフェ）を毎週木曜に開設し、1 回約 40 人、延 1657 人に利用していただいた。

入院・外来患者に対しての栄養指導では、病棟担当栄養士が入院時栄養指導に力を入れ、入院時から治療にあわせた食事を食べていただき、患者自らが食事改善できるよう、より実践的な指導を行なった。

院内の活動においては、栄養管理について検討する栄養管理委員会のほか、感染管理クリニカルパス、ＤＰＣ、医療事務検討、ＮＳＴ、褥瘡対策、リスクマネジメント部会、緩和ケア病棟ワーキンググループ、各病棟での栄養カンファなどに参加し、チーム医療の推進に取り組んだ。

【栄養管理部人員構成】　平成２７年３月３１日現在

平　部長（耳鼻咽喉科部長兼務）

管理栄養士　３名　　パート管理栄養士　１名　　パート栄養士　１名

＜委託＞

管理栄養士　１名　　栄養士　４名　　調理師　１０名

調理員　８名　　調理補助　４名　　食器洗浄　６名

【業務動向】

給食数は入院患者数の減少に伴い、前年度に比べて約２％減少した。しかし、特別食は６．２％増えており、特に減塩食、心臓病食、カロリーコントロール食などの食数が増加している。入院時からの栄養士介入で患者にあった治療食への変更と治療における食事管理の重要性への他職種の認識向上の傾向が認められたものと考える。

栄養指導件数は前年に比べて 1.2 倍（2341→2701 件）に増加、特に入院患者への指導が 1.2 倍（1848→2142 件）に増加している。これは各栄養士を病棟制とし、入院時からの積極的な栄養指導を行ったことによる。心臓疾患が 710 件の 125 件増、糖尿病 626 件の 76 件増となっている。また、外来の糖尿病教室も月 2 回定期集団指導を行い 180 人が参加された。今後も、治療の一環としての栄養指導の件数増加につなげていきたい。

【給食実施状況(2014.4.1～2015.3. 31)】

1. 食種別　患者給食数　　(単位:食)

食　種			合計	全体比%
一般食		常食	26,795	10.3
		軟菜(米-5分)	77,296	29.6
		3分粥	279	0.1
		流動	7,584	2.9
		計	111,954	42.9
特別食	非加算食	幼児	2,537	1.0
		離乳	317	0.1
		離乳アレルギー	17	0.0
		アレルギー	51	0.0
		消化不良	494	0.2
		出産祝い膳	104	0.0
		低残渣	8,573	3.3
		減塩	16,162	6.2
		生もの制限	2,933	1.1
		嚥下食	11,866	4.6
		にこにこ食	1,570	0.6
		濃厚流動(非加算)	7,267	2.8
		検査前低残渣	123	0.0
		腸検査(非加算)	19	0.0
		検査後	1,413	0.5
		非加算計	53,446	20.4
	加算食	術後	5,040	1.9
		潰瘍・吐血	2,980	1.1
		肝A高たんぱく	519	0.2
		肝B低脂肪	679	0.2
		肝C	158	0.1
		膵臓	1,441	0.6
		腎不全	12,113	4.6
		透析	8,781	3.4
		ネフローゼ	921	0.4
		小児腎	0	0.0
		妊娠高血圧症	2	0.0
		糖尿性腎症	7,832	3.0
		心臓病	21,451	8.2
		カロリー制限	31,784	12.2
		腸疾患・腸炎	523	0.2
		濃厚流動(加算)	177	0.1
		腸検査(加算)	317	0.1
		貧血	1,198	0.4
		加算計	95,916	36.7
	特食計		149,362	57.1
合　計			261,316	100.0

2. 栄養指導件数　　(単位:件)

	合計	入院	外来
腎臓病	255	181	74
心・高血圧	735	710	25
糖尿病	769	626	143
アレルギー	50	0	50
肝臓病	16	14	2
膵臓病	33	32	1
胃潰瘍・術後	183	175	8
人工透析	137	127	10
脂質異常症	53	45	8
クローン・腸炎	25	23	2
糖尿性腎症	128	110	18
その他	66	65	1
非:アレルギー他	51	31	20
非:糖尿病教室	189	9	180
非:母親学級	11	0	11
総件数	2,701	2,148	553

非:栄養指導非加算

緩和食～にこにこ食

誕生食

Niko café(にこカフェ)6 月 5 日 open

嚥下食Ⅲ

【イベント食実施状況】 ☆は、メッセージカード付き

実施日		イベント	行事献立
毎月	1 日		散らし寿司
4月	10 日 ☆	お花見弁当	お花見弁当、一口デザート
5月	5 日 ☆	こどもの日	柏餅、豆ごはん
6月	19 日 ☆	あじさい弁当	あじさい弁当、寒天
7 月	7 日 ☆	七夕	そうめん、水ようかん
	29 日 ☆	土用の丑	うなぎ料理
8 月	15 日 ☆	暑中見舞い	冷やしうどん
9 月	23 日 ☆	秋分の日	栗ご飯、茶碗蒸し
10 月	22 日 ☆	紅葉弁当	紅葉弁当、くずまんじゅう
11 月	14 日 ☆	世界糖尿病デー	糖尿病献立
12 月	23 日	(小児病棟クリスマスデザートプレート)	
	24 日 ☆	クリスマス	クリスマスローフ、デザート
	31 日	大晦日	年越しそば
1 月	1 日 朝☆	雑煮	
	〃 夕	おせち料理	
	7 日 ☆	七草粥	七草粥
2 月	3 日 ☆	節分	炊き込みご飯、福豆
	9 日 ☆	“ふく”の日	ふくの刺し身
3 月	3 日 ☆	ひなまつり	ひなまんじゅう、散らし寿司

薬局

理　念

『患者様への安心、良質、適切の優しい薬物療法に寄与します』

基本方針

１．常に患者様中心の医療を考え、医薬品の適正使用の推進を使命とします。

２．「くすりの専門家」としての専門知識を携え、医療チームの一員として、高度医療を支えます。

３．高い知識と技能の水準を維持するよう研鑽に努めます。

〔スタッフおよび業務動向〕

平成 26 年度は、薬局長以下、総薬剤師数 13 名・調剤補助員 2 名のスタッフで、調剤・注射調剤・院内製剤・無菌製剤・薬品管理・麻薬管理・治験薬管理業務・医薬品情報管理（ＤＩ）・薬剤管理指導業務（病棟業務）・チーム医療への参画（感染対策チーム、栄養サポートチーム、がん化学療法、緩和ケアチーム、褥創対策チーム、リスクマネージメント、糖尿病教室チーム）に従事した。

平成 26 年度から短期入院患者の薬剤管理指導件数が除外された為、平成 26 年度実績は前年比平均 584 件/月から 557 件/月の 4.6%の減少となった。平成 26 年度は持参薬鑑別業務を積極的に進めた結果、平成 25 年度実績 440 件/月から 13.6%増加し 500 件/月となりより安全な医療の提供が行えた。8 月から薬剤師 1 名を下関医療センターにおいて 10 回の研修を修了することができ将来栄養サポートチームへの貢献も期待できる。さらに主取引薬品卸を 3 社にすることにより、簡素化された契約形態となり医薬品の購入までの時間が短縮でき医療の迅速性にも対応できた。

昨年度は受け入れていなかったが本年度は長期実務実習生を 2 名受け入れることができた。薬学生の病院見学や高校生の病院薬剤師職場体験を行うことにより病院薬剤師の社会的貢献も周知させることができた。

下関市薬剤師会においても医療安全委員会が発足し、調剤事故過誤報告書・処方変更による再調製の依頼と報告・再調剤の薬薬連携運用も下関市立市民病院の方式が基本となり下関市薬剤師会での運用も間近となっている。これは医療安全に対する当院薬局の評価が高いことを示す。

【平成 26 年度実績】

常備医薬品数（平成26年5月現在）

内服薬	598 品目
外用薬	276 品目
注射薬	472 品目
合計	1,346 品目

後発医薬品院内採用品目数

内服薬	61 品目（8.5%）
外用薬	16 品目（7.6%）
注射薬	26 品目（5.3%）
合計	103 品目（7.2%）

平成26年度薬事審議会結果

新規採用	18 品目
削除	14 品目
後発切替	2 品目

払出し管理薬品数

麻薬	22 品目
毒薬	21 品目
向精神薬	12 品目
全身麻酔薬	4 品目
ＰＧＥ$_1$膣坐薬	1 品目
血漿分画製剤	18 品目
合計	79 品目

院内製剤件数

院内製剤	品目数	製剤件数
注射剤	1	373
外用剤	30	1,244
内用剤	0	0
合計	31	1,617

無菌製剤処理件数

	処理件数
ＴＰＮ	852
抗がん剤	1,824
合計	2,676

治験薬管理業務

治験実施件数	症例数
5	10

処方箋枚数　（枚）

		年間合計	1日平均
外来処方箋	院内処方箋	10,275	42.1
	院外処方箋	76,275	312.6
入院処方箋		43,960	120.4
注射処方箋（入院）		75,170	205.9
注射処方箋（外来）		11,296	46.5
注射処方箋（外来化療）		821	3.4
麻薬処方箋	内服・外用	825	2.3
	注射	4,804	13.2
	合計	5,629	15.4

院外処方箋発行率	88.1%

薬剤管理指導算定件数

		合計	月平均
患者数（人）		4,550	379
薬剤管理指導（件）	総算定数	6,659	555
	ハイリスク薬	2,749	229
	一般薬	3,910	326
加算（件）	麻薬指導	169	14
退院時指導（件）		2,305	192

医薬品鑑別件数

件数	剤数
6,008	44,105

化療レジメン管理

レジメン数
186

外来患者薬剤情報提供件数

一般	手帳
3,888	3,888

血中濃度解析件数（抗ＭＲＳＡ薬）

初期投与設計	2
ＴＤＭ解析	10

医薬品情報提供（紙媒体）

・医薬品集2014年度全面改訂版
・医薬品集2014年度追補版3回発行

長期実務実習生受入れ実績

3ヶ月間：2名

〔学会発表等〕

開催年月日	演　題　名	演者	共同演者	学　会　名	場所
2014.11.23 ～24	山口県における「免疫抑制・化学療法による B 型肝炎再活性化」対策の現状と課題	平岡ひろ子	伊東真由子、岡智之、尾崎正和、木下英樹、蔵田康秀、塚原邦浩、光末尚代、山本武史、佐藤真也、古川裕之	第 76 回九州山口薬学大会	長崎ﾌﾞﾘｯｸﾎｰﾙ他
2015.2.7	山口県における「免疫抑制・化学療法による B 型肝炎再活性化」対策の現状と課題	平岡ひろ子		第16回「山口県病院薬剤師会がん薬物療法専門薬剤師育成セミナー」	山口市

〔薬剤師の他の資格取得者〕

日本病院薬剤師会　がん薬物療法認定薬剤師　１名
日本病院薬剤師会　生涯研修履修認定薬剤師　５名
日本薬剤師研修センター　研修認定薬剤師　３名
日本薬剤師研修センター　認定実務実習指導薬剤師　４名
やまぐち糖尿病療養指導士　１名

地域医療連携室

当院では平成１４年５月から地域医療連携室の活動をしています。
病病連携、病診連携を推進するために、以下のことを特徴とした業務を行っています。

【コンセプト】　地域の先生方との協力を推進する管制塔としての役割を果たす

【業務】
１．紹介患者の予約
２．紹介患者の返書の徹底
　返書および退院サマリーの送付の徹底（把握と督促）
３．逆紹介の把握
４．病床管理
５．退院調整・相談業務
６．広報に関して
７．奇兵隊ネット（連携医療機関へのカルテ開示）

【会議】　地域医療連携推進委員会
　　病床管理委員会

【紹介患者予約システムの特徴】
１．ベテラン看護師（スタッフ参照）が対応します（専用電話線・ＦＡＸにて対応）。
　診察医師の指定にも十分対応しています。
　疑問や不明な点があれば何なりとご連絡ください。
２．**事前予約システムです。**ファックスなどで事前にご連絡頂ければ、おおよそ５分以内にご紹介頂ける患者の予約をします。連絡をいただいた時に、電子カルテの患者登録を致します。そのための待ち時間がありません。
３．紹介患者専用の受付窓口を設けました。紹介患者受付にお越しください。
　保険証の確認等をさせて頂き、各外来までご案内いたします。
４．予約頂いた時間に診察を開始いたします。診察開始まで約 30 分以内です。
５．**紹介頂いた先生方への返事を徹底します。**
　紹介状に対する返事の状況をチェックし、タイムリーに返事を送付いたします。
　平成２０年１月から、退院サマリーの送付も徹底させています。
６．**逆紹介を推進します。**
　紹介された患者は当院での医療が終了した時点で紹介元へ逆紹介します。

【スタッフ】

連携室室長（副院長）	坂井　尚二
副室長（副看護部長）	河田　うしを
副室長（社会福祉士）	金子　佳子
相談員	葛目　知沙　・　八垣　悦子　・　近藤　裕子
事務担当	竹中　順子　・　村上　貴代美

【専用回線】

地域医療連携室	ＴＥＬ：０８３－２２４－３８６０
	ＴＥＬ：０８３－２２４－３８６１

【活動状況】

１．紹介数

	2012 年度	比率(%)	2013 年度	比率(%)	2014 年度	比率(%)
連携室取り扱い予約	3900	62	4538	69	5458	70
予約無しの紹介	2435	38	2021	31	2364	30
合　計	6335	100	6559	100	7822	100

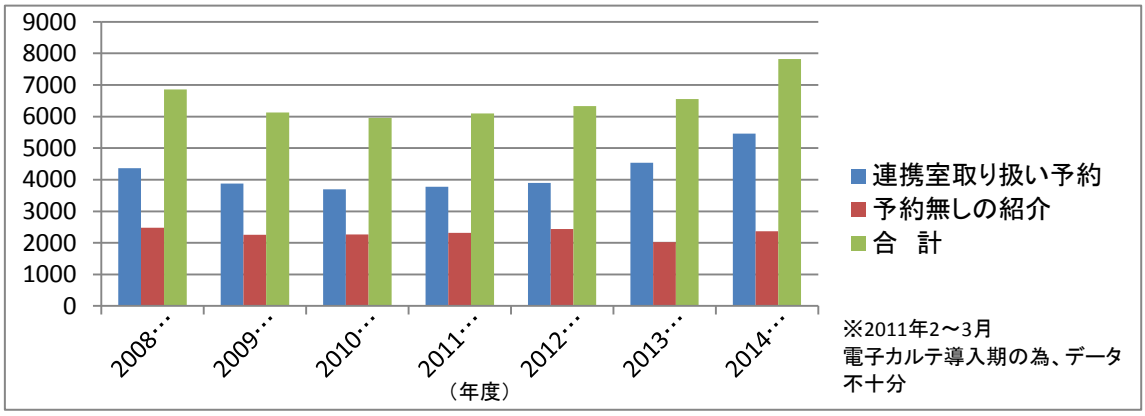
連携室の取り扱い（予約件数）は約 70%で、地域の医療機関に活用されています。

当院の連携室のもう一つの特徴に、病床管理があげられます。各病棟の空床状況を把握していますので、入院依頼についてもすぐに対応することができます。

御紹介頂いたその日の入院は、紹介の約 60%です。

紹介総数

年　度	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
連携室取り扱い予約	4367	3874	3694	3778	3900	4538	5458
予約無しの紹介	2482	2258	2266	2320	2435	2021	2364
合　計	6859	6132	5960	6098	6335	6559	7822



２．紹介率（%）

	紹介率	逆紹介率
2011 年度	33.0	36.8
2012 年度	32.9	43.4
2013 年度	40.2	58.7
2014 年度	46.6	102.3

3．奇兵隊ネットによるカルテ開示数

	施設数	総開示数
2013 年度	8	101
2014 年度	17	418

４．相談件数（退院調整を含む）

	相談総数	がん相談
2014 年度	6164	472

医療安全対策室

【概要】

医療安全を組織横断的に推進するために、平成 19 年４月１日「医療安全対策室」を設置した。医療事故の未然及び再発防止と発生時の適切な対応を図るため、システムやマニュアルの整備、医療安全に係る研修の企画・運営、各部門間の調整（調査）を中心になって行っている。

医療に関する患者からのクレームや有害事象発生時の対応では、医療安全対策室は患者と医療者を結ぶ医療対話推進者としての役割を求められている。

チーム医療と医療安全推進のためにはよりよいコミュニケーションは不可欠であり、当院においても院内コミュニケーションの改善の必要性は高い。そのため、平成 26 年度も安全管理委員会の年間目標を昨年度に引き続き「院内コミュニケーションの更なる改善」とした。目標達成のため医療安全対策室が核となって、教育・実施・評価までを関与した。

また、平成 26 年度からは毎朝室員（夜勤者を除く）によるミーティングとカンファレンスを行い、情報の共有とタイムリーな対応に努めた。

【医療安全対策室の構成】

室長：前田博敬（副院長）
室長補佐：河田うしを（副看護部長）
室長補佐：吉川英俊（事務部次長）
専従リスクマネージャー：大久保典子（主任看護師）
室員：大平佳子 産科・小児病棟師長
山中裕子 産科病棟主任看護師
吉田英子 ５階東病棟主任看護師
三隅美津枝 放射線部技師長
城山恵介 医事グループ主任（室員全員兼任）

【基本理念】

「みて　きいて　かんじて」

【基本方針】

１）患者の安全を最優先に考える
２）患者と医療従事者との対等な関係を築く
３）院内の安全文化の向上
４）組織全体のシステムの整備

【平成 26 年度の主な活動】

①医療安全対策室だより」３回発行

②医療安全院内巡視（看護部ＭＲＭ委員会合同・感染ラウンド・転倒転落防止啓発ラウンド他）

③研修の企画・運営（後記）：21 回開催

開催日	テーマ	講　師	参加者
H26.4.30	エコーガイド下血管穿刺法	池内 忠氏(コビィディエンジャパン株式会社)	医師 6 名 看護師 2 名 臨床工学部2 名 医大生 1 名
H26.5.2	肺血栓塞栓症～IPC と ES の使用について～	池内 忠氏(コビィディエンジャパン株式会社)	H26 年度新採用看護師 40 名
H26.5.8	病院内の自殺予防と事故後対応	河西 千秋氏(横浜市立大学教授)	132 名
H26.5.19	知って得する文書のこと	岩本 秀樹氏(医事グループ長補佐)	52 名
H26.5.23	コメディカルのための BLS 講習会	院内 BLS 講習会チーム	7 名
H26.6.10 H26.7.9	知って得するインスリンのこと	松原 友里絵氏(日本イーライリリー株式会社)	114 名
H26.6.12	医療の場のコミュニケーション	日下 隼人氏(武蔵野赤十字病院前副院長)	149 名
H26.6.30 H26.7.14	医療安全とコミュニケーション第１回　総論「奥深きコミュニケーション」	大江 和人氏(田辺三菱製薬株式会社)	183 名
H26.8.19 H26.9.5	医療安全とコミュニケーション第２回　各論「コミュニケーションを確実にするツール(SBAR 他)」	大江 和人氏(田辺三菱製薬株式会社)	183 名
H26.9.11	医療安全・がん看護合同研修会「CV ポートについて」	中村 雅淑氏(住友ベークライト株式会社)	―
H26.10.3 H26.11.17	医療安全とコミュニケーション第３回　各論「SBAR の復習と CUS・２チャレンジルールなど」	大江 和人氏(田辺三菱製薬株式会社)	129 名

開催日	テーマ	講　師	参加者
H26.10.8	放射線安全委員会・医療安全合同研修会「知って得する CT 造影剤のこと」	佐治 靖弘氏(バイエル薬品株式会社)	88 名
H26.10.29	糖尿病患者さんを主体的にする対話術―糖尿病コーチング―	松本 一成氏(佐世保中央病院糖尿病センター長)	73 名
H27.2.12	第 11 回リスクマネジメント大会インシデント事例より分析、改善発表・茶番劇　医療安全対策室よりトピックス報告	―	93 名
H27.2.19	知って得する RI～放射線は危険なの？～	柴崎 僚氏(日本メジフィジックス)	54 名
H27.3.19	注目される医療安全	大江 和人氏(田辺三菱製薬株式会社)	70 名
H27.3.23	伊奈 Dr による糖尿病研修会 低血糖？こんな時どうする？	伊奈 雄二郎氏（当院循環器内科）	63 名

④患者クレーム対応

⑤院内 BLS 講習会：3 回／年開催、　山口トレーニングサイト誘致 1 回（BLS・ACLS）

⑥医療安全に関する院内研修会講師（研修医・新人看護師・看護助手・看護学生への研修会）等

開催日	内　　容	講　師
H26.4.1	新任職員（医師）医療安全研修	前田博敬(副院長)
H26.4.2	新人オリエンテーション　医療安全研修会	大久保典子 (専従リスクマネージャー)
H26.4.8	研修医早朝講義　医療安全	前田博敬(副院長)
H26.5.1	看護助手対象　医療安全研修会 「知っておきたい医療安全の知識」	大久保典子 (専従リスクマネージャー)
H26.7.1	7 月採用者新人オリエンテーション	〃
H26.7.29	看護パート職員・看護助手対象「接遇って何…？」	〃
H26.9.1	9 月採用者新人オリエンテーション	〃
H27.1.5	1 月採用者新人オリエンテーション	〃
H27.2.2	2 月採用者新人オリエンテーション	〃

開催日	内　　容	講　師
H26.1.15	外来パート看護職員対象 医療安全研修「医療安全とインシデント報告」	〃
H26.1.29	外来パート看護職員対象　医療安全研修 「クレーム対応と記録」	大久保典子 (専従リスクマネージャー)
H26.11.5	臨地実習事前オリエンテーション（ウエストジャパン看護専門学校） 「医療安全研修」	〃
H26.11.12	体験学習（山口県立長府高等学校）「医療安全って？」	〃
H26.12.18	臨地実習事前オリエンテーション（ウエストジャパン看護専門学校） 「医療安全研修」	〃
H27.1.29	臨地実習事前オリエンテーション（下関看護専門学校） 「医療安全研修」	〃

⑦調査

・肺血栓塞栓症リスク判定と予防策の指示出し調査（3 回／年　定点調査）

・弾性ストッキングによる皮膚トラブル発生状況（9 月、10 月）

・「救急現場における自殺企図者への対応状況調査」（山口県医師会）協力

（平成 26 年 10 月 20 日～平成 27 年 2 月 20 日）

⑧院外研修への参加

開催日	内　　容	会　場	主　催	参加者
H26.6.28・29	医療安全全国共同行動 2014 キックオフセミナー	国立オリンピック記念青少年総合センター（東京）	一般社団法人医療安全全国共同行動	大久保典子
H26.7.19・20	ImSAFER 研修会(基礎編)(ヒューマンエラー事例分析)	自治医科大学（栃木）	ImSAFER 研修会	大久保典子
H26.8.29	医療安全管理者養成研修公開講座「安全文化の醸成(コミュニケーションスキル)」「医療安全の基本的知識(事故発生時のメカニズムやヒューマンエラーなどに関する知識)」	山口県看護研修会館	山口県看護協会	大久保典子

開催日	内　　容	会　場	主　催	参加者
H26.8.23,24 H26.8.29,30 H26,9.6,12,13	医療安全管理者養成研修（45時間）	山口県看護研修会館	山口県看護協会	山中裕子 吉田英子
H26.8.23,24, H26.9.27,28 H26.10.25,26	平成 26 年度　医療事故・紛争対応人材養成講座	九州大学医学部百年講堂	医療事故・紛争対応研究会	前田博敬
H26.9.10	第 1 回下関・長門・萩ブロック医療安全管理者交流会	下関医療センター	山口県看護協会	大久保典子
H26.10.11	医療事故・紛争対応研究会九州・沖縄セミナー 「安全活動と職種間連携・コミュニケーション」 「医療事故調査の現状～今後の展開を見すえて」	九州大学医学部百年講堂	医療事故・紛争対応研究会	大久保典子
H26.10.12　～14	臨床コーチング実習研修 2014 秋季―臨床現場における人材育成の新技術―医療安全認定コーチ資格取得	京都大学医学部創立百周年記念芝蘭会館	国際医療リスクマネジメント学会	大久保典子
H26.10.27	第 1 回下関ブロック医療安全管理者交流会	下関医療センター	山口県看護協会	大久保典子
H26.11.17,18 12.7～9	平成 26 年医療安全ワークショップ	広島国際会議場・広島県合同庁舎	厚生労働省中国四国厚生局	大久保典子
H26.12.16	第 2 回下関ブロック医療安全管理者交流会	下関医療センター	山口県看護協会	大久保典子
H27.1.18	医療メディエーション、医療コンフリクト・マネジメント	山口県看護研修会館	山口県看護協会	河田うしを
H27.1.28	要保護児童対策地域協議会ネットワーク部会研修	下関市リサイクルプラザ「しものせき環境みらい館」	山口県下関児童相談所	大久保典子
H27.2.6	平成 26 年度医療安全管理者養成研修修了者 フォローアップ研修	山口県看護研修会館	山口県看護協会	山中裕子 吉田英子

開催日	内　　容	会　場	主　催	参加者
H27.2.13	苦情・クレーム・悪質クレーム対応研修	損保ジャパン日本興亜ビル（福岡）	損保ジャパン日本興亜リスクマネジメント	前田博敬 大久保典子
H27.2.17	第 2 回下関・長門・萩ブロック医療安全管理者交流会	下関医療センター	山口県看護協会	大久保典子
H27.3.8	医療対話推進者養成セミナー修了者対象メディカルコーチング・チームコーチングセミナー	医療機能評価機構（東京）	医療機能評価機構	大久保典子

⑨院外との交流

平成 26 年 10 月 30 日

医療法人　協愛会　阿知須共立病院

「院内コミュニケーションの改善～当院の取り組み～」　講師：大久保典子

⑩研究活動（雑誌掲載）

論文・症例・原著等	雑誌名等
多職種間の「コミュニケーション・エラー」対策 チーム医療の安全性と安心感を高める	「明日の医療経営を考える」No.24 2014.5　第一三共株式会社
コミュニケーションエラーを減らすカイゼン ～言いたいことが言えない風土がインシデントを引き起こす～	「看護師長の実践！ナースマネージャー」vol.16 2015.1.31 日総研

ドクターズクラーク室

【概要】

医師事務作業軽減のために６名配置されている。

医師事務作業補助体制換算の届出区分　75 対１

科ごとの補助担当者は決まっていない。

【主な業務内容（平成 26 年１月~12 月）】

主　な　業　務	件　数
診断書作成補助	6,387
実施済み注射・処方代行入力	48,953
サマリー作成補助	360
外科系・心臓血管外科症例登録補助（NCD）	575
循環器内科症登録補助（J-PCI・J-EVT）	169
心臓血管外科開心術症例登録補助（JACVSD）	57
心臓血管外科術式登録補助	294
手術部位感染データベース登録補助	415
麻酔チャート登録補助（日本麻酔科学会）	1,714

６階西ナース・ステーションにて診断書の作成補助が主な業務であるが、それ以外にも症例登録補助、サマリー作成補助など業務を行っている。

平成 26 年は、J-EVT、麻酔チャート登録補助業務を開始。科ごとの補助担当者が決まっておらず、全依頼科を６人で補助している。

特定の科に関して専門的に知識を深めることは難しいが、それぞれの科でどのような疾患に対する治療や手術が行われているかを広く知ることは出来た。癌に関する症例登録補助では専門的な知識が必要となるため、今後も知識を深めて行く必要がある。

薬事審議会

〔目的・委員〕

当審議会は医薬品の診療上の有効性と安全性及び経済効率を考えた合理的運営を図ることを目的とし、常備医薬品の選定や当院で使用する医薬品の問題を審議する為に設置されている。

当審議会は、院長、副院長 4 名、医局幹事、感染管理委員会代表、医局選出医師 13 名、歯科医師、看護部長、事務部長、事務部 4 名、薬局長、薬剤師 2 名の総数 30 名の委員で構成されている。

〔動向〕

平成 26 年度は、5 月、9 月、11 月、2 月の 4 回審議会を開催し、常備医薬品に 18 品目新規採用し、14 品目を削除した。長期不使用薬や、複数規格、同種同効薬の整理を積極的に行い、採用品目数の適正化に尽くした。なお、後発薬の採用は２品目であった。

〔平成 26 年度　薬事審議会実績〕

	品目数
新規採用	１８品目
削除	１４品目
後発切替	２品目

感染管理委員会

当委員会は患者様や職員の交叉感染を防ぐため活動を行っています。また感染症法上、当院は第2種感染症指定医療機関施設であり、次の新型インフルエンザ等に備えています。かねてより全国で数少ない日本環境感染学会の教育認定施設であり、これを中心とした地域のネットワーク造りの実績から診療報酬における地域連携につながり、現在も地域で中心的役割を果たしています。院内では本年から研修回数を増やし、出前セミナーまで行っています。

また日本感染症学会の教育認定施設であり、本年は通算 5 人目の感染症専門医を輩出しています。さらに日本化学療法学会の抗菌化学療法指導医と認定医を中心に、抗菌薬の届出制に加え、許可制を行っており、アフターケアまで抗菌薬ラウンドにて行い、Antimicrobial Stewardship Program（抗菌薬適正使用）を実践しています。

次から毎月の定例会、感染セミナーおよび業績（発表、論文）について報告します。

１．定例会

毎月、感染情報レポートと抗菌薬使用状況から開始される。（次は月別のトピック。）

開催年月	内　容
2014.1	1) 院内立ち入り者の風疹、麻疹、流行性耳下腺炎、水痘の抗体価検査とワクチン接種：4 月から実施へ。 2) 患者使用のマスク：着用推進する。 3) 新型インフルエンザ：特別措置法で当院が指定地方公共機関に県庁から指定された。
2014.2	1) 新型インフルエンザ等対策行動計画：各方面で議論を積み重ねる。 2) ICU スリッパ：医療法が改正された時に廃止を検討したが、動線の問題で残っている。スリッパでは針を落とすと刺さる。看護師はうち履き的に甲のあるシューズなどへ。
2014.3	1) 抗菌薬の使用状況：抗菌薬使用密度（＝払い出し量を[定義された１日量・のべ入院数]で割り算）にて毎月、病棟ごとに報告。 2) 感染対策マニュアル・化学療法室：ガイドラインが出ており、発症すると死亡することもあり、B 型肝炎再活性化も含めた。 3) 26 年度レセプト改定：厚労省のサーベイランスが必須となったが、当院では検査部門と手術部位感染（SSI）部門を年来行っていた。逆に義務となった。
2014.4	1) 新型インフルエンザ疑いの受診手順:従来のマニュアルを26年度用に改訂。 2) 26 年度の感染防止研修：強化するため、セミナーを増やし、また「出前」講習など予定する。

開催年月	内　容
2014.5	1）渡航外来：経営会議で承認され、内科外来で 6 月から開始。渡航「後」に症状あって通常外来で待合やトイレをトリアージする必要あり。 2）結核：6 年前、気胸術後 3 ヶ月で空洞が生じ、ガフキー9 号→転院先で 8 日目に死亡→2 ヶ月目に多剤耐性結核（MDR－TB）判明した例あり、菌株を水平感染分析のため保持するにはバイオテロ対策の感染症法で公安に届ける施設となっている。
2014.6	1）歯科外来ハンドピースの管理について 2）感染防止対策合同カンファレンスおよび相互ラウンド:6 月 3 日の受審結果の報告を行い、改善点を示す。
2014.7	1）感染防止対策地域連携の相互評価における山口県済生会下関総合病院への訪問
2014.8	1）中心静脈（CV）カテーテルのサーベイランス：当初案で９月実施予定だったが、修正案を今回提出。これを医師の２会議、看護師長会へ説明し、１０月実施へ。
2014.9	1）法律改正：カルバペネム耐性腸内細菌など発症例は届出となる。担当医に発症しているか、MRSA 同様サーベイランス→発症なら届出を監視へ。 2）中東呼吸器症候群（MERS）患者受け入れ：8 月下旬、保健所から第２種感染症指定医療機関にて協力医療機関の依頼状あり。小委員会で検討し、社会的責務として受諾
2014.10	1）6 病院合同カンファレンス：市内５病院の抗菌薬使用密度（AUD）について報告。A 病院では血液培養検査のあり方、抗 MRSA 薬やカルバペネム系など広域抗菌薬の使用に関し施設で偏在あり 2）結核接触者対応：腸閉塞で入院例で判明し、緊急小委員会開き、T スポット採血している。結核病学会ガイドラインでは８週目だけでも記載だが、健康な中高年者で陽性率高いのでコントロール値のため。
2014.11	1）結核接触者対応： 12 月 8 日の週に 2 回目うけてもらい、陽転者あればイスコチン内服の可能性。 2）エボラウイルス疾患対応：下関市における対応フローも通知された。これらを参考に当院のフロー図を作製。
2014.12	1）手指衛生など 2）結核接触者対応： T スポット 2 回目採血を実施、1 名陽転、潜在結核届出し対応。

２．感染セミナー

開催日		テーマ
5 月	2 日	1 東病棟での感染対策
	2 日	N95 マスクの着用
	7 日	結核について
	14 日	整形外科における感染症対策、特に MRSA
	19 日	TV 付き床頭台など感染対策
	20 日	感染管理
6 月	4 日	尿路感染、血流感染
	4 日	感染管理レクチャー
	5 日	春の感染防止講演会【九州大学グローバル感染症センター長による】
	11 日	感染防止の基本
	26 日	師長会研修
7 月	1 日	医局会研修
	3 日	結核について【山口宇部医療センター医師による】
	17 日	結核の診断と治療
8 月	4 日	結核の診断と治療
	5 日	尿路感染防止
	11 日	抗菌薬について
	15 日	クロストリジウム・ディフィシル感染症
9 月	8 日	手指衛生
	30 日	感染防止の基礎
10 月	1 日	HIV について
	6 日	手指衛生
	17 日	結核管理
	23 日	外来における感染防止対策
11 月	4 日	病院で働く人にとってリスクとなる感染症～予防と対策～
	6 日	脊椎術後感染症経験を生かした予防と治療のストラテジー
	20 日	血流感染防止
	26 日	血流感染防止
	26 日	感染防止の基礎
12 月	2 日	感染防止の基礎
	5 日	ノロウイルス感染症
	18 日	秋の講演会　ヒヤリハットと予防接種の最近の話題【川崎医科大学小児科教授による】
	25 日	感染防止対策の基本

３．業績集 ＜発表＞

開催年月日	演　題　名	演　者	共同演者	学　会　名	場所
2014.02.15	6 施設合同調査からみた個人防護具の使用および手指衛生の実施状況	浅野郁代	吉田順一、他 7 名	第 29 回日本環境感染学会総会	グランドプリンスホテル高輪
2014.07.13	無菌性髄膜炎および早期乳児のウイルス感染症における髄液所見と検出されたウイルスについて	河野祥二	大西佑治、東良紘、綿野友美、大賀由紀、岡本玲子、村田祥子、戸田昌一、調恒明	第 124 回日本小児科学会山口地方会平成 26 年度山口県小児科医会総会特別講演	ＡＮＡクラウンプラザホテル宇部
2014.12.04 ～ 2014.12.05	ランチョンセミナー3『脊椎術後感染症：経験を活かした予防と治療のストラデジー』	山下彰久		第 27 回日本外科感染症学会総会学術集会	東京コンファレンスセンター
2014.12.04 ～ 2014.12.05	ランチョンセミナー３『脊椎術後感染症：経験を活かした予防と治療のストラデジー』	吉田順一	［司会］	第 27 回日本外科感染症学会総会学術集会	東京コンファレンスセンター
2014.12.04 ～ 2014.12.05	入門講座 17 論文発表の方法： 第 7 回 SSI サーベイランス研究会でのテーマ『サーベランスを論文にしよう』	吉田順一	井上政昭、鈴木宏往、石光寿幸、宮竹英志、中原千尋、山下彰久、篠原正博	第 27 回日本外科感染症学会総会	東京コンファレンスセンター

業績集＜論文＞

論文・症例・原著等	著　者	共同著者等	雑誌名等	発行所
整形外科領域における予防投与抗菌薬 －脊椎外科を中心に－	山下彰久	吉田順一	日本外科感染症学会雑誌 11 巻 1 号 2014　35 頁～42 頁	日本外科感染症学会
Nosocomial spread of methicillin-resistant Staphylococcus aureus with β-lactam-inducible arbekacin-resistance	Yukiko Harada	YongChong, Nobuyuki Shimono, NorikoMiyake, Yujiro Uchida, Masako Kadowaki, Koichi Akashi and Shinji Shimoda	Journal of Medical Microbiology 2014	Society for General Microbiology
Does antimicrobial use density at the ward level influence monthly central line-associated bloodstream infection rates?	Junichi Yoshida	Yukiko Harada, Tetsuya Kikuchi, Ikuyo Asano, Takako Ueno, Nobuo Matsubara	Infection and Drug Resistance 7 巻 2014 331 頁～335 頁	Dove Press

保険委員会

保険委員会では、病院の経営上最も重要な収入である診療報酬の保険請求について、毎月１回会義を開催し、検証、検討を行なっている。

主な活動として、保険請求を行った診療のうち、減点査定されたものに対し査定の適否を検討し、不当と思われる査定に対しては、審査支払機関へ再審査を依頼している。

また、減点査定一覧表を各医師に配布することで審査の動向を把握し、適宜減点査定されないよう注意喚起を行なっている。

なお、平成２６年度の診療報酬保険請求査定減点状況は以下のとおりであり、外来診療及び入院診療の査定減は、件数、点数の何れも前年を下回っており、良好な成績であった。

社会保険審査支払基金及び国保連合会では、査定の強化、厳正化を進めており、当院としても請求前点検の実施強化など、引き続き、査定減の縮小化に向け取り組む必要がある。

【査定減点数】

（件数）

	外来	入院	合計
4 月	195	297	492
5 月	185	428	613
6 月	175	358	533
7 月	127	330	457
8 月	166	236	402
9 月	152	332	484
10 月	158	255	413
11 月	132	257	389
12 月	148	261	409
1 月	155	324	479
2 月	130	275	405
3 月	268	318	586
合計	1,991	3,671	5,662
前年	2,257	3,706	5,963

【減点率】

（%）

外来	入院	合計
0.23	0.73	0.60
0.16	0.72	0.60
0.45	0.67	0.62
0.18	0.43	0.37
0.21	0.25	0.24
0.17	0.21	0.20
0.26	0.28	0.27
0.20	0.44	0.38
0.33	0.43	0.41
0.22	0.29	0.27
0.37	0.30	0.32
0.37	0.55	0.51
0.26	0.44	0.40
0.29	0.59	0.52

輸血療法委員会

【構成】

委員長：上野　安孝　副院長

委　員：１３名（医師、看護師長、看護師、臨床検査技師、薬剤師、事務局より構成。自己血責任医師２名、学会認定自己血輸血看護師２名、認定輸血検査技師１名および医療安全対策室専従リスクマネージャーを含む）

【活動状況】

今年度は院内における輸血療法の安全性向上を目標として活動を行った。特に自己血貯血・輸血の推進と環境整備、緊急輸血に関する体制の構築に重点を置き、年間６回の委員会を開催して活発な協議を行った。

（主な協議内容）

１．血液製剤の依頼・使用状況に関する報告
２．適正使用に関する啓蒙活動
３．自己血貯血・輸血件数の増加に伴う諸問題への対応
４．緊急輸血への対応
５．異型適合血輸血への対応
６．輸血依頼に関する諸問題への対策
７．輸血前後感染症検査実施の啓蒙活動
８．大量輸血・易出血傾向症例への対応・症例検討
９．インシデント事例の検証と再発防止対策
１０．輸血療法委員会運営規約の改正

【輸血療法関連実績】

１．血液製剤等使用量　（平成２６年４月～平成２７年３月）

輸血依頼総件数	2,197 件	
輸血患者数（年通算）	653 名	
血液製剤総使用量	9,100 単位	（3,370 本）
赤血球製剤（Ir-RCC-LR）	3,302 単位	（1,654 本）
新鮮凍結血漿（FFP -LR）	1,276 単位	（638 本）
血小板製剤（Ir-PC-LR）	3,780 単位	（378 本）
自己血（貯血式）	742 単位	（700 本）
自己血（回収式）	102,679mL	（165 件）
アルブミン製剤	7,230,0g	（659 本）

２．貯血式自己血貯血量　（平成２６年４月～平成２７年３月）

症例数	213 例	
自己血貯血量	775 単位	（710 本）

３．輸血管理料

前年に引き続き、輸血管理料（Ｉ）および適正使用加算（Ｉ）の算定条件を十分に満たしている。同種血輸血については、１人当たりに対する輸血量は減少しているが、全体的に症例数が増加していること、また自己血輸血のみ使用する手術症例数が増加したことより、算定件数は昨年度よりも増加し、920 件が対象となった。また、今年度より新設された自己血管理加算も算定条件を満たしており、対象件数は 198 件であった。

【副作用監視状況】

１．輸血副作用報告

輸血副作用ガイドライン（日本輸血・細胞治療学会）に沿って、症状を１７項目に分類、製剤ごとの報告とした。輸血中・後の副作用報告は 67 件、いずれも非溶血性副作用のみで、中等度以上と判定されたものはなく、術後の発熱等と鑑別ができないものが主体であった。

対象製剤種		RCC	FFP	PC	自己血	計
対象製剤本数		25	3	16	23	67
症状項目		報告数（重複あり）				
1	発熱	20	1	1	19	41
2	悪寒・戦慄	2	1	0	0	3
3	熱感・ほてり	3	1	0	0	4
4	掻痒感・かゆみ	0	0	7	1	8
5	発赤・顔面紅潮	0	1	1	0	2
6	発疹・蕁麻疹	1	1	1	15	18
7	呼吸困難	0	0	0	3	3
8	嘔気・嘔吐	0	0	0	3	3
9	胸痛・腹痛・腰背部痛	0	0	0	0	0
10	頭痛・頭重感	1	0	0	0	1
11	血圧低下	0	0	0	0	0
12	血圧上昇	1	0	0	0	1
13	動悸・頻脈	0	0	0	0	0
14	血管痛	0	0	0	0	0
15	意識障害	0	0	0	0	0
16	赤褐色尿（血色素尿）	0	0	0	0	0
17	その他	1	0	0	1	2

２．輸血前後感染症マーカー検査

厚生労働省「輸血療法の実施に関する指針」「血液製剤等に係る遡及調査ガイドライン」にのっとり、輸血前感染症マーカー検査 502 件、輸血後感染症マーカー検査 69 件を実施した。輸血後肝炎をはじめとした感染性輸血副作用は認められなかった。

３．遡及調査

日本赤十字社からの通知による遡及調査対象は４件であった。

前年度同様、すべて日本赤十字社の献血者血液適合判定基準引き上げに伴うものであり、受血者の健康被害につながるものは認められなかった。

当該製剤の調査対象期間が平成 14 年～平成 24 年と長期間に渡るものであったが、輸血用血液製剤の使用記録保管と検索システムの強化により、すべての製剤において使用状況を追跡することが可能であった。

【その他の活動】

１．教育活動

院内職員を対象に、輸血療法に関する研修を行い、輸血療法委員会委員がその教育活動に講師として参加・協力した。

輸血に関する新人看護師研修	主任　看護師 学会認定自己血輸血看護師 副主任　看護師 学会認定自己血輸血看護師	永井　千春 田村　將子
自己血採血に関する実技指導	主任看護師 学会認定自己血輸血看護師	永井　千春
輸血検査に関する注意点	主任　臨床検査技師 認定輸血検査技師	大薗　優子

２．対外活動

（１）山口県輸血療法委員会合同会議への出席

山口県健康福祉部薬務課主催の山口県輸血療法委員会合同会議へ出席し、山口県内の献血および血液製剤の供給・使用状況について協議を行った。

（２）輸血用血液の供給に関する懇談会への出席

山口県赤十字血液センター主催の懇談会へ出席し、中四国ブロック赤十字血液センターの広域運営体制に関する諸問題、および山口県赤十字血液センター西部供給出張所（下関市・山陽小野田市を管轄）による血液製剤供給体制に関する問題点について、県内医療機関の代表者とともに協議した。

（３）各種調査への協力

厚生労働省をはじめとする種々の輸血療法関連調査について、調査協力および回答を行った。

遡及調査と使用状況・受血者情報調査	日本赤十字社
血液事業の広域運営体制に関する調査	日本赤十字社
輸血療法の実施に関する調査	山口県健康福祉部薬務課
山口県における供給体制変更に関する調査	山口県赤十字血液センター
山口県輸血療法委員会合同会議事前調査	山口県健康福祉部薬務局
血液製剤使用実態調査	厚生労働省医薬食品局血液対策課
輸血業務に関する総合的調査	厚生労働省医薬食品局血液対策課
輸血製剤年間使用量に関する総合的調査	厚生労働省医薬食品局血液対策課

治験審査委員会

【目的】　医薬品の臨床試験の実施に関する省令(GCP)により病院長による設置が義務付けられ、治験依頼者（製薬会社）が立案した治験計画が、科学的、倫理的及び医学的に適正であるか、さらに被験者の立場に立ち、その治験の実施の妥当性等、治験を実施するにあたり必要な事項について審議する。

【委員構成】
医師３名、薬剤師１名、看護師１名、事務局職員２名、外部委員２名の計９名

【平成２６年度開催実績】　年１２回

【平成２６年度実積】　昨年度から実施の治験に加えて Clostridium difficile 感染症に対する OPT－80 および市中肺炎に対する T－4288 が新規に承認され開始、また、以前実施した腰椎椎間板ヘルニアに対する SI－6603 の臨床研究の実施の適否について審議した。

治験名称	依頼会社名	診療科
【調査】原発性骨粗鬆症に対する HC-58 の第Ⅲ相臨床試験のがんに関する追跡調査	旭化成ファーマ株式会社	整形外科
【臨床研究】コンドリアーゼ(SI-6603)臨床研究	メビックス株式会社	整形外科
C.difficile 感染症に対する抗菌薬治療を受けている患者を対象とした MK-6072（C.difficile トキシン B に対するヒトモノクローナル抗体)及び MK-3415A(C.difficile トキシン A 及びトキシン B それぞれに対するヒトモノクローナル抗体)の単回投与による有効性、安全性及び忍容性についての第Ⅲ相二重盲検無作為化プラセボ対照試験(MODIFYⅡ)	ＭＳＤ株式会社	感染管理室（呼吸器外科）
原発性骨粗鬆症による急性期脊椎圧迫骨折に対する SJ-11001-A と SJ-11001-B の安全性及び有効性を評価する多施設共同治験	ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社 メディカルカンパニー	整形外科
日本人の MRSA 感染症（皮膚・軟部組織感染症又はそれに伴う敗血症）患者における BAY 1192631 の有効性及び安全性についてリネゾリドと比較検討することを目的とした多施設共同、前向き、実薬対照、無作為化、非盲検比較試験	バイエル薬品株式会社	感染管理室（呼吸器外科）

治験名称	依頼会社名	診療科
OPT-80 第３相試験　－ Clostridium difficile 関連下痢症患者(CDAD)を対象としたバンコマイシン(VCM)対照二重盲検無作為化並行群間比較試験 －	アステラス製薬株式会社	感染管理室（呼吸器外科）
市中肺炎患者を対象としたＴ-4288 の臨床第Ⅱ相試験 －ランダム化、多施設共同、二重盲検試験－	富山化学工業株式会社	感染管理室（呼吸器外科）

なお、GCP 第２８条により、治験業務手順書、治験審査委員会委員名簿、治験審査委員会の審議概要を平成２１年４月から当院のホームページで公開している。

検体検査管理委員会

【精度管理調査】

平成 26 年度、日本臨床衛生検査技師会、日本医師会をはじめ、多くの精度管理調査に参加した。

日本臨床衛生検査技師会の成績は、臨床化学、免疫血清、微生物、一般、病理、細胞、血液、輸血、生理において 99.1%であった。日本医師会の成績は、総合標点 98.9 点であった。

また、会議を平成 27 年 1 月 27 日に開催し、精度管理調査成績報告を行った。

主な院内精度管理

生化学検査	:	市販コントロール血清（毎日）
血清学検査	:	市販コントロール血清（毎日）
一般検査	:	市販コントロール試料（毎日）
血液検査	:	市販コントロール試料（毎日）
血中薬物検査	:	市販コントロール血清（1 回/週）
血液ガス分析検査	:	市販コントロール試料（1 回/週）
凝固線溶検査	:	市販コントロール血漿（毎日）
輸血関連検査	:	市販コントロール試料（毎日）

外部精度管理

日本臨床衛生検査技師会精度管理調査			(1 回/年)
日本医師会精度管理調査			(1 回/年)
血液学的検査	:	QAP (シスメックス　2 回/年)	
	:	山口県臨床検査技師会サーベイ	(1 回/年)
生化学的検査	:	QAP (シスメックス　1 回/月)	
	:	山口県臨床検査技師会サーベイ	(1 回/年)
微生物学的検査	:	山口県臨床検査技師会サーベイ	(1 回/年)
組織・細胞検査	:	日本細胞学会精度管理調査	(1 回/年)
	:	山口県臨床検査技師会サーベイ	(1 回/年)
輸血検査	:	山口県臨床検査技師会サーベイ	(1 回/年)
生理検査	:	山口県臨床検査技師会サーベイ	(1 回/年)

上記以外にも、多くのメーカー精度管理を実施、参加した。

【検体検査管理加算】

当院は、検体検査管理加算Ⅱを届出ている。

【精度保証施設認証】

一般社団法人日本臨床衛生検査技師会が認定している「精度保証施設認証」を、2014 年 4 月 1 日より 2 年間（2 年更新）、精度保証施設として認証を受けている。

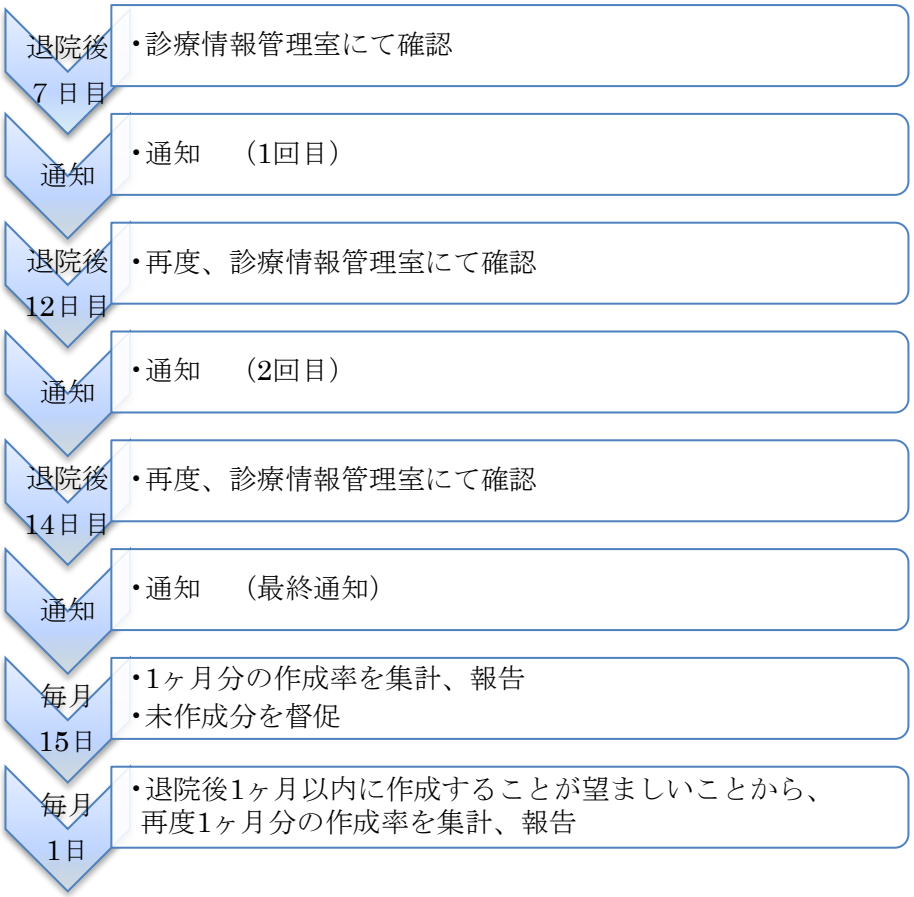
診療録管理委員会

当委員会は診療録の管理に関する諸問題を解決するための活動を行っている。

未整理カルテの把握や督促を行い、定期的に委員会を開催し必要に応じ、他の委員も出席し方針や決定事項を確認している。

平成 26 年度の診療報酬改定により診療録管理体制加算Ⅰが新設されたため、6 月より診療録管理体制加算Ⅰの算定を開始した。

なお、下記のとおりが運用フローである。



安全管理委員会

1.安全管理委員会（毎月第４水曜日開催）12 回／年開催

医療事故を防止するためには、医療に係る各職員がその必要性と重要性を自分の課題と認識して事故防止に努め、医療の質の向上を図るとともに事故防止体制を確立することが必要である。この目的に鑑み、当委員会は平成 14 年に発足し、以下の５つの部会　１）リスクマネジメント部会　２）インシデント事例検討部会　３）各種ワーキングチーム　４）ヒヤリ・ハットミーティング　５）医療案件検討部会を基盤としている。

平成 26 年度の安全管理委員会の大目標として､｢院内コミュニケーションの更なる改善」中目標として「多職種を交えたブリーフィング・デブリーフィング」を掲げ、関わりのある多職種で小目標と具体的行動を決め取り組んだ。医療安全推進のためには、院内コミュニケーションの改善が不可欠であるという考えのもと、「松本宣言」を病院全体で実践することを推奨し、スタッフ間の円滑で積極的なコミュニケーションの醸成を目指した。各部署の目標と評価はホームページに掲載した。

医療安全対策室を活動母体としては、以下のことを行った。

平成 26 年度に実施したマニュアルや手順書の改定承認済みは以下の通りである。

〇身体抑制の説明と同意書改定
〇身体抑制の方法の説明書改定
〇自殺企図患者の入院受け入れに関するマニュアル改定
〇暴言暴力等要注意患者のカルテ表記
〇インスリン表改定
〇説明書・同意書・承諾書の様式の統一（各科文書作成内のもの）
〇離院・離棟時の患者捜索手順改定
〇予防タミフル投与に関する同意書
〇当院における薬品のチェック管理対象薬の変更
〇麻薬・向精神薬・毒薬・全身麻酔薬の管理運用マニュアル改定
〇麻酔に関する説明と同意書（当科説明用）
〇麻薬運用内規改定
〇急変時の対応確認書
〇急変時対応の説明と同意書
〇説明と不同意書

安全管理委員会主催の講演会は次のとおりである。
その他の研修会は、医療安全対策室より報告する。

【医療安全講演会】

①平成 26 年 5 月 8 日
「病院内の自殺予防と事故後対応」　（参加者 132 名）
講師：横浜市立大学教授　河西　千秋氏

②平成 26 年 6 月 12 日
「医療の場のコミュニケーション」　（参加者 114 名）
講師：武蔵野赤十字病院前副院長　日下　隼人氏

【安全管理委員会目標に関する研修会】

①平成 26 年 6 月 30 日・7 月 14 日　（同一内容）
「医療安全とコミュニケーション」第 1 回目　（参加者 183 名）
総論「奥深きコミュニケーション」
講師：田辺三菱製薬株式会社　大江　和人氏

②平成 26 年 8 月 19 日・9 月 5 日　（同一内容）
「医療安全とコミュニケーション」第 2 回目　（参加者 183 名）
各論「コミュニケーションを確実にするツール（SBAR 他）」
講師：田辺三菱製薬株式会社　大江　和人氏

③平成 26 年 10 月 3 日・11 月 17 日　（同一内容）
「医療安全とコミュニケーション」第 3 回目　（参加者 129 名）
各論「SBAR の復習と CUS・２チャレンジルールなど」
講師：田辺三菱製薬株式会社　大江　和人氏

【リスクマネジメント大会】

平成 27 年 2 月 12 日
「第 11 回　リスクマネジメント大会」
発表部署：事務局・産科小児病棟・医局(研修医)
6 階東病棟・４階東病棟
医療安全対策室よりトピックス報告

２.リスクマネジメント部会（毎月第２木曜日開催）12 回／年開催

安全管理・医療事故防止などに関する重要事項について、院内全部署から選ばれたリスクマネージャーが真剣に討議し、有効な対策を提案し安全管理委員会に議案を提出、決定事項については安全管理委員会よりリスクマネジメント部会および院内に広報した。

インシデント事例報告については、高リスクレベルあるいは発生頻度が多い事例について部会で検討し、部会に通知した。また適宜、インシデント報告の状況を報告した。

３.インシデント事例検討部会（毎月第３金曜日開催）12 回／年開催

提出されたすべてのインシデント・アクシデント報告（ヒヤリハット報告含む）について、安全管理委員会委員長ほか 11 名のメンバーが全事例を確認し、対策の必要度をトリアージしている。取り上げた事例について関連部署で SHEL 分析し、リスクマネジメント部会で報告した。また、ヒヤリ・ハットミーティング報告事例は事例検討部会に還元した。

インシデント・アクシデント報告（転倒転落事故報告含む）の 26 年度集計は後半に示す（平成 26 年４月～平成 27 年３月発生状況および過去３年間の推移）。

４.リスクマネジメント・マニュアル部会

本部会は、医療安全対策室と協力し、リスクマネジメント部会を充実させるための企画立案を行っていく重要な役割を担っている。組織横断的に事故防止のシステム作りに生かしていくマニュアル案の作成が主たる業務である。本年度も、主として各ワーキングチームで取り組んだ。

平成 26 年度は昨年度のワーキングチームを温存し､新たにふたつのワーキングを結成し、現状調査やマニュアルの作成を行った。

① 肺血栓塞栓症／深部静脈血栓塞栓症予防ガイドラインの改正チーム
② ＢＬＳ講習会チーム
③ 転倒転落防止対策チーム
④ 宗教的輸血拒否患者対応ガイドライン作成チーム
⑤ インスリン関連ワーキングチーム
⑥ ご家族が不明の患者に関するワーキングチーム（新規）
⑦ 急変時指示（DNR を含む）に関するワーキングチーム（新規）

５.医療案件検討部会（開催は必要に応じて随時）４回／年

平成 26 年度は緊急案件 4 件を審議検討した。

部会メンバーは、安全管理委員会委員及び関係科・部署の責任者とした。

リスクレベル３以上の事例、または対応に苦慮している事例、他部署から疑義が出た事例について、病院としての考え方、対応のあり方、倫理上の問題を組織横断的に検討した。開催した事例の関連科の医師・看護師からは、有意義な会であったとの評価を得た。

内 1 件は、多診療科による術前カンファレンスとし、各診療科合同での安全な手術の実施につながった。

６.ヒヤリ・ハットミーティング（毎月第１・３月曜日開催）20 回／年

（平成 22 年 11 月より開始）

インシデント・アクシデント報告のうち、リスクレベルの高いもの、早期に対応を要す

る事例、医療上のクレームなどを選択し、幹部職員に報告、早期に指示を得ることを目的として開催している。内容によっては早めの方針決定や医師への周知が必要なものがあり、My-Web や関連会議で周知・確認を行った。また、早期対策の実施につながった。

7.インシデント･アクシデント報告数：1250 件／年（転倒転落を含む）48 件増加

リスクレベル分類の０～５については多くの施設が採用している分類である。

当院では、患者に実施されるものではない医療に関連したクレーム、医薬品の紛失・破損、医療従事者に発生したもの、分類困難なもの等、広く収集するためにリスクレベル 6 を設定している。

平成 26 年度の年間報告数は 1250 件であった。当院での領域別報告数の上位は、１位：処方・与薬・注射、２位：栄養・調理、３位：転倒転落、４位：ドレン・チューブ管理、５位：調剤・製剤（薬局業務）で 2 位、3 位の領域が昨年と入れ替わった。（別項に報告）

【委員会の構成】

委　員　長　：　前田　博敬（副院長・医療安全対策室室長）
副委員長(第一)：　上野　安孝（副院長・医療機器安全管理責任者）
副委員長(第二)：　河田うしを（副看護部長・医療安全対策室長補佐）
委　　員　：　大久保典子（医療安全対策室専従リスクマネージャー）
真弓　武仁（副院長）
坂井　尚二（副院長）
吉田　順一（感染管理室・室長）
金子　武生（医局幹事）
川元　博之（検査部技師長）
湯本ひとみ（看護部長）
松岡　宏　（薬局長・医薬品安全管理責任者）
大津　修一（参与）
吉田　初巳（事務部長）
吉川　英俊（事務部次長・医療安全対策室長補佐）
藤井　智　（経営企画グループ長補佐）
城山　恵介（医事グループ医事班主任）
オブザーバー　：　小柳　信洋（院長）

褥瘡対策委員会

【目的】　入院患者様に安全で快適な療養環境を提供するために、褥瘡予防・治療上における各職種の専門性を生かした対策を検討し、全職員へ周知、徹底させる。

【活動概要】　褥瘡対策委員会は毎月 1 回定期的に開催し、医師・看護師・薬剤師・管理栄養士および理学療法士等、多職種で構成されており、褥瘡対策に関する協議、症例検討を行っている。NST 運営委員会と合同で委員会を開催し、栄養面から褥瘡の治癒をサポートできる体制を構築している。褥瘡の予防、治癒環境を整えるためにカンファレンス、回診を週に 1 回行っている。

平成 26 年度は「患者に応じたマットレスの選択」を強化目標として取り組んだ。褥瘡発生率の低下にはつながらなかったが、日常生活自立度とマットレスの種類を関連付けて考えるきっかけとなった。また今年度の傾向として、亀背患者の脊椎への褥瘡発生が目立った。理学療法士の介入により安楽なポジショニングを提案し、悪化予防と治癒促進へ貢献できた。

【平成 26 年褥瘡に関する数値】

院内褥瘡発生率　0.07%

＜年間発生数＞

院内発生	105 件
院外発生	94 件

＜疾患別＞

	がん	骨・関節疾患	脊髄疾患	循環器疾患	脳血管疾患	肺炎	その他
院内発生	26 件	28 件	12 件	18 件	5 件	3 件	13 件
院外発生	7 件	9 件	6 件	2 件	8 件	18 件	34 件

＜部位別＞

	仙骨	踵	大転子	腸骨	尾骨	脊椎	その他
院内発生	48 件	31 件	5 件	3 件	2 件	7 件	9 件
院外発生	12 件	13 件	2 件	2 件	2 件	3 件	9 件

＜転帰＞

	死亡	治癒	自宅	転院
院内発生	16 件	51 件	5 件	33 件
院外発生	16 件	43 件	0 件	21 件

【平成 26 年度研修内容】
当院での褥瘡対策
スキンテア
車椅子の種類とトランスファー
創傷治療システム（V.A.C.治療システム）説明会
褥瘡予防
ポジショニング
スキンケアと褥瘡ケア

栄養管理委員会

【目的】

当委員会は、院内における栄養管理業務の円滑な運営と、その質の向上を図ることを目的としている。

【構成】

委 員 長：平　俊明　耳鼻咽喉科部長（栄養管理部長兼務）
副委員長：前田　博敬　副院長
委　　員：医師　３名、主任看護師　３名、主任管理栄養士　１名、事務部　３名

【活動状況】

会議は４回の定例会議を開催した。審議内容は以下のとおりである。

◇平成２６年度運営方針および事業計画の立案

事業計画を実施するための具体的な内容検討を行った。

①嚥下食の献立見直し
②がん患者に多様な料理の提供～にこにこ食とリクエスト食などの対応継続
③デイルーム（食堂）の活用～nico café （ニコカフェ）の開設と運用方法
④外来栄養指導件数の増加に向けて
⑤原材料費の削減

◇新しい濃厚流動食の採用

現在の濃厚流動食の検討、新採用と削除する商品の検討を行った。

◇入院患者の食事アンケート結果について（H26.5 と H26.10）

栄養管理部で行った入院患者に対する年２回の食事アンケートの結果、みんなの声について評価を行った。みんなの声でのデザートスプーンをつけてほしいとの意見あり、購入しデザートやシチューにはつけることとした。

◇給食業務委託について

給食業務の委託業者の今後の契約について、経営コンサルタントの削減額の妥当性、契約時の食数と現在の食数の差、作業人員の削減と人員確保状況を踏まえ検討後、現委託業者（日新医療食品）に４回目の委員会で意見聴取し、委員会としての評価を行った。

◇平成 27 年度予算要求、組織目標について

来年度の組織目標を決め、その運営に必要な経費である食材料費、食器、材料費の計上内容の検討。

このうち、審議内容やその結果により院内への周知が必要な事項については、関係各部所への周知を行った。

広報年報委員会

（対象:2014年1月～12月）

当委員会は(1)広報活動として広報誌「まごころ」とインターネット上の公式サイト、また(2)各部署の年報を編集する任務を果たしています。その他の広報活動を含め26年の活動報告をします。当委員会は診療録の管理に関する諸問題を解決するための活動を行っています。

１．広報活動

① まごころ

原稿を編纂し、3ヶ月ごとに印刷し、近隣病院など300余に発送しています。その際、新聞折り込みのように随時「外科だより」などトピックに合わせたプリントを差し込んでいます。電子版のバックナンバーの一覧はhttp://shimonosekicity-hosp/index61.htmlに掲載しています。26年発刊分からの特集を紹介します。

2月号：脳卒中からあなたを守る！

5月号：腰部脊柱管狭窄症ではありませんか？

8月号：ピロリ菌って何の菌？

11月号：大動脈瘤治療の新しい選択枝～ステントグラフト治療って何だろう～

② インターネット病院ウエブページ

読者の方からみると、(1)閲覧に訪れるウエブページについて更新・運営、(2)メール会員が毎月受け取られる「メールマガジン」の編集を委員会で行っており、双方向性を生かすようにしています。メールマガジンの内容としては更新ページのお知らせと速報を掲載しており、会員ご希望のかたは[下関市立市民病院　メールマガジン]で検索、またはhttp://shimonosekicity-hosp/index71.htmlからご登録ください。なお同ページにて過去のバックナンバーにリンクがあります。

２．年報

従来、紙媒体で「まごころ」のように発刊・配送していましたが、時代の流れに従い、電子化して公式サイトに掲載するように改革しました26年に編纂した25年版は、公式サイトhttp://shimonosekicity-hosp/の検索窓において、[年報]で検索すると各診療科・部署のページにおいて示されます。

３．その他の広報活動

① 院内広報

電子カルテのオンライン上で電子掲示板を運用しており、電子カルテに権限のある職員は発信することができます。また各委員会のマニュアルも格納しており、検索窓から検索することができます。さらに議事録なども掲示する記事において電子ファイルにリンクを貼ることができ、緊急対応においても流言を防ぎ、速報性を高める危機管理のツールとして役立っています。

② 院外広報

公共性の高い情報は、本市の「市報しものせき」においても広報しています。その例として、地域がん診療連携拠点病院としての市民公開講座や、採用情報の案内があります。

衛生委員会

本委員会は、労働安全衛生法の規程に基づき設置される委員会です。

委員会では

１　職員の健康障害を防止するための基本となるべき対策に関すること

２　職員の健康の保持増進を図るための基本となるべき対策に関すること

３　労働災害の原因及び再発防止対策で、衛生にかかるものに関すること

などを調査審議しています。

平成 26 年度も毎月第２金曜日に衛生委員会を開催し、ラウンドで院内の衛生、危険箇所について点検を行い、その対応について協議を行いました。

また、過重労働対策として月に 80 時間以上の時間外勤務を行った職員の疲労度チェックを実施し、必要に応じて産業医の面談を行うこととしています。

その他、平成 25 年７月から実施された敷地内禁煙対策や、平成 26 年９月からは介助者の腰痛を予防することを目的とした腰痛予防対策に取り組み、職員の心のケアを図る目的でメンタルヘルス相談等にも取り組んでいます。

今後も職員の労働安全衛生に取り組んで参ります。

倫理委員会

平成 25 年一年間の倫理委員会開催は９件でした。その中で承認の可否を検討した議題が 12 件でした。結果すべて承認となりました。

最近の傾向として、看護研究や、あるいは例えば採血保存している検体を使った研究など、対象の患者様には全く無侵襲なテーマが増えてきた印象です。いわば、特別なことをする時の倫理委員会ではなくて、日常臨床業務においても常に患者様の立場を考えるためのきっかけとなる倫理委員会でありたいと思います。

研修管理委員会

当委員会は、下関市立市民病院群の臨床研修について具体的な事項の立案・計画を行うことを目的とし、６人の外部委員を含む２８名の委員で構成されている。

平成２６年度のおける活動実績は、次のとおりであった。

１．初期臨床研修医数

（１） 基幹型　１年次　２名

（２） 協力型　１年次　２名（九州大学）

２．協力病院での研修

精神科　（１年次）　下関病院

３．活動状況

（１） 早朝講義（研修医及び院内関係者が受講。内容は別表のとおり）

（２） 研修医合同説明会への参加

レジナビフェア（7/6　大阪、3/1　福岡）

e レジフェア　（6/1　北九州）

（３） 九州大学病院群及び山口大学病院群の病院説明会への参加

（４） 病院見学会（１３回）

平成２６年度　早朝講義日程表

時間　７：５０～８：２０

場所　健康相談室

月日	曜日	講　義　項　目		担　　当
4/7	月	医療人としてのマナー		小柳院長
4/8	火	保険診療	保険医	上野副院長
4/9	水	医療安全	医療安全	前田副院長
4/10	木	基本輸液	外科	石光部長
4/11	金	蘇生法	救急科	中原部長
4/14	月	泌尿器科の救急疾患	泌尿器科	吉弘部長
4/15	火	呼吸不全について	呼吸器外科	井上部長
4/16	水	耳鼻咽喉科のプライマリーケア	耳鼻咽喉科	平部長
4/17	木	輸血について	血液内科	久保医長
4/18	金	ＡＭＩと急性左心不全	循環器内科	金子部長
4/21	月	小児の救急患者対策（１）	小児科	河野部長
4/22	火	小児の救急患者対策（２）	小児科	大西医師
4/23	水	小児の救急患者対策（３）	小児外科	白井医師
4/24	木	皮膚科の救急疾患	皮膚科	内田部長
4/25	金	脳外科から当直の先生へ	脳神経外科	中村部長
5/7	水	急性腹症	外科	篠原部長
5/8	木	消化器病の救急	消化器内科	具嶋医長
5/9	金	心臓血管外科領域の救急疾患	心臓血管外科	恩塚医長
5/12	月	眼科の救急疾患	眼科	登根医長
5/13	火	整形外科的初期治療	整形外科	白澤部長
5/14	水	摂食・嚥下ケア	看護部	高橋認定看護師
5/15	木	産婦人科の救急疾患	産婦人科	川﨑部長
5/16	金	糖尿病の薬物療法	循環器内科	伊奈医師
5/19	月	クスリのリスク	薬局	松岡薬局長
5/20	火	感染管理	感染管理室	吉田部長
5/21	水	胸・腹部単純写真のみかた	放射線診断科	箕田部長
5/22	木	緊急検査のピットホール	検査部	川元技師長 →松尾様
5/23	金	研修医の先生方へお願い	放射線部	三隅技師長
5/26	月	口腔外科領域の救急治療について	歯科	入学部長
5/27	火	感染症について	感染管理室	原田医師
5/28	水	皮膚・排泄ケア	看護部	藤重認定看護師
5/29	木	栄養について	栄養管理部	中川主任

CS 推進委員会

【みんなの声】

CS 推進委員会は、例年のごとく毎月第３水曜日に開催し、「みんなの声」の投書に対する回答を含め、病院の CS に関する改革について検討している。

平成２６年度みんなの声投書数…３０９件

【患者さまアンケート】

平成２６年９月３日と、平成２７年２月４日に、外来患者様と入院患者様に対してアンケート調査を実施した。その結果について小冊子にまとめ、正面玄関の掲示の前にて閲覧できるようにし、病院ホームページで公開した。職員に対しては、院内電子掲示板において広報した。

結果は昨年度とあまり変わらなかったが、施設の老朽化に対する意見が見受けられた。また、患者様から病院について感想を書いてもらったが、高い評価とともに直接的な意見も多く参考になった。

しかしながら、接遇や職員のマナーの問題、患者様の待ち時間の問題もあるため、今後も検討と接遇に関する意識の統一が必要である。

クリニカルパス推進委員会

本委員会は、以下のことを審議・実施することを使命として、活動している。
（１） 新たなクリニカルパスの作成に関する事項
（２） 使用中のクリニカルパスの見直しに関する事項
（３） その他クリニカルパスの推進に関する必要な事項

平成 26 年度の委員会は、委員長：川崎憲欣、副委員長：中村隆治、小戸美智子、下野美奈の他、委員 32 名で構成したが、医師 7 名、看護師 18 名、検査技師 1 名、放射線技師 1 名、薬剤師 1 名、理学療法士 2 名、栄養士 1 名、ソーシャルワーカー1 名、診療情報管理師 1 名、事務 3 名と、多職種から集まっている。

活動内容としては、次のとおりであった。
＃ 月１回の委員会会議
＃ 審査、見直し支援など小委員会に分かれて、適時に活動
＃ それぞれの分担下での、クリニカルパス管理
＃ 大腿骨頸部骨折・脳卒中地域連携パス（下関市の研究会に出席）・がん地域連携パスを通して、地域医療連携に関与
＃ 日本クリニカルパス学会主催の教育セミナー（６月１１日、於；熊本市・済生会熊本病院）に参加（委員の中より５名）。

本年度内に作成された新規クリニカルパスは、４診療科での１１種であったが、既存のパスにも精力的に見直しを行い、整理・改良を加えた。
現在当院で作成・使用中のクリニカルパスは、以下のとおり計１００種・１５診療科であり（昨年度末は、計９６種）、全入院患者の３５～４０％のケースで使用されていた（昨年度は約３０％）。

科	パ　ス	
内　科	糖尿病教育入院	
消化器内科	ポリペク	内視鏡的胃粘膜下層剥離術
	胃瘻造設	
循環器内科	血管造影検査	下肢動脈形成術
	冠動脈形成術	ペースメーカー植え込み術
	ペースメーカー電池交換	

腎臓内科	PET（腹膜機能検査）	内シャントPTA
	内シャント造設術	腎生検クリニカルパス（右穿刺）
	腎生検クリニカルパス（右穿刺）当日入院	腎生検クリニカルパス（左穿刺）
	腎生検クリニカルパス（左穿刺）当日入院	
外　科	ラパコレ	鼠径ヘルニア
	虫垂切除術	腹腔鏡下結腸切除術
	乳房部分切除術	乳房切除術（全摘）
	ＥＲＣＰ	甲状腺全摘術
呼吸器外科	ＣＴ下肺生検	胸腔鏡下肺切除術
心臓血管外科	腹部大動脈瘤人工血管置換術	ストリッピング
	下肢バイパス術	
脳神経外科	両側・慢性硬膜下血腫手術（前日入院）	両側・慢性硬膜下血腫手術（当日）
	慢性硬膜下血腫手術（前日入院）	慢性硬膜下血腫手術（当日）
	脳梗塞	当日アンギオ
	脳血管撮影	頭部外傷経過観察入院
	脳出血（手術なし）	
産婦人科	緊急帝王切開	腹式帝王切開
	初産	経産
	子宮脱	子宮筋腫腹式手術
	子宮癌初期	円錐切除
	腹腔鏡補助下卵巣腫瘍摘出術	
小児科	低身長検査A検査アルギニン負荷	低身長検査B検査４者負荷試験
	インバギ空気整復治療	感染性胃腸炎
	気管支喘息	食物負荷試験
	小児インフルエンザ	免疫グロブリン補充療法
小児外科	２泊３日手術	小児虫垂切除術
整形外科	右ＴＨＡ	左ＴＨＡ
	BKP：経皮的椎体形成術	胸・腰椎圧迫骨折/ｺﾙｾｯﾄ治療
	右大腿骨骨接合術	左大腿骨骨接合術
	右大腿骨人工骨頭置換術	左大腿骨人工骨頭置換術
	抜釘術（上肢）	抜釘術（下肢）
	１泊２日脊髄造影（ミエロCT）	術前入院/脊髄造影(ミエロCT)

整形外科	腰椎後方椎体間固定術	腰椎椎弓形成術
	内視鏡下髄核摘出術	胸椎椎弓形成術
	右 TKA（人工膝関節置換術）	左 TKA（人工膝関節置換術）
	右 UKA（人工膝関節単顆置換術）	左 UKA（人工膝関節単顆置換術）
	右 HTO（下腿骨切り術）	左 HTO（下腿骨切り術）
	右膝関節鏡（半月板縫合）	左膝関節鏡（半月板縫合）
	関節鏡（膝半月板切除）	頸椎椎弓形成術
泌尿器科	前立腺生検	TUR　BT
	TUR　P	
眼　科	右両眼白内障	右片眼白内障手術
	左両眼白内障	左片眼白内障手術
	右眼瞼手術	左眼瞼手術
	右局麻硝子体手術	左局麻硝子体手術
耳鼻咽喉科	扁桃摘出術	内視鏡下副鼻腔手術（両 ESS）
	喉頭鏡下微細手術	眩暈
	鼓膜チュービング術	小児扁桃腺摘出術

ＮＳＴ運営委員会

【目的】

栄養管理はすべての疾患治療のうえで共通する基本的医療の一つであり、栄養管理をおろそかにするといかなる治療もその効力を発揮できず、逆に栄養障害に起因する種々の合併症を発症してしまうことがあります。適切な栄養療法が行われるためには医師、看護師、薬剤師、栄養士、検査技師などの多くの職種が、各々の知識と技能を持ち寄って栄養管理を行っていかなければなりません。栄養管理を症例個々や各疾患治療に応じて適切に実施することを栄養サポートと言い、この栄養サポートを職種の壁を乗り越えて実践する集団（チーム）を NST と言います。当院にもこの NST があり、平成 18 年度より全科型で開始しました。NST は嚥下チームも兼ね合わせ、栄養療法として最善の形で経口摂取が出来ることを目標に関わっています。

平成 26 年度は尾中脳神経外科医長の委員長 3 年目のもと、活動に取り組みました。昨年に引き続き、口腔ケア・摂食嚥下障害看護・経腸栄養グループでの活動を積極的に行うようにしました。各グループでの活動を増やし、目標を挙げ、年間計画を立案し実践・評価を行うようにしました。3 月には、褥瘡対策委員会と合同で各グループ活動の報告会を開催し、委員会のメンバーだけでなく、院内スタッフを交えた活発な意見交換が行われました。

【主な活動内容】

毎月 1 回 委員会を開催

毎週 1 回 回診と症例検討会を開催

3 月にグループ活動報告会を開催

【実績】（2014 年 4 月 1 日～2015 年 3 月 31 日　）

回診　：　患者数　129 名

ボランティア活動

１．概要

平成 12 年 6 月から、市民参加によるボランティア活動開始。

目的は、市民の方のボランティア活動を通して、開かれた病院づくりを目指す。地域の方とのつながりを大切にする。

２．活動について

（１）登録人数　26 名

（ア）活動内容

①　外来ボランティア（月曜日～金曜日の平日、8：45～11：15）

活動人員　11 名

受診科案内、車イス介助、再来受付、代筆など

②　図書ボランティア（毎週水曜日、13：00～14：00）

活動人員　15 名

移動図書「ふくふく文庫」など

（イ）年間活動

①　ボランティア連絡協議会…偶数月　５回／年

②　ボランティア交流会…１回／年

③　「市報しものせき」によるボランティア募集公募…１回／年

出前講座

【平成 26 年度実績】

テーマ	実施日	会　場	参加者数	講師
転倒予防教室	7 月 18 日	青山庵 （大字田倉）	11 人	リハビリテーション部 内田景子理学療法士
転倒予防教室	9 月 30 日	王司公民館	29 人	リハビリテーション部 内田景子理学療法士
腰痛予防教室	1 月 31 日	勤労福祉会館	29 人	リハビリテーション部 宮野清孝主任
親と子のかかわり	2 月 5 日	文関小学校	46 人	看護部小児病棟 久木山久美子副主任